

平成30年度

# 事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

# 目次

## I 組織と業務

1	名称及び所在地	-----	1
2	管轄区域	-----	1
3	職員及び業務	-----	1
4	業務分掌表	-----	1

## II 事業実績

1	農作物有害動植物発生予察事業		
1)	調査の種類及び方法		
(1)	指定病害虫	-----	3
(2)	指定外病害虫	-----	4
(3)	巡回調査ほ場数	-----	5
2)	主要農作物の病害虫発生概況（平成30年産）		
(1)	早期水稻	-----	6
(2)	普通期水稻	-----	6
(3)	カンショ	-----	6
(4)	大豆	-----	6
(5)	ジャガイモ	-----	6
(6)	かんきつ類（露地栽培）	-----	6
(7)	茶	-----	7
(8)	冬春きゅうり	-----	7
(9)	冬春ピーマン	-----	7
(10)	冬春トマト	-----	7
(11)	いちご	-----	8
(12)	秋冬だいこん	-----	8
(13)	サトイモ	-----	8
3)	水稻、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1)	水稻、かんきつ病害の初発日		
ア	水稻	-----	9
イ	かんきつ	-----	9
(2)	予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日	---	9
4)	予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況		
(1)	延岡	-----	10
(2)	佐土原	-----	11
(3)	国富	-----	12
(4)	都城	-----	13

5) フェロモントラップによる誘殺状況	
(1) チャハマキの誘殺状況	1 4
(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	1 6
(3) チャノホソガの誘殺状況	1 8
(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	2 0
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	2 2
(6) コブノメイガの誘殺状況	2 4
6) 果樹カメムシ類の誘殺状況	
(1) 予察灯における誘殺状況	2 5
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	2 9
7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況	
(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	3 3
(2) 発生面積及び防除面積等	3 9
8) 有害動植物発生予察事業実施状況	
(1) 発表情報一覧（警報、注意報、防除情報、特殊報）	4 5
(2) 情報の内容	4 7
2 戦略的イノベーション創造プログラムによる宮崎県における新ウンカ類飛来予測システムの の実用性の検討	8 6
3 特殊病虫害侵入警戒調査事業	
1) ミバエ類侵入警戒調査	8 8
2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	8 9
3) イモゾウムシ侵入警戒調査	9 2
4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	9 2
4 その他の調査、検定等	
1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	9 3
2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	9 5
3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	9 6
4) サトイモ疫病の発生状況調査	9 7
5) 輸出検疫協議の迅速化委託事業	9 8
<b>III その他</b>	
1 病虫害防除員の設置状況	9 9
2 巡回調査ほ場の分布図	1 0 0
<b>IV 平成30年度気象概況</b>	1 0 1

# I 組織と業務

## 1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(兼 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター ※ H23.4～)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

## 2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

## 3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 吉 留 浩	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること 2 病虫害の適正防除指導に関すること 3 病虫害の診断及び検定に関すること 4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること 5 農薬指導取締に関すること 6 農薬安全使用指導に関すること 7 その他植物防疫に関すること 8 肥料の分析及び取締に関すること
副主幹 松 浦 明	
主 査 森 下 勝	
” 黒 木 匠 子	
専門技師 寺 本 敏	
専門技師 福 田 武 美	
非常勤職員 久保(倉永)知佳	
” 今 村 幸 久	
(兼務職員)	
土壌環境部	
副 部 長 永 井 浩 幸	
主任研究員 小 窪 正 人	
主任研究員 杉 田 浩 一	

## 4 業務分掌表

主担当	副担当	分 掌 事 務
吉 留	松 浦	1 病虫害防除肥料検査課の総括に関すること
松 浦	森 下	1 植物防疫および肥料関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察並びに情報作成の総括に関すること 3 農薬取締および肥料取締に関すること 4 各種協議会の総括に関すること 5 全国的なサーベイデータ蓄積及び分析に関すること



主担当	副担当	分 掌 事 務
森 下	松 浦	1 発生予察関連資料の作成に関すること 2 薬品の保管管理に関すること
黒 木	寺 本	1 普通作物等の病虫害発生予察に関すること 2 戦略的イノベーション創造プログラムに関すること 3 特殊病虫害侵入警戒調査対策事業に関すること 4 病虫害診断対策に関すること 5 農薬取締および肥料取締に関すること
寺 本	黒 木	1 果樹・茶等の病虫害発生予察に関すること 2 サトイモ疫病総合防除対策技術に関すること 3 情報ネットワーク保守・管理に関すること 4 病虫害診断対策に関すること 5 農薬取締および肥料取締に関すること
久 保 (倉永)	松 浦	1 野菜等の病虫害発生予察に関すること 2 発生予察関連資料の作成に関すること 3 宮崎方式 I C M技術確立事業に関すること

## Ⅱ 事 業 実 績

### 1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

#### 1) 調査の種類及び方法

##### (1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名 (種類数)
普通作物	イネ	稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズソウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ(15)
	サツマイモ	ハスモンヨトウ (1)
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ(3)
	ダイズ	アブラムシ類(ダイズアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ(3)
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ)、ハダニ類(ミカンハダニ)、果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)(6)
	チャ	炭疽病、チャノホソガ、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、ハダニ類(カンザワハダニ)(4)
野菜	キュウリ	うどんこ病、褐斑病、灰色かび病、べと病、アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ)、ハスモンヨトウ(8)
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ヨトウガ(5)
	トマト	疫病、灰色かび病、葉かび病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)、ハスモンヨトウ(6)
	ダイコン	アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)、ハスモンヨトウ、コナガ、ヨトウガ(4)
	イチゴ	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ヨトウガ(9)

(2) 指定外病害虫

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、ごま葉枯病、白葉枯病、苗立枯病、黄萎病、黄化萎縮病、内穎褐変病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、スクミリンゴガイ、イネシンガレセンチュウ（14）
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラスズメ、ナカジロシタバ（7）
	ジャガイモ	ニジュウヤホシテントウ、葉巻病（2）
	ダイズ	立枯性病害、さび病、紫斑病、葉焼病、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、コガネムシ類（マメコガネ）、マメシクイガ、マメヒメサヤムシ類、食葉性鱗翅目幼虫（ミツモンキンウワバ）（15）
果樹等作物	カンキツ	青・緑かび病、灰色かび病、果樹吸蛾類、コアオハナムグリ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、ロウムシ類（ツノロウムシ）、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ、カイガラムシ類（ヤノネカイガラムシ）（9）
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、チャノミドリヒメヨコバイ、ツカメムシ類（マグロアオカスミカメ）（8）
野菜	キュウリ	疫病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、ウリノメイガ、ウリハムシ、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類、ワタヘリクロノメイガ（14）
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、黒枯病、タバココナジラミ、タバコガ類、チャノホコリダニ、ハダニ類、ヒラズハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ（17）
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、すすかび病、モザイク病、トマト黄化葉巻病（TYLCV）、褐色輪紋病、菌核病、軟腐病、斑点病、輪紋病、ハモグリバエ類（12）
	ダイコン	萎黄病、べと病、モザイク病、炭疽病、軟腐病、キスジノミハムシ、ハムシ類（ダイコンサルハムシ）（7）
	イチゴ	萎黄病、じゃのめ病、菌核病、輪斑病、コナジラミ類（5）
	サトイモ	疫病（1）

## (3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中部	南 那 珂	北 諸 県	西 諸 県	児 湯	東 白 杵	西 白 杵	計
早期水稲	11	6			12	4		33
普通期水稲	5		10	8		10	8	41
ダイズ	1		6					7
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	2		4		4			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	9	3	2			3		17
冬春ピーマン	4	2			6			12
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	3	4			12
サトイモ	2		4	4				10
計	55	20	37	17	41	27	12	209

## 2) 主要農作物の病害虫発生概況（平成30年産）

### (1) 早期水稲

葉いもちの初発生は5月30日で平年よりも遅い発生であった。6月下旬にいもち病に好適な気象条件が数回あったが、その後の気温が高めで推移したことから発生・進展が抑制され、発生量は平年よりやや少であった。

紋枯病は出穂期頃から見られ、成熟期の発生面積率は平年並であったが、発生程度は平年比やや多であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年並、6月中旬の本田での発生面積率は平年に比べてやや多であり（病害虫予察注意報第2号（H30.6.18））、その後の6月下旬の本田での発生面積率及び生息密度も平年に比べてやや多の発生であった（病害虫防除情報第4号（H30.6.29））。

### (2) 普通期水稲

葉いもちは6月中旬から発生が確認されたが、8月にかけて高温少雨の状況が続き発生及び進展が抑制され、8月中旬の発生面積率は平年より少、発病度は平年並であった。

紋枯病は7月中旬の巡回調査から確認され、発生量は期間を通して平年よりやや少なく推移したが、収穫期に発生程度が平年比やや多となった。

セジロウンカは初飛来が平年より早い5月18日で、県内の広い範囲で断続的な飛来が見られたのは7月に入ってからであり、誘殺頭数やや少なく推移した。

トビイロウンカは初飛来が7月5日で平年よりやや遅く、その後は7月10日の飛来を確認したが、7月11日には梅雨空けとなり、県内への飛来回数、飛来量は少なかった。また、8月の好天により計画どおり防除が行われたこともあり、期間をとおして平年より少ない発生であった。

コブノメイガは初飛来が7月29日で前年よりも遅く、飛来回数、飛来量ともに少なく推移した。発生量は期間を通して平年に比べて少の発生であった。

斑点米カメムシ類は8月中旬の巡回調査では平年に比べてやや少の発生であったが、10月中旬の発生程度は平年よりやや多であった。

### (3) カンショ

ナカジロシタバやハスモンヨトウの8月中旬の発生量は平年並の発生であったが、9月中旬の発生量は平年に比べてやや少の発生であった。イモキバガの8月中旬発生量は平年よりやや少であったが、9月中旬の発生量はやや多であった。

### (4) 大豆

べと病の9月（着莢期）の発生面積率は平年よりやや少、発生程度は平年並であり、その後の収穫物調査でも被害粒は平年に比べてやや少の発生であった。

ハスモンヨトウの発生面積率及び程度は期間を通して平年並であった。吸汁性カメムシは9月の発生面積率及び程度は平年よりやや多であったが、10月は平年よりやや少の発生であった。

### (5) ジャガイモ

疫病は、5月中旬の発生量は平年並であった。また、ニジュウヤホシテントウの5月中旬の発生面積率は平年に比べて多く、発生程度はやや多であった。

### (6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病、黒点病の葉および果実での初発生は平年よりやや早く、そうか病（葉）が5月の発生量がやや多かったものの、それ以外は平年並以下の発生であった。かいよう病

は初発生が葉で平年並、果実で平年よりやや遅く、発生量は平年並で推移した。

ミカンハダニの越冬量は平年並～やや少であった。7月までは平年並の発生であったが、その後は少発生で推移した。

果樹カメムシ類のトラップ誘殺数は、チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの2種ともフェロモントラップが平年より少なく、予察灯が平年並であった。

#### (7) 茶

炭疽病はやや少、もち病、輪斑病は平年並の発生であった。

ハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数は、チャノコカクモンハマキがやや少なく、チャハマキ及びチャノホソガが平年並であった。ほ場での発生は、チャノコカクモンハマキ及びチャハマキの発生がやや多い地域が一部でみられた。

カンザワハダニについては、6月に平年並であった以外はやや少～少の発生であった。クワシロカイガラムシは一部園地で6月の発生が増加した時期もあったが、全体的に平年並の発生で推移した。

#### (8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成29年9月から平成30年6月）

べと病は年内の発生は平年並で、年明け以降の発生も平年並～やや少で推移した。うどんこ病は調査を開始した10月から年明け2月まで、発生面積は平年よりやや少～少、発生程度はおおむね平年並みであったが、3月以降は平年並からやや多の発生となった。褐斑病は1月まで発生が見られず、2月以降も平年並の発生であった。黄化えそ病は、年内の発生は前年・前々年より多かったが、年明け以降は少ない発生となった。その他病害については、平年並からやや少の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは栽培当初から平年と比較して発生が少なく、年明け以降発生面積がやや増加したものの、栽培期間を通して平年よりもやや少～少の発生で推移した。タバココナジラミについては、栽培期間を通して発生面積、発生程度ともに平年並～少の発生で推移した。その他虫害についてはおおむね平年並の発生であった。

#### (9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成29年9月から平成30年6月）

斑点病は、初期は平年並の発生であったが、12月から調査終了時（4月）まで、平年より少ない発生で推移した。黒枯病について、初期は平年より多発生であったが、1月以降調査地点では発生が認められなかった。うどんこ病は3月まで平年並～やや少で推移したが4月に入りやや多の発生となった。その他病害については、おおむね平年並の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から発生が少なく、期間を通して平年より少の発生となった。一方、ヒラズハナアザミウマは12月以降の発生面積、発生程度ともに平年より多の発生となった（病害虫防除情報第12号（H30.3.30））。タバココナジラミは、期間を通して平年よりやや多の発生となった。その他虫害については、おおむね平年並の発生であった。

#### (10) 冬春トマト（栽培期間：平成29年9月から平成30年6月）

葉かび病は11月以降発生が多い状態が続き、調査終了時の4月中旬まで発生が多く、平年と比較して多発生となった（平成29年度病害虫防除情報第10号（H29.12.25）、平成29年度病害虫発生予察注意報第1号（H30.4.27））。灰色かび病は、12月に葉での発生を確認して以降、徐々に葉及び果実での発生が拡大したが、全体としては平年並の発生であった（平成29年度病害虫防除情報第10号（H29.12.25）、病害虫発生予察注意報第8号（H30.2.2））。

タバココナジラミは定植直後から発生がみられたが、栽培期間を通して発生は少なく、黄化葉巻病については、10月に発生がみられたものの、その後の発生は確認されず平年並の発生となった。

(1 1) いちご (栽培期間：平成29年9月から平成30年5月)

うどんこ病は定植直後から葉で発生がみられたが、栽培期間を通して平年比少～並の発生であった。

ハダニ類は、おおむね平年並の推移をしたが、11月及び12月の寄生株率は平年よりやや多となった(平成29年度病害虫防除情報第9号(H29.11.29)、病害虫発生予察注意報第7号(H29.12.25))。アブラムシ類は12月に多発生であったが、全体としてはやや少の発生となった。ハスモンヨトウは平年並の発生となった(平成29年度病害虫防除情報第11号(H29.12.25))。

(1 2) 秋冬だいこん (栽培期間：平成29年9月から12月)

秋冬だいこんではモザイク病、べと病、萎黄病いずれも平年並の発生であった。軟腐病は平年よりやや少の発生であった。ダイコンサルハムシ、キスジノミハムシは平年並から多の発生であったが、アブラムシとコナガは平年並～やや少の発生であった。

(1 3) サトイモ (栽培期間：平成30年3月から9月)

サトイモ疫病は、巡回調査において昨年より一月ほど早い6月13日に初確認され、病害虫防除情報第3号(H30.6.18)を発出した。その後の病勢進展は緩慢であったが、7月上旬の台風通過後に発生ほ場率、発病程度が急速に高まったことから、2回目の防除情報第6号(H30.7.19)を発表して防除を呼びかけた。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1) 水稲、かんきつ病害の初発日

ア 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	5.30	5.22	5.17	6.12	7.03	7.10
穂いもち	7.09	7.08	7.06	9.10	9.09	9.11
紋枯病	6.26	7.04	7.07	7.27	8.04	7.27
白葉枯病	—	—	—	—	—	9.11

イ かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4.25	5.1	4.21	5.10	6.11	5.22
黒点病	5.10	5.23	5.5	6.7	7.2	7.6
かいよう病	5.15	5.17	5.15	7.10	6.25	5.22

(2) 予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

項目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		5.18	6.13	8.09	7.04	6.19	7.25	7.05	6.26	9.11	6.21	6.14	7.19
トビイロウンカ		7.05	7.06	7.10	—	8.10	8.17	8.01	7.11	7.25	—	7.08	6.21
ヒメトビウンカ		5.24	6.18	5.23	5.18	6.28	7.08	7.26	7.11	8.02	7.01	7.23	7.10
ツマグロヨコバイ		5.18	5.23	5.22	7.09	5.28	7.05	5.16	5.18	5.22	5.16	5.24	5.08
コブノメイガ		7.21	7.17	7.12	—	8.16	8.16	7.18	8.13	9.28	9.08	7.09	8.04



4) 予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況

(1) 延岡

月	半旬	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	2	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	3	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	4	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	5	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	6	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	15	1.0	1	0.0	0	0.0	1	0.0
	5	2	10.4	0	1.1	0	0.0	0	1.2
	6	4	34.2	1	0.4	0	0.1	1	0.6
	計	21	45.6	2	1.5	0	0.1	2	1.8
6	1	23	64.4	0	0.1	0	0.0	0	0.3
	2	7	62.5	0	10.2	0	0.0	0	0.2
	3	4	17.5	0	1.6	0	0.0	0	0.1
	4	2	12.3	0	8.7	0	1.3	0	0.6
	5	3	5.5	0	14.2	0	0.2	1	0.5
	6	6	1.4	0	2.0	0	0.2	0	0.1
	計	45	163.6	0	36.8	0	1.7	1	1.8
7	1	4	0.7	1	8.1	1	0.8	0	0.2
	2	1	1.7	0	6.6	1	0.5	0	0.4
	3	3	7.6	0	14.5	0	1.7	0	0.7
	4	1	29.8	0	5.6	0	0.1	0	0.3
	5	12	42.5	0	2.4	0	1.0	0	0.1
	6	3	67.9	0	2.6	0	0.1	1	0.3
	計	24	146.3	1	39.8	2	4.2	1	2.0
8	1	3	9.7	151	2.4	0	0.1	0	0.2
	2	7	7.2	0	4.2	0	0.7	0	0.5
	3	6	21.7	0	4.9	0	1.2	0	0.8
	4	8	53.4	2	40.9	0	1.3	1	1.5
	5	2	49.3	27	7.7	0	2.1	1	1.3
	6	5	24.7	1	15.6	0	9.3	0	2.5
	計	31	163.5	181	73.3	0	14.4	2	6.8
9	1	1	19.4	0	6.2	0	1.7	0	2.1
	2	1	23.5	23	11.9	0	18.2	2	0.8
	3	2	7.6	54	6.5	0	19.7	4	0.6
	4	10	3.3	24	16.2	1	8.4	1	0.2
	5	2	13.5	57	4.4	1	3.3	17	0.8
	6	0	2.2	0	7.6	0	10.6	0	2.4
	計	16	68.7	158	52.2	2	59.7	24	6.9
10	1	1	3.8	1	2.5	0	9.1	0	3.5
	2	3	5.4	3	2.4	1	22.0	0	2.1
	3	0	1.3	0	2.2	0	23.6	0	0.6
	4	0	0.4	0	0.1	0	13.2	0	0.1
	5	0	0.0	1	0.4	0	7.6	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	0	4.5	0	0.1
	計	4	10.9	5	7.6	1	80.0	0	6.5

## (2) 佐土原

月	半旬	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.7	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	1.9	0	0.3	0	0.0	0	0.0
	計	0	3.6	0	0.4	0	0.0	0	0.0
6	1	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	1.6	0	0.7	0	0.0	0	0.2
	3	0	4.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2
	4	0	4.5	0	1.9	0	0.0	0	0.2
	5	0	2.7	0	2.5	0	0.0	0	0.0
	6	0	2.2	0	4.9	0	0.0	0	0.0
	計	0	16.0	0	10.1	0	0.0	0	0.6
7	1	0	2.5	1	4.5	0	0.1	1	0.2
	2	1	5.8	0	3.8	0	0.0	0	0.1
	3	1	12.6	0	0.7	0	0.2	0	0.2
	4	0	22.7	0	0.3	0	0.2	0	0.1
	5	1	34.2	0	1.1	0	0.0	0	0.0
	6	4	57.5	0	0.6	0	0.0	0	0.1
	計	7	133.0	1	11.0	0	0.5	1	0.7
8	1	6	65.1	0	1.7	0	0.0	0	0.3
	2	12	16.7	0	0.3	0	0.0	0	0.1
	3	4	26.2	0	1.1	0	0.2	0	0.2
	4	6	49.1	0	1.4	0	0.2	0	0.1
	5	1	13.4	0	3.0	0	0.6	0	0.5
	6	2	151.9	0	6.7	0	0.6	0	0.3
	計	31	322.4	0	14.2	0	1.6	0	1.5
9	1	1	98.2	0	1.5	0	0.6	0	0.1
	2	0	36.3	1	2.5	0	0.3	1	0.2
	3	0	23.1	1	9.6	0	1.6	0	0.2
	4	1	7.9	5	1.5	0	1.6	0	0.1
	5	0	5.6	0	1.2	0	0.2	0	0.1
	6	0	0.9	2	1.5	0	0.2	0	0.4
	計	2	172.0	9	17.8	0	4.5	0	1.1
10	1	0	0.9	2	0.5	0	0.4	0	0.0
	2	0	1.1	0	0.6	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.2	0	0.0	0	0.8	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.2	0	0.3	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.0
	計	0	2.4	2	1.5	0	1.7	0	0.1

## (3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	3	3.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	2	9.8	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	6	14	39.2	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	計		19	52.9	0	0.2	0	0.0	0
6	1	6	25.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	8	62.9	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	25	32.7	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	4	4	32.4	0	6.1	0	0.6	0	0.0
	5	1	22.7	0	27.6	0	0.0	0	0.2
	6	0	5.1	0	3.0	0	0.2	0	0.1
	計		44	175.7	0	33.2	0	0.7	0
7	1	0	6.8	1	17.9	0	0.3	0	0.3
	2	1	9.3	0	7.8	0	0.3	0	1.1
	3	0	11.9	0	3.1	0	1.3	0	0.4
	4	1	9.7	1	1.4	0	0.1	0	0.0
	5	0	17.6	0	0.8	0	0.2	0	0.5
	6	0	21.6	0	1.7	0	0.2	1	0.1
	計		2	70.9	2	30.6	0	2.3	1
8	1	2	22.7	6	1.3	1	0.5	1	2.6
	2	6	27.5	4	1.7	0	0.4	0	0.8
	3	4	61.7	0	4.9	0	1.3	0	0.6
	4	6	40.1	0	4.4	0	1.0	0	0.4
	5	3	29.5	1	3.1	4	7.4	2	1.1
	6	14	17.7	1	12.4	2	8.8	1	2.0
	計		35	199.2	12	27.8	7	19.4	4
9	1	2	5.7	0	8.0	0	3.1	0	0.4
	2	4	4.8	6	3.8	0	7.0	3	0.6
	3	4	2.8	12	7.3	4	11.9	4	0.7
	4	7	1.7	17	0.9	3	2.9	5	0.1
	5	3	1.1	22	2.2	0	3.2	8	0.2
	6	0	0.3	0	1.8	0	9.0	0	0.4
	計		20	14.6	57	25.4	7	39.6	20
10	1	0	1.0	0	1.4	0	12.9	0	0.2
	2	0	0.4	2	1.2	1	8.3	1	0.3
	3	0	0.3	0	1.3	0	19.1	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.3	0	26.7	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.8	0	13.2	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.3	0	5.7	0	0.0
	計		0	1.8	2	5.4	1	85.9	1

測、( )は欠測期間を除く頭数

## (4) 都城

月	半旬	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	4	4	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.0
	5	2	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	26	9.1	0	0.6	0	0.0	0	0.0
	計	32	10.3	0	0.6	0	0.0	1	0.2
6	1	10	9.2	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	2	32	28.2	0	14.2	0	0.0	0	0.0
	3	4	25.3	0	4.6	0	0.0	0	0.1
	4	5	8.3	0	18.7	0	0.1	0	0.0
	5	4	3.1	2	101.0	0	8.6	0	0.2
	6	3	7.7	1	24.7	0	1.3	0	0.7
	計	58	81.8	3	163.4	0	10.0	0	1.0
7	1	1	3.2	1	469.0	0	5.3	0	1.0
	2	3	4.5	3	16.9	0	0.6	0	0.2
	3	7	15.0	1	21.0	0	0.9	0	0.4
	4	11	29.4	0	4.1	0	0.3	0	0.2
	5	35	86.8	0	15.1	0	1.1	0	1.5
	6	27	138.2	4	24.3	0	3.6	0	3.3
	計	84	277.1	9	550.4	0	11.8	0	6.6
8	1	7	71.7	4	14.6	0	1.9	1	1.2
	2	14	74.1	0	6.6	0	2.4	0	0.3
	3	36	88.4	0	10.0	0	2.7	0	0.9
	4	26	102.5	0	8.7	0	1.4	0	0.3
	5	61	108.2	29	8.3	0	4.8	3	0.3
	6	99	91.8	18	18.5	0	6.0	3	1.1
	計	243	520.5	51	62.6	0	18.4	7	4.0
9	1	2	64.5	1	13.4	0	12.3	1	0.6
	2	11	46.2	42	7.0	0	23.5	1	0.6
	3	13	10.1	7	6.1	0	7.8	0	0.6
	4	63	7.1	9	8.4	0	7.7	3	6.1
	5	1	10.1	4	8.6	0	17.1	0	0.8
	6	0	10.0	1	4.1	0	27.8	0	0.1
	計	90	147.0	64	47.2	0	93.4	5	8.8
10	1	0	24.5	0	2.8	0	122.2	0	0.6
	2	1	6.9	0	3.3	0	107.6	0	1.0
	3	1	4.0	0	0.8	0	36.9	0	0.3
	4	0	2.1	1	1.1	0	99.4	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.5	0	65.3	0	0.5
	6	0	0.3	0	1.0	0	34.8	0	0.0
	計	2	37.9	1	9.5	0	466.2	0	2.6

測、( )は欠測期間を除く頭数

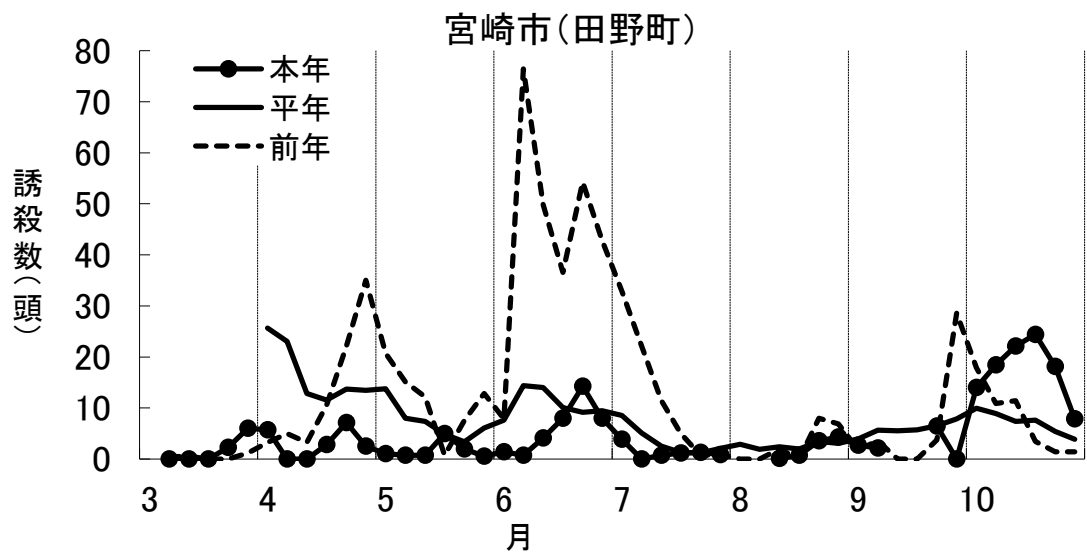
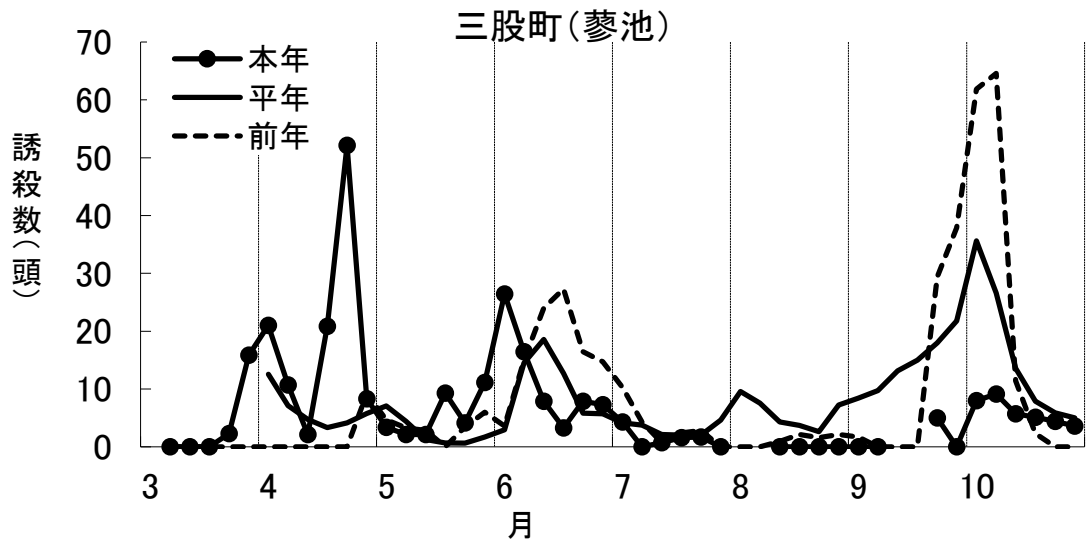
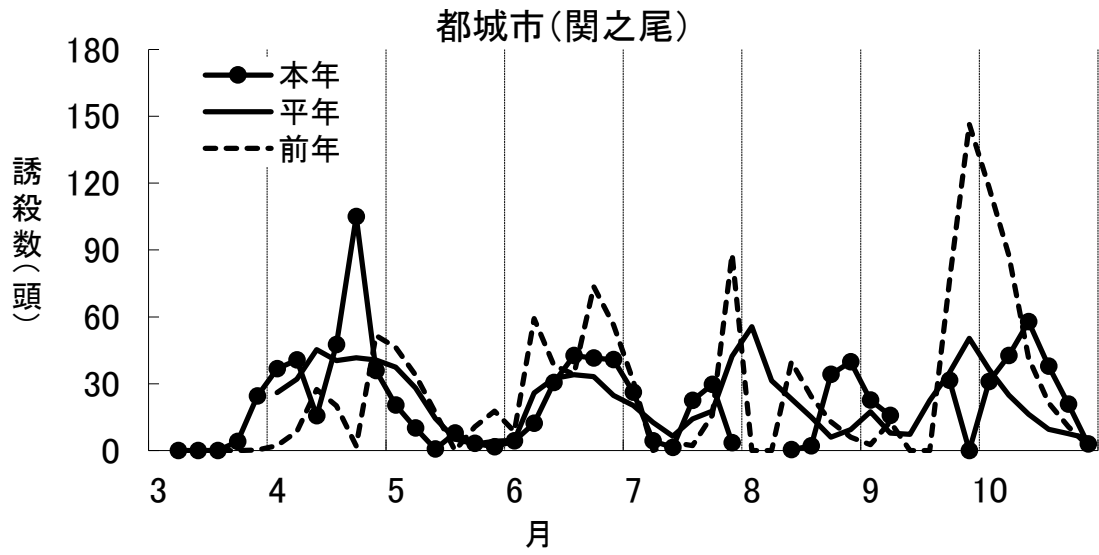
5) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都城市 (関之尾)			三股町 (蓼池)			宮崎市 (田野町)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1			0			0			0
	2			0			0			0
	3			0			0			1
	4	0		0	0		0	0		0
	5	4		0	2		0	2		0
	6	24		0	16		0	6		1
4	1	37	26	2	21	13	0	6	26	3
	2	41	32	9	11	7	0	0	23	5
	3	16	45	27	2	5	0	0	13	3
	4	48	40	20	21	3	0	3	12	11
	5	105	42	2	52	4	0	7	14	22
	6	36	41	52	8	6	9	3	13	35
5	1	20	37	46	3	7	5	1	14	21
	2	10	28	34	2	4	3	1	8	15
	3	1	15	17	2	1	3	1	7	12
	4	8	5	0	9	1	0	5	5	1
	5	3	3	11	4	1	3	2	3	8
	6	2	4	18	11	2	6	1	6	13
6	1	4	5	9	26	3	4	1	8	8
	2	12	26	59	16	14	15	1	14	76
	3	31	32	38	8	19	24	4	14	50
	4	43	34	34	3	13	27	8	10	37
	5	41	33	74	8	6	16	14	9	54
	6	41	25	56	7	6	15	8	9	43
7	1	26	20	31	4	4	10	4	9	33
	2	4	13	0	0	4	4	0	5	22
	3	1	6	4	1	2	1	1	2	11
	4	22	14	2	2	2	2	1	1	5
	5	30	18	16	2	2	3	1	1	1
	6	3	42	88	0	5	0	1	2	1
8	1	3	56	-	0	10	-	1	3	-
	2	1	31	-	0	8	-	0	2	-
	3	0	23	40	0	4	1	0	2	2
	4	2	15	24	0	4	2	1	2	0
	5	34	6	13	0	3	2	4	3	8
	6	40	9	6	0	7	2	4	3	7
9	1	23	17	3	0	8	2	3	4	2
	2	16	8	13	0	10	0	2	6	4
	3	48	7	-	9	13	-	2	6	-
	4	46	22	-	9	15	-	3	6	-
	5	31	35	76	5	18	29	6	7	4
	6	0	50	146	0	22	38	0	8	29
10	1	31	36	118	8	36	62	14	10	18
	2	43	25	88	9	27	65	18	9	11
	3	58	16	41	6	14	11	22	7	11
	4	38	10	21	5	8	2	24	8	3
	5	21	8	11	4	6	0	18	5	1
	6	3	5	2	4	5	0	8	4	1

※「-」は欠測

平成30年度フェロモントラップ誘殺数(チャハマキ)

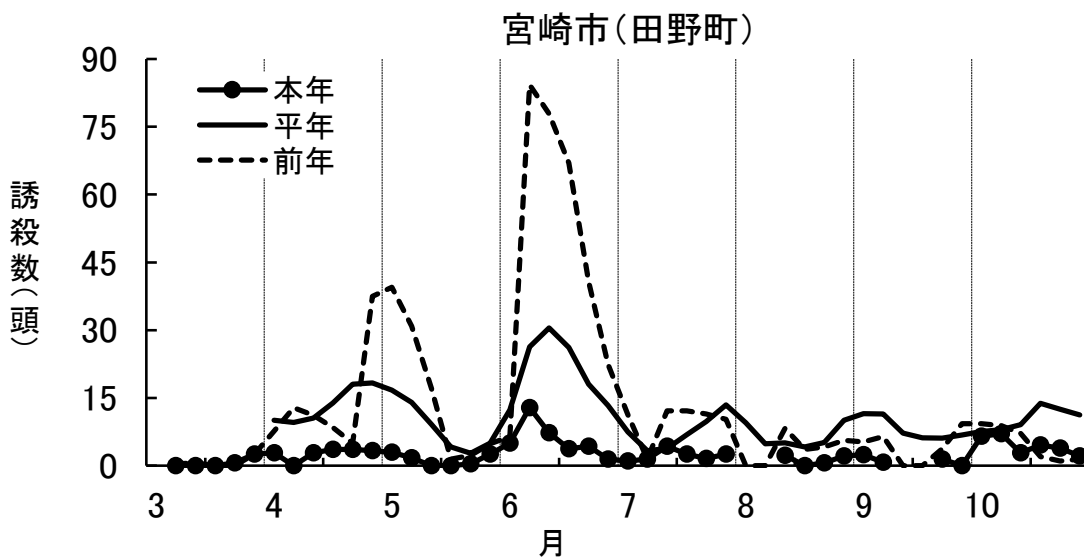
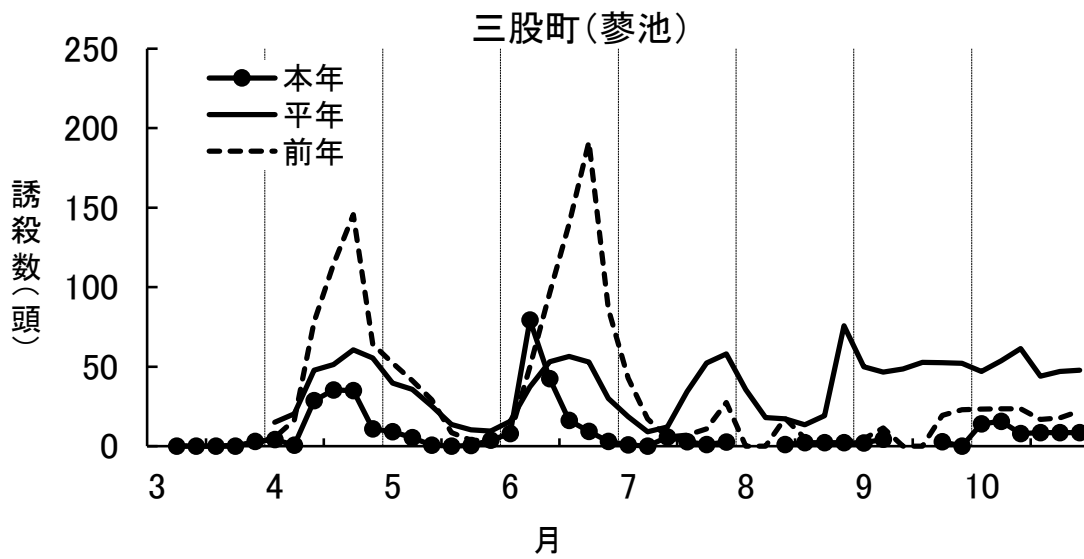
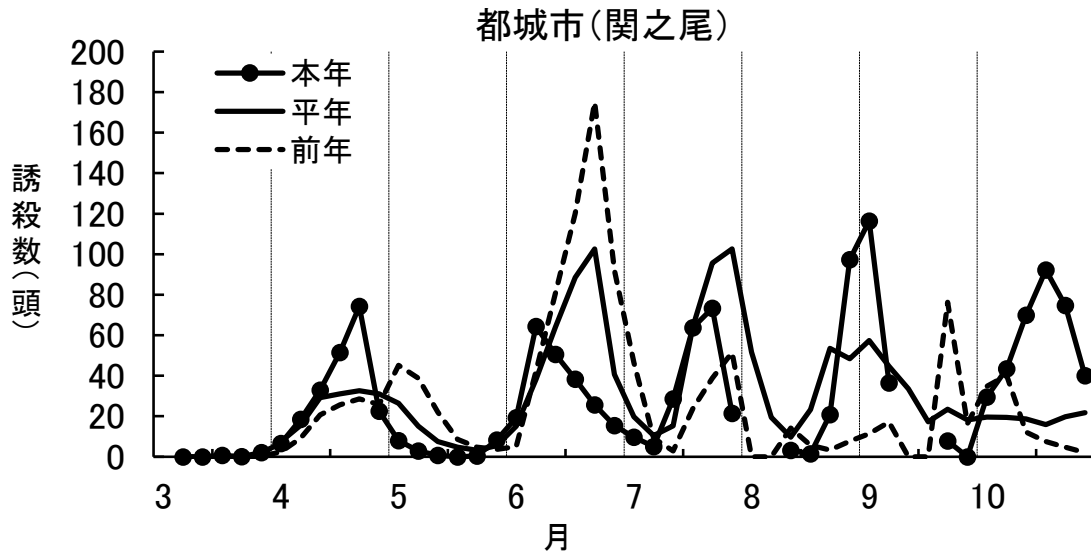


## (2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都城市（関之尾）			三股町（蓼池）			宮崎市（田野町）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1			0			1			0
	2			0			0			0
	3			0			0			1
	4	1		0	0		0	0		0
	5	0		0	0		1	1		0
	6	2		0	3		2	3		3
4	1	7	8	2	4	15	6	3	10	8
	2	19	16	9	1	20	16	0	10	13
	3	33	29	21	29	48	78	3	11	11
	4	52	31	26	35	51	114	4	14	8
	5	74	33	29	35	61	146	4	18	5
	6	23	31	26	11	55	64	3	18	38
5	1	8	26	45	9	40	52	3	17	40
	2	3	15	39	5	36	41	2	14	31
	3	1	7	22	1	25	29	0	9	17
	4	0	5	9	0	14	9	0	4	1
	5	0	3	5	0	10	4	0	3	2
	6	8	6	4	4	10	3	3	5	5
6	1	19	15	5	8	16	7	5	12	6
	2	64	38	42	79	37	50	13	26	84
	3	51	64	81	42	53	96	7	30	78
	4	38	88	120	16	57	140	4	26	67
	5	26	103	175	9	53	191	4	18	41
	6	15	41	92	3	30	86	1	13	22
7	1	10	20	47	1	19	43	1	7	11
	2	5	10	9	0	9	17	1	3	1
	3	29	15	3	6	12	6	4	4	12
	4	64	64	24	3	34	7	3	7	12
	5	73	96	39	1	52	11	2	10	11
	6	21	103	51	3	58	27	3	13	10
8	1	5	52	-	1	36	-	1	10	-
	2	4	19	-	1	18	-	2	5	-
	3	3	10	14	1	17	18	2	5	8
	4	1	23	6	2	13	5	0	4	4
	5	21	53	3	2	19	3	1	5	4
	6	97	48	8	2	76	3	2	10	6
9	1	116	57	11	2	50	5	2	12	5
	2	36	45	17	4	47	11	1	11	6
	3	12	34	-	5	49	-	1	7	-
	4	7	17	-	5	53	-	1	6	-
	5	8	23	76	3	53	19	1	6	4
	6	0	18	16	0	52	23	0	7	9
10	1	30	20	35	14	47	23	7	8	9
	2	44	19	40	16	54	24	7	8	9
	3	70	19	12	8	61	24	3	9	7
	4	92	16	8	8	44	17	5	14	2
	5	75	20	5	9	47	18	4	12	1
	6	40	22	2	9	48	22	2	11	1

※「-」は欠測

平成30年度フェロモントラップ誘殺数(チャノコカクモンハマキ)



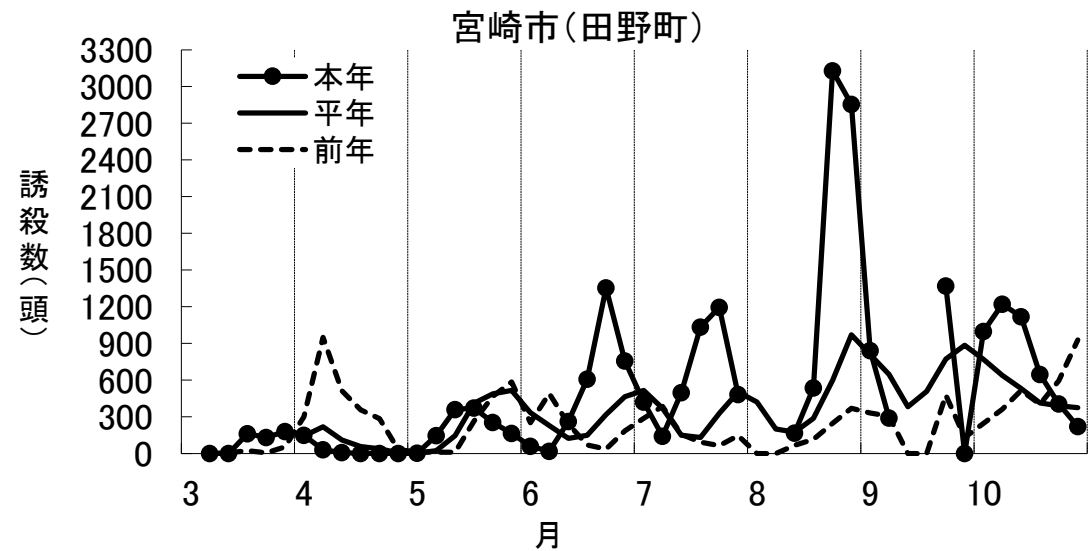
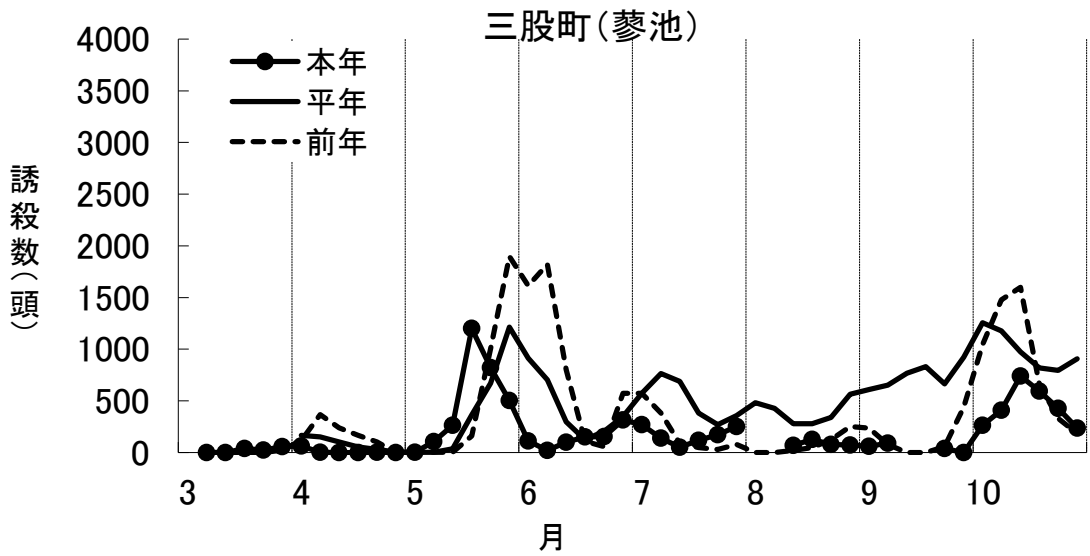
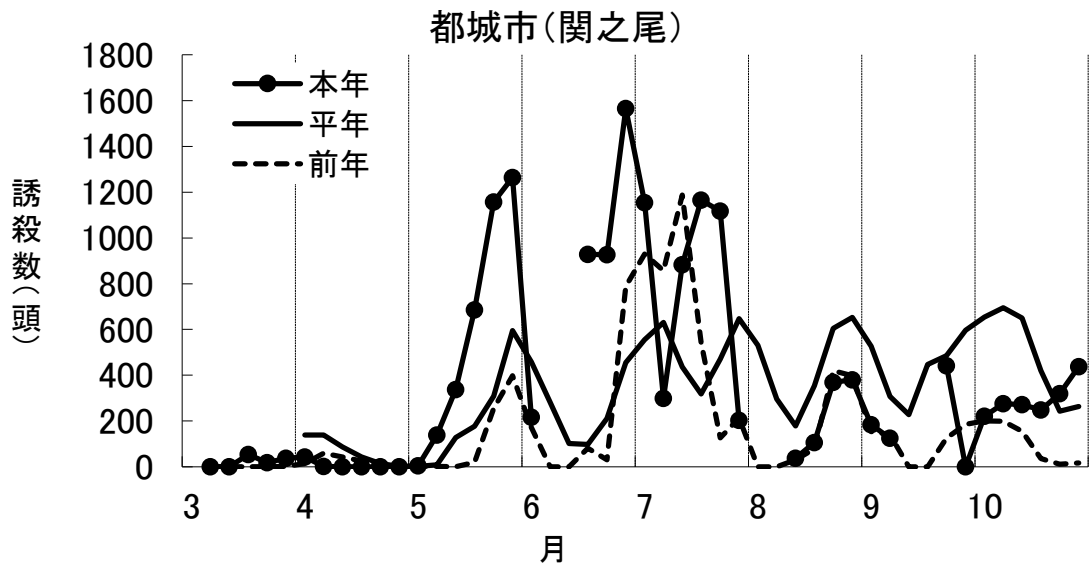


## (3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都城市 (関之尾)			三股町 (蓼池)			宮崎市 (田野町)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1			0			0			1
	2			0			1			1
	3			0			1			6
	4	54		1	39		1	162		24
	5	18		0	23		1	132		5
	6	37		1	57		23	181		55
4	1	43	139	15	62	166	118	149	145	300
	2	1	139	60	1	153	366	33	218	950
	3	0	87	43	0	103	239	8	111	513
	4	0	43	26	1	54	165	2	57	357
	5	0	15	5	3	31	103	1	39	286
	6	0	3	0	0	4	1	0	6	31
5	1	5	2	2	2	2	2	3	3	14
	2	138	8	2	107	4	2	146	25	11
	3	337	129	1	264	35	1	361	146	12
	4	686	177	20	1,200	364	161	371	412	264
	5	1,157	309	255	823	671	1,003	254	487	468
	6	1,264	595	398	502	1,215	1,897	165	516	585
6	1	216	458	171	111	914	1,614	59	335	253
	2	42	282	-	22	704	1,821	20	229	491
	3	574	102	-	98	296	801	262	123	243
	4	928	98	81	150	123	109	609	150	69
	5	927	211	30	155	205	58	1,354	320	36
	6	1,565	455	789	317	347	574	758	464	186
7	1	1,155	556	930	270	572	574	421	516	288
	2	299	631	857	139	764	381	141	370	385
	3	883	436	1,187	50	689	87	497	150	156
	4	1,166	319	543	118	382	48	1,035	131	94
	5	1,117	470	126	172	269	31	1,195	330	66
	6	204	647	213	252	358	78	482	502	146
8	1	4	530	-	60	481	-	213	421	-
	2	14	297	-	57	427	-	131	201	-
	3	38	179	31	70	278	21	168	175	68
	4	106	353	79	127	279	49	538	289	116
	5	369	605	420	79	341	125	3,130	599	247
	6	380	652	397	72	565	252	2,854	971	371
9	1	184	527	154	61	611	238	841	809	332
	2	126	307	141	91	651	79	290	646	306
	3	284	228	-	148	767	-	558	383	-
	4	371	447	-	112	831	-	924	509	-
	5	442	485	126	38	664	59	1,371	774	479
	6	0	597	185	0	921	441	0	886	131
10	1	221	655	200	263	1,256	1,044	998	769	247
	2	275	695	199	410	1,176	1,477	1,221	640	362
	3	271	650	155	739	974	1,600	1,118	531	517
	4	248	420	37	593	820	662	647	414	403
	5	320	243	11	429	795	331	406	390	596
	6	438	264	17	237	907	186	222	374	929

※「-」は欠測

平成30年度フェロモントラップ誘殺数(チャノホソガ)

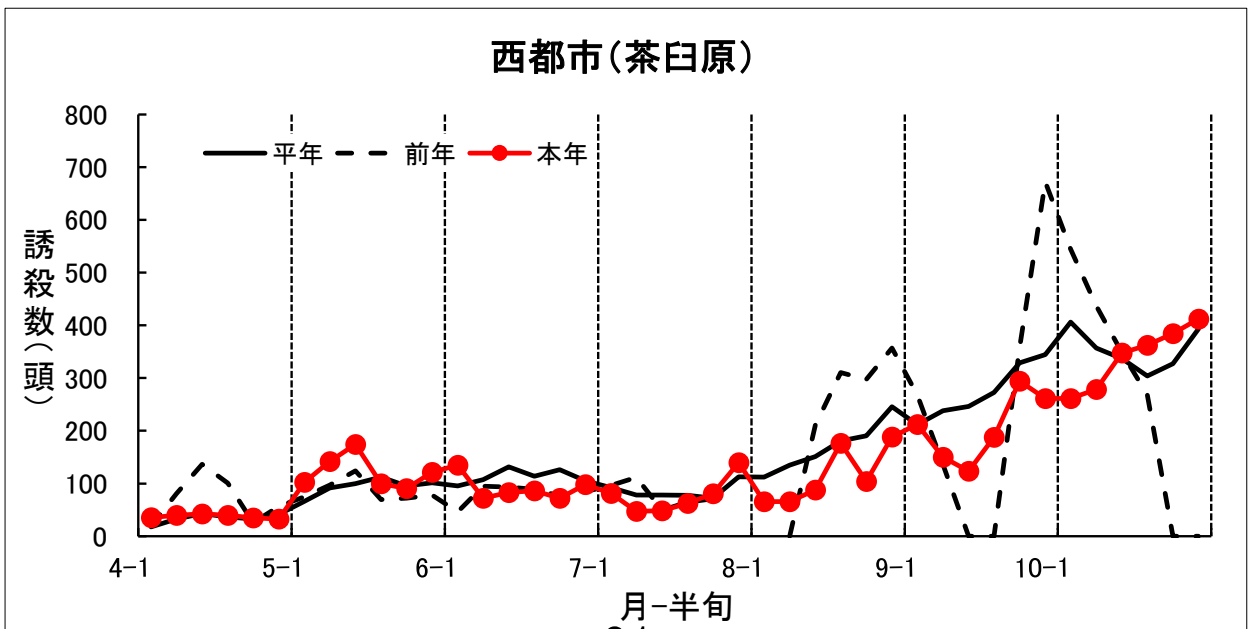
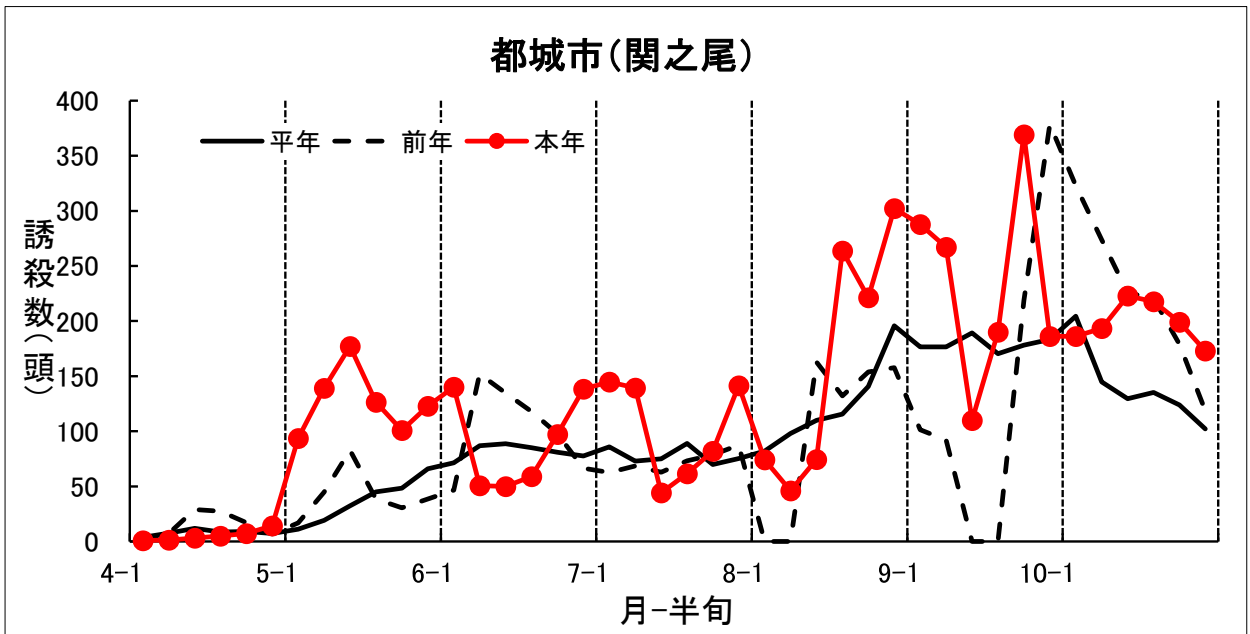
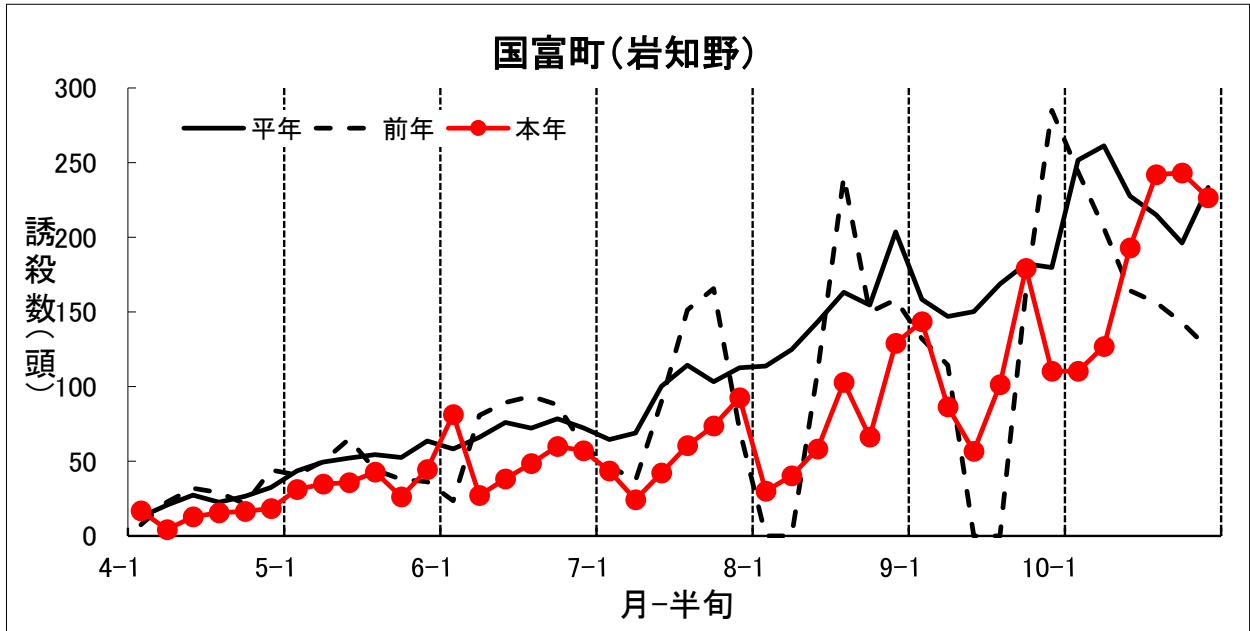


(4) ハスモンヨトウ（雄成虫）の誘殺状況

月	半旬	国富町（岩知野）			都城市（関之尾）			西都市（茶臼原）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	17	13	7	1	4	1	35	18	20
	2	4	21	23	1	7	7	40	33	81
	3	13	27	32	3	12	29	42	43	137
	4	16	23	29	5	9	27	40	37	101
	5	16	27	21	7	9	17	35	33	26
	6	18	33	44	14	7	7	33	41	57
5	1	31	43	41	94	11	17	103	66	75
	2	35	49	50	139	19	45	142	92	97
	3	36	52	65	177	32	83	174	100	124
	4	43	54	44	126	45	39	100	112	69
	5	26	53	38	101	48	30	91	95	72
	6	45	64	36	123	66	39	121	102	78
6	1	81	58	24	140	71	46	135	96	46
	2	27	66	81	51	87	152	72	107	95
	3	38	76	89	50	89	135	83	131	93
	4	49	72	94	59	85	118	86	114	89
	5	60	79	88	97	81	98	72	126	76
	6	57	72	60	138	78	66	98	105	84
7	1	44	65	47	145	86	63	81	92	96
	2	24	69	37	139	73	69	47	78	111
	3	42	100	90	44	75	63	49	78	49
	4	61	114	151	61	89	73	63	77	65
	5	74	103	166	82	70	79	81	72	71
	6	93	113	71	141	75	87	140	113	68
8	1	30	114	-	74	82	-	66	112	-
	2	40	125	-	46	98	-	66	135	-
	3	58	143	110	74	110	163	88	151	211
	4	103	163	241	264	115	132	176	181	311
	5	66	155	150	221	141	154	104	191	298
	6	129	204	158	302	196	158	188	246	357
9	1	144	158	132	288	177	101	212	212	268
	2	86	147	114	267	177	92	150	238	136
	3	57	150	-	110	189	-	124	246	-
	4	101	169	-	190	170	-	188	273	-
	5	179	182	164	369	178	219	294	329	358
	6	110	180	285	186	183	379	261	345	672
10	1	110	252	244	186	204	323	261	406	544
	2	127	261	206	193	145	274	279	357	437
	3	193	228	164	223	130	226	348	337	349
	4	242	215	156	218	135	221	362	304	269
	5	243	196	143	199	124	179	384	327	-
	6	226	233	126	173	102	119	412	393	-

※ 「-」は欠測

平成30年度フェロモントラップ誘殺数（ハスモンヨトウ）



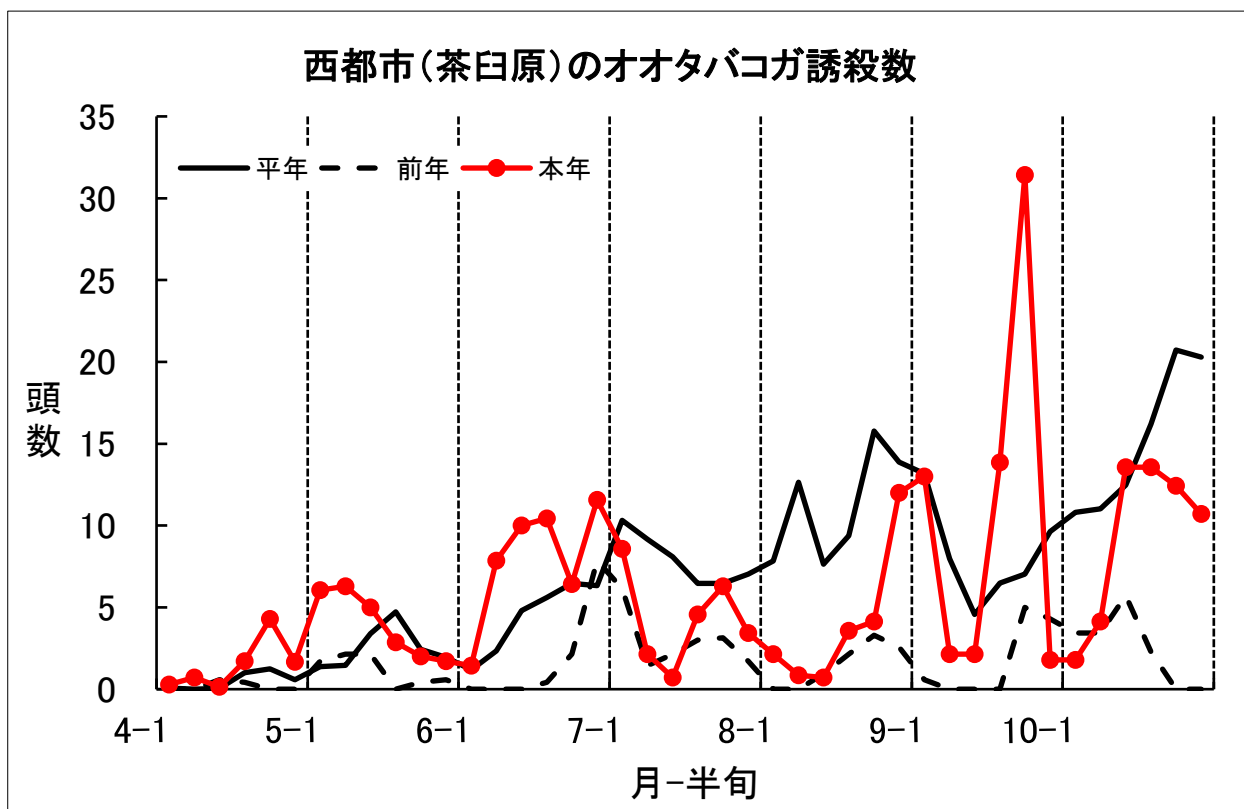
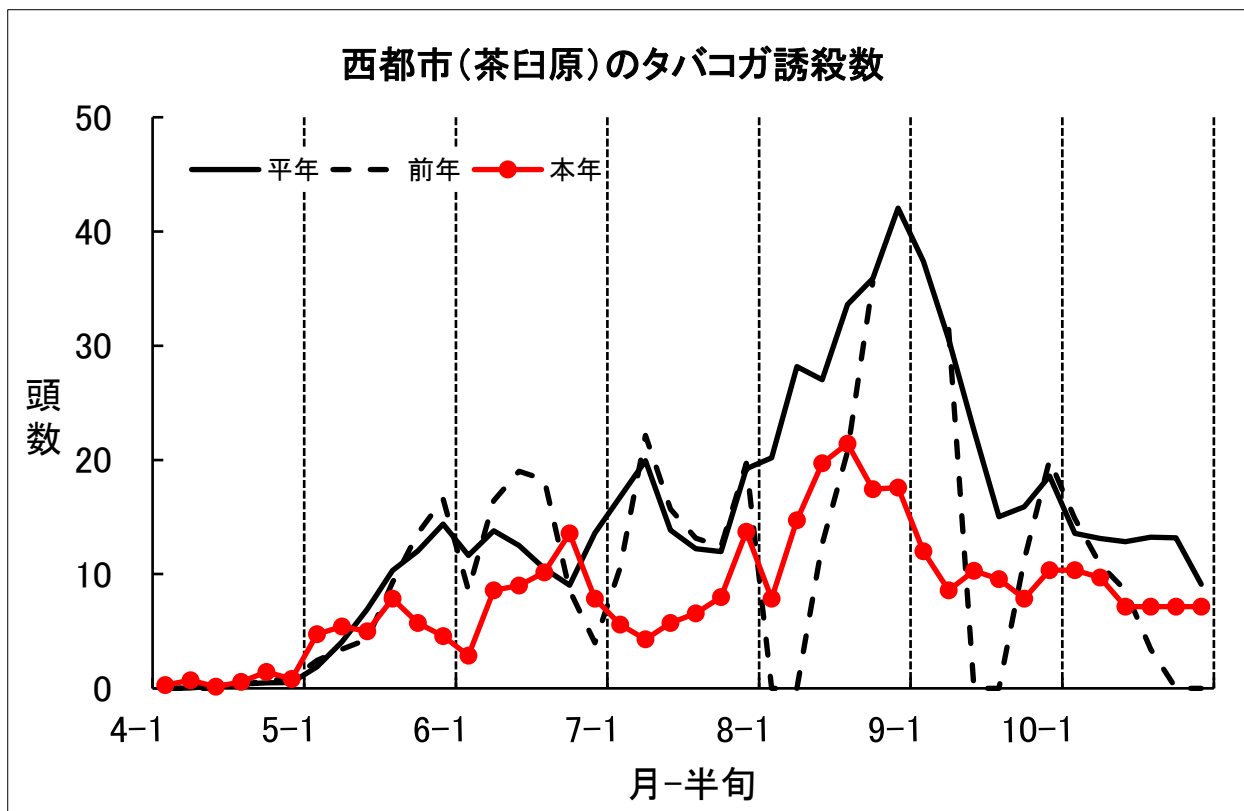
(5) タバコガ・オオタバコガ（雄成虫）の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	0	0	0
	2	1	0	0	1	0	0
	3	0	0	0	0	0	1
	4	1	0	0	2	1	0
	5	1	0	1	4	1	0
	6	1	1	1	2	1	0
5	1	5	2	2	6	1	2
	2	5	4	3	6	1	2
	3	5	7	4	5	3	2
	4	8	10	9	3	5	0
	5	6	12	14	2	2	0
	6	5	14	17	2	2	1
6	1	3	12	9	1	1	0
	2	9	14	16	8	2	0
	3	9	13	19	10	5	0
	4	10	10	18	10	6	0
	5	14	9	9	6	6	2
	6	8	14	4	12	6	8
7	1	6	17	11	9	10	6
	2	4	20	22	2	9	1
	3	6	14	16	1	8	2
	4	7	12	13	5	6	3
	5	8	12	12	6	6	3
	6	14	19	20	3	7	2
8	1	8	20	-	2	8	-
	2	15	28	-	1	13	-
	3	20	27	13	1	8	1
	4	21	34	21	4	9	2
	5	17	36	36	4	16	3
	6	18	42	40	12	14	3
9	1	12	37	28	13	13	1
	2	9	31	31	2	8	0
	3	10	23	-	2	5	-
	4	10	15	-	14	6	-
	5	8	16	11	31	7	5
	6	10	19	20	2	10	4
10	1	10	14	15	2	11	3
	2	10	13	11	4	11	3
	3	7	13	9	14	12	6
	4	7	13	3	14	16	2
	5	7	13	-	12	21	-
	6	7	9	-	11	20	-

※ 「-」は欠測

フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原

平成30年度フェロモントラップ誘殺数（タバコガ、オオタバコガ）



## (6) コブノメイガの発生消長

	6 月			7 月			8 月		
	都城市 (上長飯)	えびの市 (榎田)	宮崎市 (佐土原)	都城市 (上長飯)	えびの市 (榎田)	宮崎市 (佐土原)	都城市 (上長飯)	えびの市 (榎田)	宮崎市 (佐土原)
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	3
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	1	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	1	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	1
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0	0	1
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	2
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	0
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	/	/	0
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	0	0	0	0	0	0	/	/	0
28	0	0	0	0	0	0	/	/	2
29	0	0	0	0	0	1	/	/	0
30	0	0	0	0	0	0	/	/	0
31	/	/	/	0	0	1	/	/	2
半旬計	0	0	0	0	0	2	/	/	4
月計	0	0	0	0	0	2	0	1	9

6)果樹カメムシ類の誘殺状況

(1)予察灯における誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

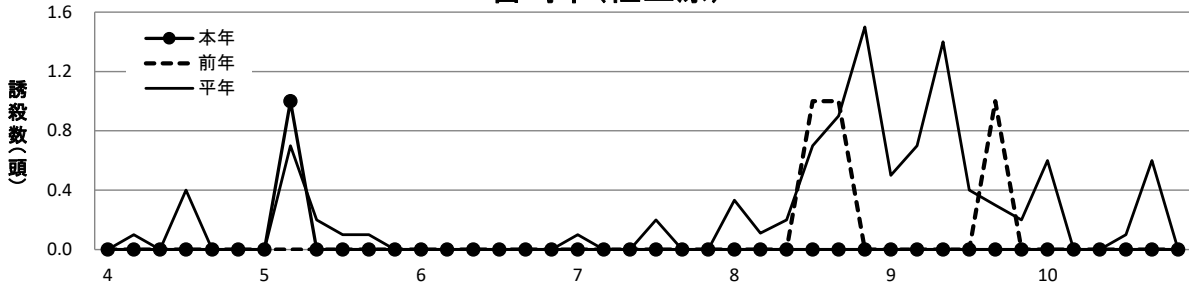
月	半旬	宮崎市(佐土原)			国富町(岩知野)			延岡市(片田)			都城市(上長飯)			日南市(大窪)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0.3		0	0.2	0	0	0	0	0	1.2
	2	0	0	0.1	0	0	0		0	0.1	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0		0	0.3	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0.1	0	0	0.3
	5	0	0	0	3	0	0	0	1	0.2	0	0	0.2	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	1	0	1.0	0	1	2.4	0	0	0.2	0	0	0.6
	2	1	0	0.7	0	6	1.4	0	0	2.7	1	0	0.1	0	0	0.7
	3	0	0	0.2	0	2	1.4	0	1	4.0	1	0	0.2	0	0	0.2
	4	0	0	0.1	5	0	2.8	4	0	7.1	3	0	1.3	0	0	0.1
	5	0	0	0.1	0	1	0.1	0	1	1.8	0	0	0.3	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0.7	0	0	0	0	0	0.2
6	1	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.4	0	0	0	1	0	0
	2	0	0	0	1	0	1	2	0	0.2	1	0	0.1	1	0	0
	3	0	0	0	1	0	0	2	0	0.7	1	0	0.3	0	0	0.4
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	0	2.6
	5	0	0	0	0	0	0	1	2	0.9	0	0	0.7	1	0	2.8
	6	0	0	0	5	1	0	1	2	1.1	0	0	0.5	1	0	4
7	1	0	0	0.1	0	0	0	0	1	2.4	0	1	0.5	0	0	3.6
	2	0	0	0	0	1	1.7	0	0	6.6	0	0	14.1	0	1	5.5
	3	0	0	0	1	0	1.0	0	1	13.9	0	0	1.3	2	1	7.2
	4	0	0	0.2	1	0	0.9	0	0	4.3	0	0	0.7	3	1	5.2
	5	0	0	0	0	0	3.3	0	1	6.7	0	0	1.4	0	0	5.1
	6	0	0	0	0	0	1.7	1	1	5.3	0	0	0.4	2	1	8.8
8	1	0	—	0.3	0	—	2.0	3	—	1.8	2	—	0.6	5	2	5.9
	2	0	—	0.1	0	—	1.8	1	—	3.8	1	—	1.6	12	2	11.5
	3	0	0	0.2	4	8	4.1	12	29	8.7	19	0	1.1	20	3	26.8
	4	0	1	0.7	3	13	3.9	13	19	8.8	8	1	3.3	8	13	20.5
	5	0	1	0.9	5	8	4.2	25	58	17.2	1	6	3.1	5	8	12.9
	6	0	0	1.5	7	20	9.1	32	52	22.9	4	4	2.2	10	16	13.2
9	1	0	0	0.5	0	2	6.0	35	31	12.0	0	1	1.7	2	9	8.6
	2	0	0	0.7	1	0	5.1	7	37	13.6	0	0	1.5	12	11	7.4
	3	0	0	1.4	0	—	2.7	9	—	9.4	0	—	1.0	4	5	9.2
	4	0	0	0.4	2	—	1.4	11	—	2.4	0	—	1.4	6	3	4.4
	5	0	1	0.3	0	5	1.6	4	12	6.4	0	0	1.2	0	6	5.4
	6	0	0	0.2	0	2	2.1	0	4	1.8	0	0	1.9	7	7	4
10	1	0	0	0.6	0	3	0.8	0	0	1.9	0	1	1.0	6	0	2.6
	2	0	0	0	0	1	0.3	0	1	0.8	0	0	0.2	3	2	5.9
	3	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0.4	0	1	0.4	0	0	1.7
	4	0	0	0.1	0	0	0.5	0	—	0	0	—	0.1	1	0	0.9
	5	0	0	0.6	0	0	0	0	—	0.1	0	—	0.2	0	0	0.9
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
合計		1	3	10.4	40	73	63.4	163	255	175.2	42	15	45.3	112	91	190.5

※「—」は欠測

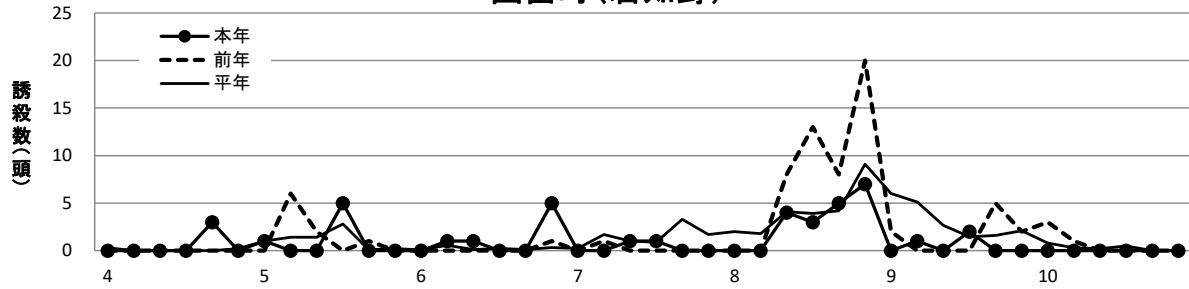


平成30年度予察灯における誘殺数（チャバネアオカメムシ）

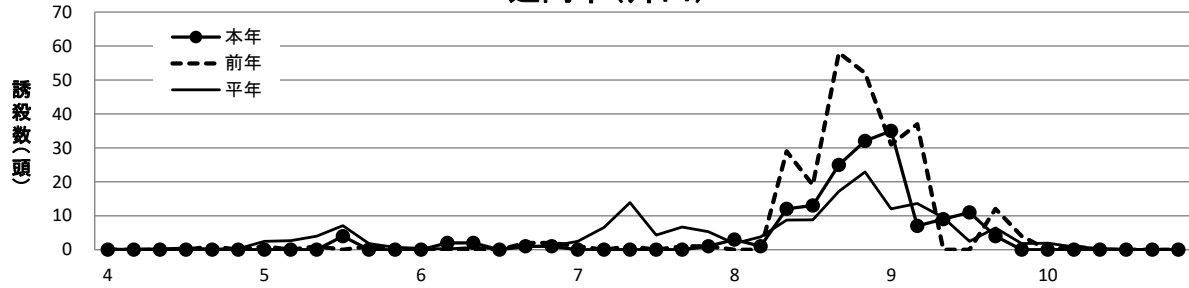
宮崎市(佐土原)



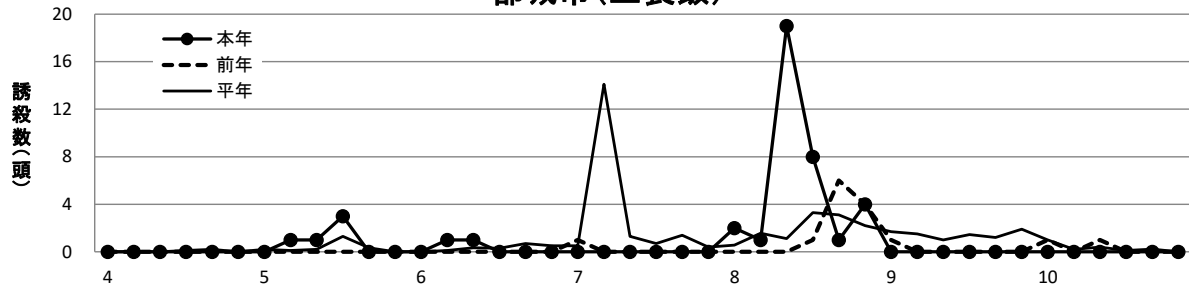
国富町(岩知野)



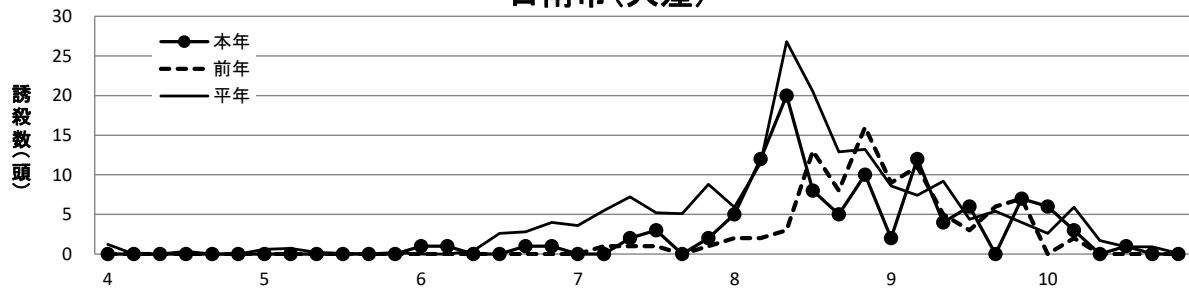
延岡市(片田)



都城市(上長飯)



日南市(大窪)



②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	宮崎市(佐土原)			国富町(岩知野)			延岡市(片田)			都城市(上長飯)			日南市(大窪)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0.3		0	0.4	0	0	0	4	0	3.2
	2	0	0	0.1	0	0	0		0	0	0	0	0.1	1	0	0.6
	3	0	1	0.3	0	0	0		0	0.1	0	0	0	42	0	1.0
	4	0	0	8.2	0	0	0.2	0	0	0.4	0	0	0	1	0	7.2
	5	0	0	0.3	5	0	0.9	0	0	0	0	0	0	37	0	6.0
	6	0	0	26.8	0	0	0.2	0	0	0.6	0	0	0.1	4	0	4.9
5	1	0	0	1.1	0	0	0.1	5	2	1.3	0	0	0	33	0	12.5
	2	0	0	1.7	22	0	0.5	7	0	2.2	0	0	0	167	0	28.6
	3	0	0	1.5	4	1	1.1	10	3	3.7	0	0	0.1	89	0	16.5
	4	0	0	0.5	17	0	1.0	24	0	1.9	6	0	0	121	0	23.4
	5	0	0	0	1	0	1.5	2	1	3.6	0	0	0.1	2	0	6.5
	6	0	0	0	8	0	10.9	0	3	1.2	0	0	0.1	0	0	15.6
6	1	0	0	0.1	23	0	2.0	7	3	1.4	5	0	1	5	5	7.3
	2	0	0	0	58	0	2.2	14	0	2.2	3	0	0.3	73	0	9.5
	3	0	0	0	20	0	2.8	1	0	1.1	2	0	1.1	13	0	26.1
	4	0	0	0	3	0	1.2	1	2	1.1	2	0	0.4	17	0	19.6
	5	0	0	0	2	5	1.4	3	8	2.0	0	0	0.9	3	0	28.9
	6	0	0	0.1	1	4	0.7	0	3	1.4	3	0	0	22	0	16.3
7	1	0	0	0	4	1	1.0	3	1	1.0	1	0	0.3	12	0	24.1
	2	0	0	0.1	0	0	1.3	1	2	1.4	4	0	2.5	3	0	11.9
	3	0	0	0	0	0	0.8	1	1	1.0	2	0	0.7	31	0	13.5
	4	0	0	0.1	0	0	1.6	0	2	0.3	0	0	0.1	16	1	8.2
	5	0	0	0	4	0	1.3	0	2	0.4	0	0	0.5	11	0	7.2
	6	0	0	0	0	4	1.9	2	3	4.1	0	0	0.6	1	1	19.3
8	1	0	—	0.4	7	—	6.0	26	—	17.1	1	—	0.6	20	1	37.2
	2	0	—	0.1	2	—	5.2	20	—	17.2	4	—	1	15	0	11.8
	3	0	0	0.2	10	5	4.3	13	52	18.2	16	1	0.8	17	2	12.5
	4	0	0	0	1	2	3.6	10	36	11.8	2	0	0.9	5	2	12.0
	5	0	0	0.2	1	5	1.9	2	45	9.2	2	7	1.9	7	15	15.4
	6	0	0	0	0	0	1.4	3	34	8.8	4	0	0.4	11	7	10.6
9	1	0	0	0.8	1	0	1.2	2	23	6.0	0	0	1.3	9	0	9.3
	2	0	0	2.4	0	0	1.9	5	7	7.9	0	0	4.6	79	4	9.6
	3	0	1	9.1	3	—	1.8	3	—	3.6	1	—	2.4	110	25	31.8
	4	0	0	1.9	1	—	4.9	9	—	8.7	2	—	4.1	50	83	35.1
	5	0	0	1.1	1	35	10.9	3	119	29.5	0	37	14	0	353	125.1
	6	0	0	0.9	0	23	8.9	0	115	18.3	0	39	15.5	18	247	100
10	1	0	0	1.8	1	4	3.7	7	107	23.3	0	13	12.4	23	42	43.0
	2	0	0	1.3	1	12	5.1	4	10	9.7	0	3	0.9	10	93	32.5
	3	0	0	0.4	0	6	1.1	3	27	4.6	0	0	0.4	2	113	26.8
	4	0	0	0.3	0	8	3.3	1	—	2.0	0	—	0.6	1	69	25.0
	5	0	0	1.1	1	0	1.3	0	—	3.8	1	—	0.8	0	30	12.4
	6	0	0	0.1	1	1	0.6	0	3	2.3	1	0	0.3	0	29	9.9
合計		0	2	63.1	203	116	102.0	192	614	234.8	62	100	71.8	1085	1122	877.9

※「—」は欠測



## (2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

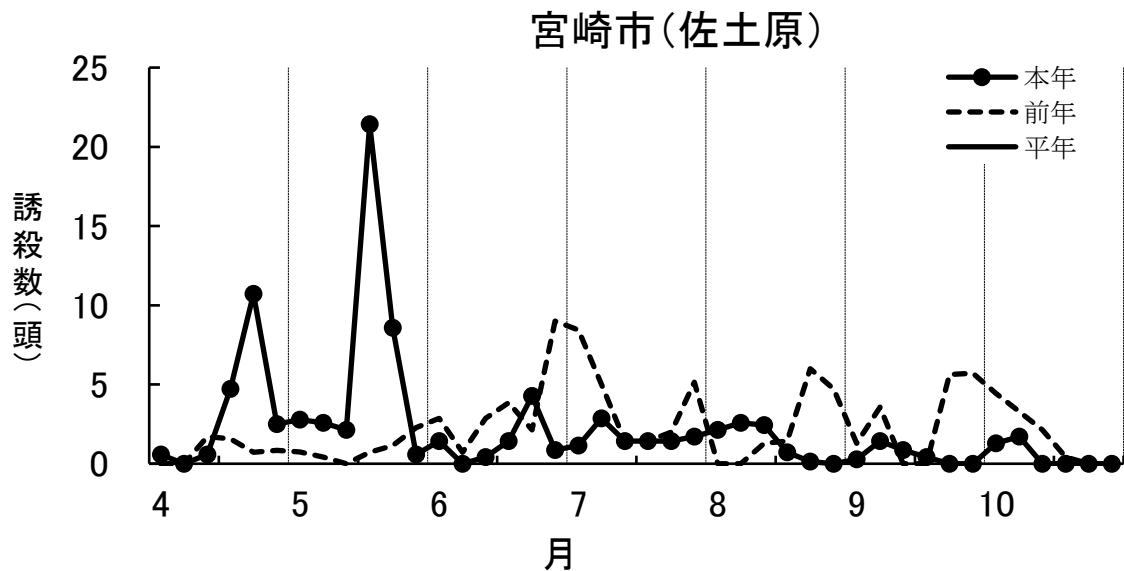
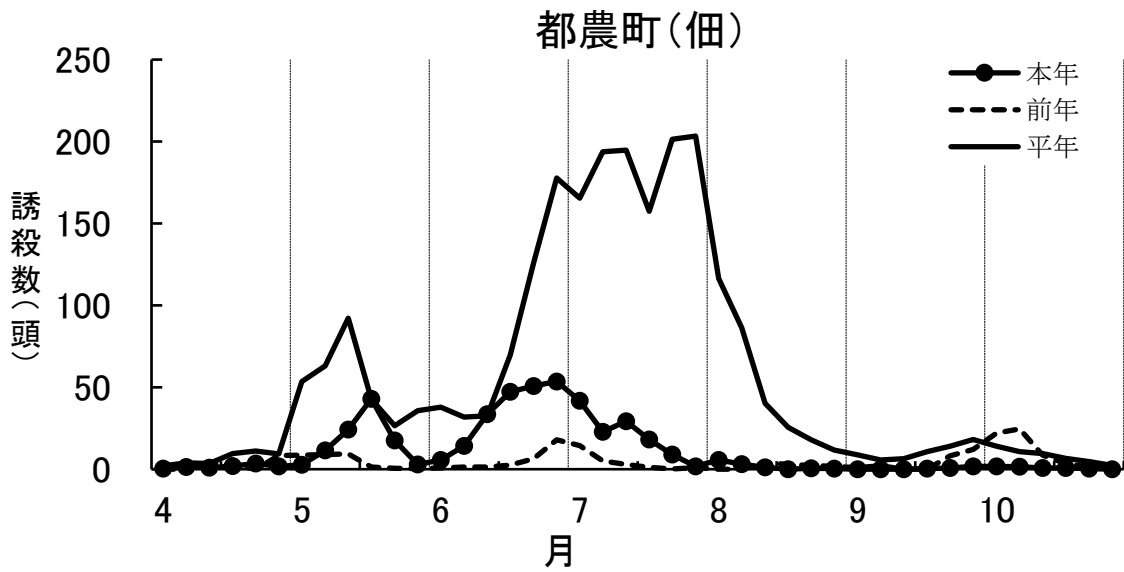
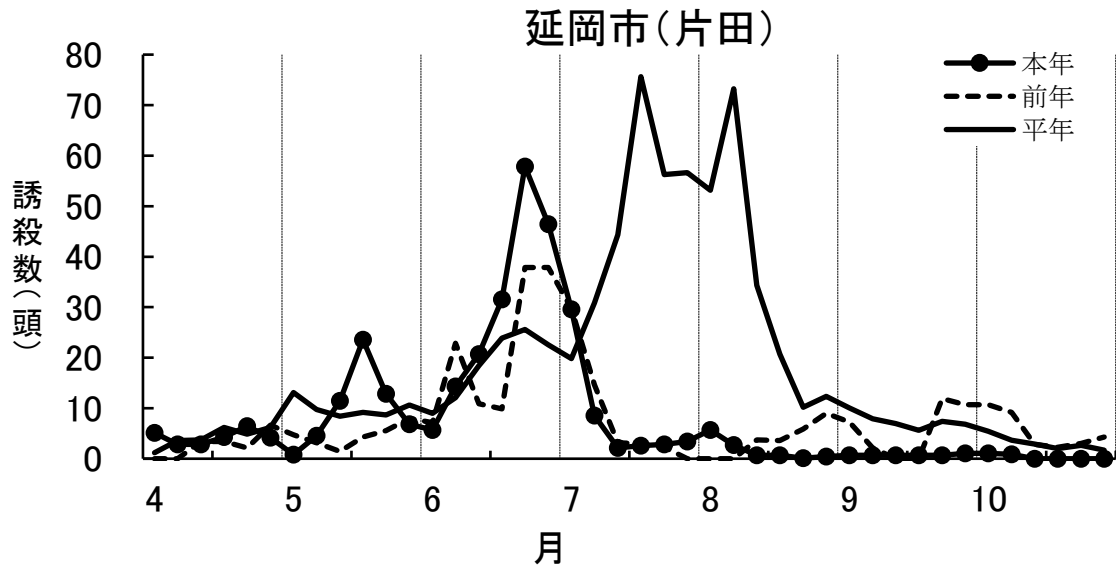
## ① チャバネアオカメムシ

※宮崎市（佐土原）はH28から開始

月	半旬	延岡市（片田）			都農町（佃）			宮崎市（佐土原）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	5	0	1.2	0	0	2.1	1	0	
	2	3	0	3.6	1	0	3.8	0	0	
	3	3	3	3.7	1	3	3.5	1	2	
	4	4	3	6.2	2	3	9.5	5	2	
	5	6	2	4.9	4	0	11.2	11	1	
	6	4	7	6.2	2	8	9.3	3	1	
5	1	1	5	13.1	3	9	53.5	3	1	
	2	5	3	9.8	11	9	63.0	3	0	
	3	11	1	8.4	24	9	92.3	2	0	
	4	24	4	9.2	43	1	42.8	21	1	
	5	13	6	8.7	18	1	26.5	9	1	
	6	7	8	10.6	3	0	35.7	1	2	
6	1	6	7	9.0	6	1	37.8	1	3	
	2	14	23	12.1	14	1	31.8	0	1	
	3	21	11	18.4	34	1	32.6	0	3	
	4	32	10	23.8	47	2	69.8	1	4	
	5	58	38	25.6	51	6	125.9	4	2	
	6	46	38	22.6	54	18	177.8	1	9	
7	1	30	30	19.8	42	14	165.5	1	8	
	2	9	15	30.9	23	5	193.7	3	5	
	3	2	3	44.4	29	3	194.8	1	1	
	4	3	3	75.6	18	1	157.5	1	1	
	5	3	2	56.2	9	0	201.3	1	2	
	6	3	0	56.7	2	1	203.3	2	5	
8	1	6	0	53.2	6	0	116.3	2	0	
	2	3	0	73.2	3	0	86.3	3	0	
	3	1	4	34.3	1	4	40.2	2	1	
	4	1	4	20.7	0	3	25.5	1	1	
	5	0	6	10.2	1	2	17.9	0	6	
	6	0	9	12.4	0	2	11.6	0	5	
9	1	1	7	10.1	0	1	8.7	0	1	
	2	1	2	7.9	0	2	5.6	1	4	
	3	1	0	6.9	0	0	6.5	1	0	
	4	1	0	5.6	0	0	10.7	0	0	
	5	1	12	7.4	1	8	14.0	0	6	
	6	1	11	6.8	2	12	18.2	0	6	
10	1	1	11	5.5	2	22	14.0	1	4	
	2	1	9	3.7	2	25	10.7	2	3	
	3	0	3	2.9	1	9	9.6	0	2	
	4	0	2	2.0	1	3	6.7	0	0	
	5	0	3	2.6	0	1	4.6	0	0	
	6	0	4	1.7	0	0	2.3	0	0	
計		329	308	747.8	458	192	2354.5	90	95	

※「-」は欠測

平成30年度フェロモントラップ誘殺数（チャバネアオカメムシ）



## ② ツヤアオカメムシ

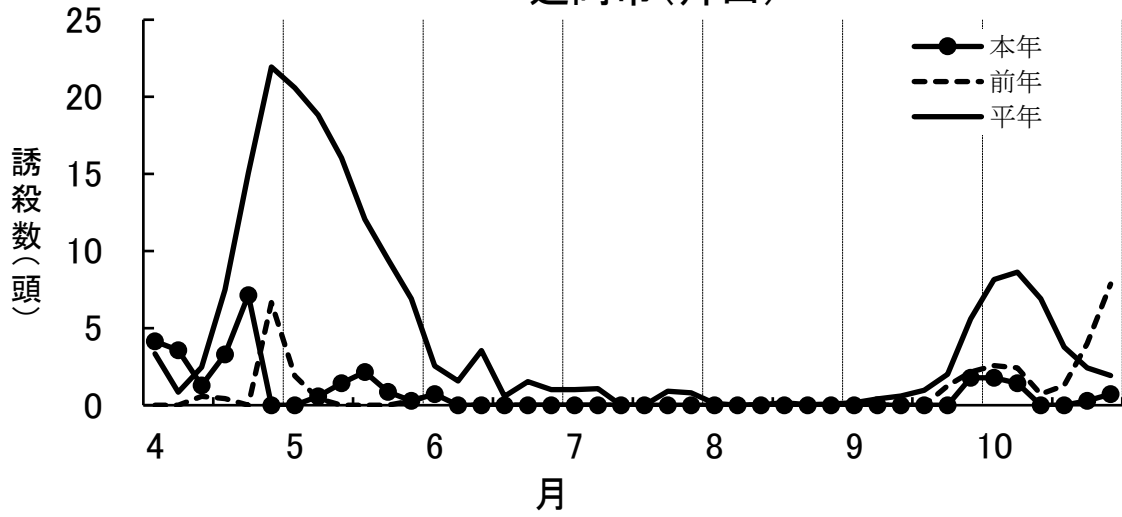
※宮崎市（佐土原）はH28から開始

月	半旬	延岡市（片田）			都農町（佃）			宮崎市（佐土原）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	4	0	3.3	2	0	0.6	0	0	
	2	4	0	0.8	6	0	0.6	1	0	
	3	1	1	2.5	1	1	0.4	0	0	
	4	3	0	7.5	0	1	0.6	1	0	
	5	7	0	15.1	1	1	1.0	3	0	
	6	0	7	21.9	0	2	11.5	0	0	
5	1	0	2	20.6	1	1	4.9	1	0	
	2	1	0	18.8	2	1	3.5	0	0	
	3	1	0	16.0	3	1	4.2	0	0	
	4	2	0	12.0	2	0	2.2	0	0	
	5	1	0	9.5	1	0	1.6	0	0	
	6	0	0	6.9	0	0	2.3	0	1	
6	1	1	1	2.5	0	0	2.8	0	0	
	2	0	0	1.6	0	0	1.3	0	0	
	3	0	0	3.5	0	0	0.4	0	0	
	4	0	0	0.6	0	0	0.3	0	0	
	5	0	0	1.5	1	0	0.6	0	0	
	6	0	0	1.0	0	0	1.1	0	0	
7	1	0	0	1.0	0	0	1.4	0	0	
	2	0	0	1.1	0	0	1.1	0	0	
	3	0	0	0.0	0	0	0.3	0	0	
	4	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	
	5	0	0	0.9	0	0	0.1	0	0	
	6	0	0	0.8	0	0	0.3	0	0	
8	1	0	0	0.1	1	0	0.3	0	0	
	2	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	
	3	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	
	4	0	0	0.2	0	0	0.0	0	0	
	5	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	
	6	0	0	0.1	0	0	0.0	0	0	
9	1	0	0	0.2	0	0	0.1	0	0	
	2	0	0	0.4	0	0	0.2	0	0	
	3	0	0	0.6	0	0	0.3	0	0	
	4	0	0	1.0	0	0	2.0	0	0	
	5	0	1	2.0	0	0	7.1	0	3	
	6	2	2	5.6	1	5	29.4	0	4	
10	1	2	3	8.1	1	7	59.0	0	6	
	2	1	2	8.6	1	7	47.6	0	7	
	3	0	1	6.9	0	2	36.2	0	2	
	4	0	1	3.8	1	1	18.6	1	2	
	5	0	4	2.4	1	0	16.1	0	0	
	6	1	8	1.9	1	0	4.9	0	0	
計		31	33	191.4	26	32	264.9	7	24	

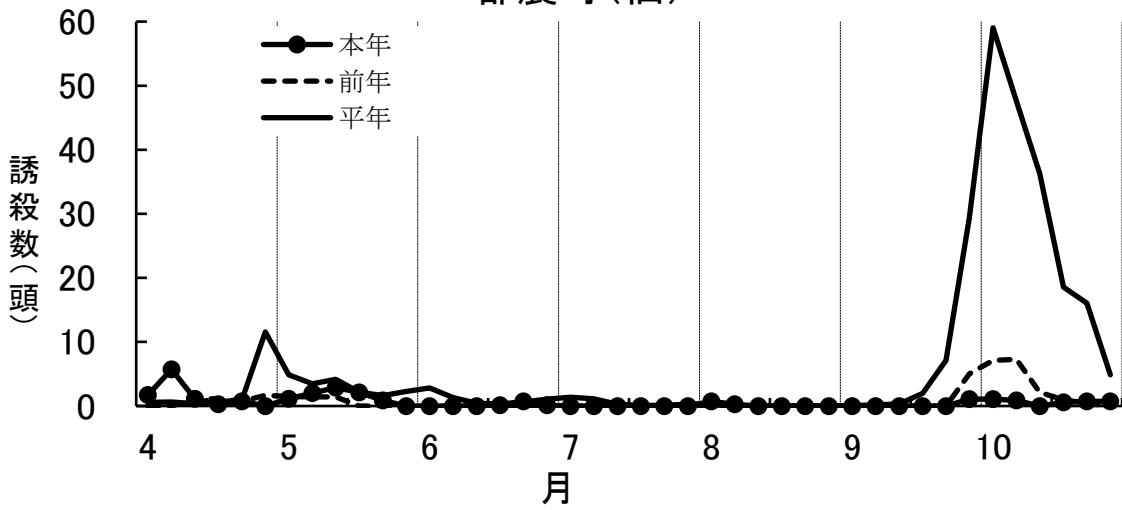
※「-」は欠測

平成30年度フェロモントラップ誘殺数（ツヤアオカメムシ）

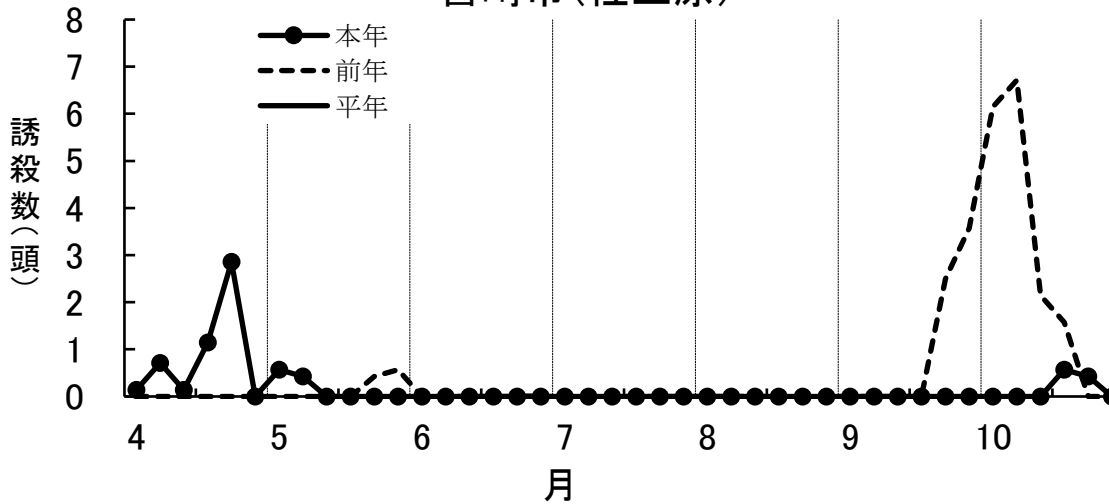
延岡市(片田)



都農町(佃)



宮崎市(佐土原)



7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: やや遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: 並	776ha	初確認は5月30日(平年: 5月22日、前年5月17日)。6月中旬は発生未確認で平年比やや少であった。6月下旬から7月中旬では、発生面積率、発病度、発病株率のいずれも平年並からやや少の発生であった。	移植後、好天に恵まれ、イネの生育は順調に推移した。6月上旬に日照不足や多雨による感染に好適な条件が続いたが、その後は晴れの日が多かった。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	583ha	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)は平年並の発生であった。	移植後、好天に恵まれ、イネの生育は順調に推移した。6月上旬に日照不足や多雨による感染に好適な条件が続いたが、その後は晴れの日が多かった。	穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: 多	2,134ha	7月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(発病度)は、平年に比べやや多の発生であった。	高温傾向であり、発生に好適な条件となった。	穂揃い期に防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 少	3,692ha	4月中旬の発生面積率は平年並、被害度はやや多であった。5月中旬の発生面積率及び被害度は平年比やや少であった。	-	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: 多	3,301ha	4月中旬の発生面積率および発生程度は平年並、5月中旬の発生面積率は平年に比べやや多、発生程度は多の発生であった。	-	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	2,917ha	6月下旬の本田調査では、発生面積率、発生程度(20回振すくい取り虫数)のいずれもやや多の発生であった。7月中旬の本田調査においては、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや少の発生であった。	作期の異なる稲が混在。	穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。 注意報第2号(H30.6.18)発表。 防除情報第4号(H30.6.29)発表。
普通期水稲	葉いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	3,302ha	本田での発生は6月中旬から確認された。発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べ並からやや少ない発生で推移した。	7~8月の高温により発生が抑制された。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	4,144ha	9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(発病穂率)は平年よりやや少の発生であった。	7~8月の高温により発生が抑制された。	穂ばらみ期と穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: やや少	7,598ha	7月下旬から確認され、8月中旬の発生面積率と発生程度はいずれも平年並の発生であった。9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度はやや少の発生であった。	気温は平年並~やや高めで推移したが、適期防除が行われた。	穂ばらみ期の防除。
	もみ枯細菌病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: やや少	472ha	9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年よりやや少の発生であった。	-	-
	内穎褐変病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	2,830ha	9月中旬の発生面積率、発生程度はいずれも平年に比べ少の発生であった。	-	-



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	セジロウンカ	平年: やや早い 前年: 早い	平年: 少 前年: やや少	7.076ha	予察灯初飛来は5月18日(平年6月5日、前年7月19日)であった。本田では6月中旬の巡回調査から確認され、8月中旬の発生面積率は平年よりやや少なく、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年より少ない発生であった。	初飛来以降、断続的に飛来はあったが誘殺頭数はやや少ない状況で推移した。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	トビロウンカ	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 少	1.651ha	予察灯初飛来は、7月5日(平年6月27日、前年6月21日)で平年よりやや遅かった。本田では、8月中旬から発生が確認され、9月中旬の発生面積率と発生程度(株当たり虫数)は平年より少の発生であった。	飛来量、飛来回数ともに少なかった。適期防除が行われた。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。防除情報第4号(H30.7.24)発表。
	ヒメトビウンカ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	9.434ha	7月中旬の発生面積率は平年比少、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年比やや少の発生であった。8月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年より少の発生であった。9月中旬の発生面積率は平年よりやや多、発生程度は平年並であった。	越冬量調査は行っていないが、冬期が低温傾向であったため平年より少ない発生推移であった。	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。
	ツマグロヨコバイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	8.019ha	8月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年よりやや少であった。9月中旬の発生面積率、発生程度はいずれも平年並の発生であった。	-	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	472ha	フェロモントラップでの初飛来は、7月29日(前年7月1日、平年6月20日)で遅かった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(被害葉率)のいずれもは平年に比べ少発生であった。	飛来量、飛来回数ともに少なかった。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	1.315ha	6月中旬の発生面積率及び発生程度(被害度)は平年よりやや多の発生であった。	-	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: 多	3.065ha	6月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(m <sup>2</sup> 当貝数)は平年よりやや多の発生であった。	-	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや多	5.661ha	8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(20回振すくい取り虫数)はいずれも平年よりやや少の発生であった。9月下旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年並であった。	出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
大豆	べと病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	107ha	9月中旬の巡回調査における発生面積率は平年よりやや少、発生程度(発病度)は平年並の発生であった。	-	種子消毒の徹底。
	葉焼病	平年: - 前年: -	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。		
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	250ha	8月中旬の発生面積率は平年比やや多、9月中旬の巡回調査における発生面積率は平年並であった。	-	若齢期の防除。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	107ha	9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(25株虫数)はいずれも平年よりやや多の発生であった。	-	さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしょ	イモキハガ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	1,204ha	8月中旬の巡回調査における発生面積率及び発生程度(被害葉率)は平年比やや少であった。9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年よりやや少、発生程度は平年に比べやや多の発生であった。	-	被害初期の防除。
	ナジロシタハ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	3,310ha	8月中旬の発生面積率と発生程度(被害葉率)は平年並であった。その後、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年よりやや少の発生であった。	-	つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	3,310ha	8月中旬の発生面積率と発生程度(被害葉率)は平年並であった。その後、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年よりやや少の発生であった。	-	他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:やや遅い 前年:並	平年:並 前年:並	49ha	5月中旬から発生が確認された。発生面積、発生程度(発病度)はいずれも平年並の発生であった。	-	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	194ha	4月中旬の発生面積率、発生程度(寄生度)はいずれも平年並の発生であった。	-	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	292ha	5月中旬の発生面積は平年より多、発生程度(株虫数)は平年よりやや多の発生であった。	-	幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:やや遅 前年:遅	平年:やや少 前年:少	0ha	5月中旬の発生面積、発生程度(被害株率)はいずれも平年よりやや少の発生であった。	-	若齢期の防除。
かんきつ	そうか病	平年:やや早い 前年:並	平年:やや多 前年:-	154ha	葉では平年比やや多、果実では平年並の発生であった。初発は、葉で4月25日(平年比-6日)、果実で5月10日(平年比-32日)であった。	適期防除と病葉除去の不徹底	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農業防除。
	黒点病	平年:早い 前年:早い	平年:並 前年:-	1002ha	8月までは平年並に推移し、9月以降に発病程度がやや高まった(9月中旬の果実における発生面積率72%、発病度12.5)。初発は、葉で5月10日(平年比-13日)、果実で6月7日(平年比-25日)であった。	8月の多雨による後期病斑の増加 適期防除の不徹底 枯れ枝等の放置	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:並 前年:遅い	平年:並 前年:-	154ha	葉及び果実での発生は、平年並で推移した。(葉における7月の発生面積率は11%、発病度は0.3)初発は、葉で5月15日(平年比-2日)、果実で7月10日(平年比+15)であった。	新梢の剪定が不徹底の園地で発生が多かった。ハモグリガはやや少の発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	464ha	発生面積及び発生程度は、平年並またはそれ以下で推移した。8月の発生面積率は33%、寄生葉率は5.6%。	5~8月の多雨 適期防除の不徹底 夏期マシン油の散布不徹底	発生初期の防除徹底。 同一系統薬剤の連用を避ける。 冬季、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	78ha	8月中旬に一部のほ場で発生が確認された(発生面積率6%、寄生果率0.1%)が、それ以外の時期での発生は認められなかった。	適期防除の不徹底	落花期から9月までの防除。
	ミカンハモグリガ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	232ha	新梢発生が長引いた園地での発生が6~7月に確認されたが、発生量は平年並~やや少の発生であった。7月の発生面積率17%、寄生葉率3.3%。	適期防除の不徹底	適期防除の徹底 新梢をだらだらと発生させないような肥培管理
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	232ha	5月に一部の一部のほ場で確認されたが、その後の発生は認められなかった。5月の発生面積率17%、寄生新梢率0.3%。	梅雨時期の多雨で発生が抑制された。	防除の徹底

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメムシ類	平年:並 前年:やや早い	平年:並 前年:-	555ha	予察灯調査では、2種(チャバナアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)とも4月上旬から誘殺され、チャバナで5月中旬と6月下旬、ツヤアオで4月下旬に誘殺ピークがみられた。フェロモントラップ調査では、チャバナは8月、ツヤアオは5~6月にピークがみられた。誘殺数は、いずれも平年より少ない傾向で推移した。果樹園への飛来が認められた地域もあったが、被害は確認されなかった。	ヒノキ穂果の量は平年並。	園内の発生状況の把握に努め、飛来を確認したら直ちに防除を行う。
茶	炭疽病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	664ha	7月の発生量(発生面積率47%)が最も高かったが、期間を通して少~並の発生で推移した。	5月以降の降雨は多かったが、気温は平年並~やや低く推移した。 適期防除の不徹底	二番茶・秋芽生育期の防除
	もち病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	166ha	山間部を主体に7月に比較的多く発生(発生面積率12%)がみられたが、期間を通じた発生量はやや少~並で推移した。	7月以降、雨は多かったが、気温が低めに推移した。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	166ha	7月の発生(発生面積率12%)が最も多かったが、発生量は概ね平年並で推移した。	7月以降、雨は多かったが、気温が低めに推移した。	摘採直後の防除 摘採機の洗浄
	チャノココクモンハマキ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	83ha	7月に発生を確認(発生面積率6%)したが、全般的には並~やや多の発生であった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	83ha	巡回調査で7月と9月に発生を確認(発生面積率6%)し、平年に比べて並~やや多の発生であった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャノココクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	331ha	6月以降に発生を確認し、発生ピークは7月(発生面積率24%)にみられたが、期間を通して平年並みで推移した。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	664ha	越冬後の寄生密度は平年並~やや少であった。 6月の発生(発生面積率47%)が多かったが平年並であり、それ以外の時期はやや少~少の発生であった。	5~8月に雨が多く、比較的低温で推移した。 適期防除の実施	適期防除
	チャノミドリヒメヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	747ha	8月の発生が最も多かった(発生面積率53%)が、それ以外の時期は平年並以下で推移した。	5~8月に雨が多く、比較的低温で推移した。 初期防除、適期防除の不徹底	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	746ha	9月の発生が最も多かった(発生面積率53%)が、それ以外の時期は平年並~少の発生で推移した。	5~8月に雨が多く、比較的低温で推移した。 適期防除により発生が抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
クワシロカイガラムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	581ha	一部園地で6月に発生が増加した時期もあったが(発生面積率41%)、全体的に平年並の発生で推移した。	5~8月に雨が多く、比較的低温で推移した。 適期防除により発生が抑えられた。	孵化最盛期に合わせた防除の徹底	
平成30年産 冬春キュウリ H29.9~30.6. (栽培期間)	べと病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	124ha	発生面積率、発病率ともに期間を通して平年並み以下であったが、後半の4月以降増加傾向になった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	灰色かび病	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年:やや遅い 前年:並	平年:並 前年:並	70ha	栽培当初、発生面積は平年よりやや少なく3月以降は平年並みとなったが、期間を通して発生程度はやや多かった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	褐斑病	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:やや少	21ha	栽培期間を通して平年並以下の発生であった。	湿度管理の不徹底 窒素質肥料の多用 発生初期の防除が不徹底	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:やや遅い 前年:並	平年:少 前年:やや少	89ha	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用等が徹底されてきたことから、栽培期間を通して少ない発生で推移した。MYSVの発生も平年並みであった。	定植時～定植初期の薬剤防除の不徹底 薬剤感受性の低下	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:少 前年:やや少	6ha	栽培当初は発生が少なかったが11月以降は平年並みの発生であった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
平成30年産 冬春ピーマン H29.9～30.6 (栽培期間)	モザイク病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:少	28ha	栽培当初は平年並みからやや多い発生であったが、1月以降の発生は少なく推移した。	施設内湿度管理の不徹底 発生初期の防除の不徹底 罹病葉の除去が不徹底	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	69ha	栽培期間を通してはおおむね平年並みであったが4月以降がやや多い発生となった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:遅い 前年:やや遅い	平年:少 前年:やや少	16ha	栽培期間を通して、平年よりも少～やや少の発生であった。	効果の高い化学薬剤の散布 天敵利用	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
平成30年産 冬春トマト H29.9～30.6 (栽培期間)	灰色かび病	平年:やや早い 前年:早い	平年:並 前年:やや多	23ha	12月中旬に葉での発生を確認して以降、徐々に葉及び果実での発生が拡大していった。年明けの1月中旬調査では、葉及び果実で発生面積率、発生程度(発病株率)のいずれも平年よりもやや多であった。	施設内管理の徹底 草勢管理の徹底	薬剤による防除
	葉かび病	平年:早い 前年:早い	平年:多 前年:並	36ha	11月～4月まで、発生面積率、発生程度(発病株率)のいずれも平年よりもやや多～多発生で推移した。	発生初期の対応の遅れ 作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し
	黄化葉巻病	平年:やや遅い 前年:並	平年:並 前年:並	2ha	定植後に発病株が散見されていたが、早期抜根処理を行っているため、その後の発生はみられなかった。	タバコナジラミ類防除の不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	コナジラミ類	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 少	39ha	栽培期間を通して、少～並で推移した。	育苗～定植初期における防除の不徹底 進入防止対策の不備	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年: 遅い 前年: 並	平年: 少 前年: 並	0ha	栽培期間を通して、少ない発生であった。	効果の高い化学薬剤の散布	初期防除の徹底 薬剤による防除
平成30年産 いちご H29.9～30.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年: 並 前年: やや早い	平年: やや少 前年: 並	12ha	定植直後から葉で発生が確認されているが、栽培期間を通して平年比少～並の発生であった。	夏季の高温による越夏量の減少 親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 並	0ha	親株床の潜在感染株調査で平年よりやや少なく、本ぼでの発生も少～並で推移した。	育苗期間の防除が不徹底、健全株の選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年: 並 前年: 早い	平年: 並 前年: やや多	35ha	親株床での発生はやや多かったが、H29年10月の調査では平年並の発生で、その後も平年よりやや少から並で推移した。	効果の高い薬剤が少ない	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: やや早い	平年: 並 前年: やや多	6ha	栽培当初は被害株が多く見られたが、年明け以降は発生も見られなくなった。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
	萎黄病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底	高温期の播種を避ける 連作を避ける
平成30年産 秋冬ダイコン H29.9～12 (栽培期間)	軟腐病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の不徹底 発病株の放置	排水を良くする
	コナガ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	251ha	11月以降、県内各地で発生が見られた。	初期防除の不徹底 薬剤感受性の低下	薬剤による防除
	ダイコンサルハムシ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	752ha	11月以降被害株が見られたが、平年に比べるとやや少ない発生であった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除

## (2)発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
早期水稲	6,410	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 6,346	(同) 6,346	0	0		
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 5,897	(同) 5,897	0	0		
		葉いもち	0	0	0	776	776	(同) 5,897	(同) 11,794	0	2,594		
		穂いもち	0	0	0	583	583	(同) 5,897	(同) 11,794	0	2,122		
		紋枯病	0	0	192	1,942	2,134	(同) 2,885	(同) 2,885	192	2,722		
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 5,769	(同) 5,769	0	0		
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		“(種)	0	0	0	0	0	(同) 6,346	(同) 6,346	0			
		ごま葉枯病	0	0	0	391	391	0	0	0	0	313	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	513	513	0	0		
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,903	
		“(種)	0	0	0	0	0	(同) 6,346	(同) 6,346	0			
		内穎褐変病	0	0	0	1,551	1,551	-	-	0	4,564		
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
セジロウンカ	0	0	0	0	1,750	(同) 513	(同) 513	0	4,970				
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同) 513	(同) 513	0	116				
ヒメトビウンカ	0	0	0	4,275	4,275	(同) 513	(同) 513	0	6,919				
ツマグロヨコバイ	0	0	0	2,718	2,718	(同) 513	(同) 513	0	5,098				

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,090	(同) 1,090	0		
		イネゾウムシ	0	0	0	391	391	(同) 1,090	(同) 1,090	0	427	
		斑点米カメムシ類	0	0	1,167	1,750	2,917	(同) 1,090	(同) 3,846	1,167	3,279	
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		フタオビコヤガ	0	0	0	583	583	0	0	0	0	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,093
		イネミズゾウムシ	0	0	0	3,692	3,692	(同) 1,090	(同) 1,090	0	5,243	
		スクミリンゴガイ	0	0	1,942	1,359	3,301	(同) 513	(同) 513	1,942	2,562	
普通期水稲	9,670	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 9,573	(同) 9,573	0	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 8,896	(同) 8,896	0	0	
		葉いもち	0	0	1,179	2,123	3,302	(同) 8,896	(同) 17,793	1,179	6,286	
		穂いもち	0	0	0	4,144	4,144	(同) 8,896	(同) 17,793	0	6,933	
		紋枯病	0	0	691	6,907	7,598	(同) 6,769	(同) 6,769	691	4,993	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 8,703	(同) 8,703	0	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		“(種)	0	0	0	0	0	(同) 8,703	(同) 8,703	0		
		ごま葉枯病	0	0	691	6,907	7,598	(同) 0	(同) 0	691	3,016	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		黄 萎 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	472	472	(同) 0	(同) 0	0	3,098	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,573	(同) 9,573	0		
		内 穎 褐 変 病	0	0	0	2,830	2,830	0	0	0	7,590	
		稲 こ う じ 病	0	0	708	1,179	1,887	(同) 6,769	(同) 6,769	708	1,954	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同) 4,738	(同) 4,738	0		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	(同) 0	(同) 0	0		
		セ ジ ロ ウ ン カ	0	0	0	0	7,076	(同) 9,573	(同) 18,953	0	10,313	
		ト ビ イ ロ ウ ン カ	0	0	0	1,651	1,651	(同) 9,573	(同) 18,953	0	7,461	
		ヒ メ ト ビ ウ ン カ	0	2,359	2,830	4,245	9,434	(同) 9,573	(同) 18,953	2,595	10,066	
		ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	0	0	0	8,019	8,019	(同) 9,573	(同) 18,953	0	8,262	
		イ ネ ハ モ ク リ ハ エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イ ネ ヒ メ ハ モ ク リ ハ エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イ ネ ド ロ オ イ ム シ	0	0	0	0	0	(同) 1,644	(同) 1,644	0		
		イ ネ ゾ ウ ム シ	0	0	0	472	472	(同) 1,644	(同) 1,644	0		
		斑 点 米 カ メ ム シ 類	0	472	1,179	4,010	5,661	(同) 4,932	(同) 5,802	1,651	5,037	
		イ ネ ツ ト ム シ	0	0	0	236	236	0	0	0		
		フ タ オ ビ コ ヤ ガ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イ ネ ヨ ト ウ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ア ワ ヨ ト ウ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		コ ブ ノ メ イ ガ	0	0	0	472	472	(同) 7,736	(同) 7,736	0	4,875	
		イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	0	0	435	880	1,315	(同) 1,644	(同) 1,644	435	2,129	
		ス ク ミ リ ン ゴ ガ イ	0	435	2,195	435	3,065	(同) 774	(同) 774	2,630	2,847	
大豆	250	紫 斑 病	0	0	0	0	0	0	0	0	50	
		さ び 病	0	0	0	0	0	0	0	0	15	



農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		立枯性病害	0	0	0	0	0	0	0	0		
		べと病	0	0	0	107	107	0	0	0	232	
		葉焼病	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0		
		アブラムシ病	0	0	0	0	0	(同) 175	(同) 175	0	36	
		コガネムシ類	0	0	0	29	29	(同) 175	(同) 175	0	223	
		ハスモンヨトウ	0	143	107	0	250	(同) 175	(同) 175	250	293	
		ハダニ類	0	0	0	0	0	0	0	0		
		タ`イス`サヤタマハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		マメヒメサヤムシカ`	0	0	0	0	0	0	0	0		
		マメシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	20	
		シロイチモシ`マダ`ラメイカ`	0	0	0	0	0	0	0	0	22	
		カメムシ類	0	0	0	107	107	(同) 175	(同) 175	0	169	
		ウコンノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0		
さつまいも	3,610	ナカジロシタバ	1203	602	903	603	3,310	(同) 3,033	(同) 5,992	2,708	3,216	
		ハスモンヨトウ	1203	602	903	603	3,310	(同) 3,033	(同) 5,992	2,706	3,216	
		イモコガ	602	0	0	602	1,204	(同) 3,033	(同) 5,992	602	2,098	
じゃがいも	486	疫病	0	0	0	49	49	(同) 291	(同) 583	0	164	
		アブラムシ類	0	0	0	194	194	(同) 291	(同) 583	0	312	
		ニシ`ユウヤホシテントウ	0	0	49	243	292	(同) 291	(同) 583	0	121	
かんきつ	1,388	そうか病(春葉)	0	0	0	154	154	972	972	0	47	
		温州	0	0	0	78	78	972	1,944	0	778	
	720	黒点病(果実)	0	0	540	462	1,002	972	2,916	540	952	
		晩柑	0	0	0	154	154	972	972	0	203	
	668	かいよう病(果実)	0	0	0	78	78	972	972	0	150	
		日焼け炭疽病	0	0	0	78	78	0	0	0	124	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		ミカンハダニ	0	0	78	386	464	(同) 1,388	4,858	78	705	
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同) 1,388	(同) 4,858	0	0	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	78	78	1,249	3,747	0	47	
		ミカンハモグリガ	0	0	154	78	232	232	348	154	539	
		アブラムシ類	0	0	0	232	232	232	232	0	273	
		カメムシ類	0	0	0	555	555	555	1,110	0	465	
茶	1,410	炭疽病	0	0	83	581	664	1,410	4,935	83	933	
		もち病	0	0	0	166	166	(同) 1,410	(同) 1,410	0	213	
		網もち病	0	0	0	0	0	(同) 1,410	(同) 4,935	0	0	
		輪斑病	0	0	0	166	166	1,410	2,820	0	300	
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	83	83	(同) 1,410	(同) 4,935	0	57	
		チャハマキ	0	0	0	83	83	(同) 1,410	(同) 4,935	0	68	
		チャノホソガ	0	0	0	331	331	(同) 1,410	(同) 4,935	0	1,097	
		カンザワハダニ	0	83	83	498	664	1,410	3,525	166	752	
		チャノミドリヒメヨコハイ	0	83	0	664	747	(同) 1,410	(同) 4,935	83	885	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	746	746	(同) 1,410	(同) 4,935	0	964	
		クワシロカイカラムシ	0	0	166	415	581	494	741	166	598	
カスミカメ類	0	0	0	83	83	212	212	0	626			
冬春キュウリ (H29.9 ~H30.6)	365	べと病	8	0	16	100	124	347	1,733	24	161	
		炭そ病	0	0	0	0	0	153	306	0	0	
		疫病	0	0	0	0	0	146	146	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	146	146	0	6	
		うどんこ病	8	4	12	46	70	365	1,459	24	120	
		褐斑病	0	4	8	9	21	350	1,051	12	60	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	91	182	0	1	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	0	4	8	77	89	347	2,079	12	168	
		アブラムシ	0	0	0	9	9	146	146	0	1	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
冬春ピーマン (H29.9 ~H30.6)	195	疫 病	0	0	0	0	0	82	82	0	0	
		斑 点 病	0	0	0	28	28	156	622	0	62	
		斑 点 細 菌 病	0	0	0	0	0	39	39	0	0	
		う ど ん こ 病	0	5	5	60	69	171	513	9	78	
		灰 色 か び 病	0	0	0	0	0	49	97	0	0	
		モ ザ イ ク 病	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		ア ブ ラ ム シ 類	0	0	0	3	3	97	195	0	7	
		タ バ コ ガ	0	0	0	0	0	107	214	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	2	14	16	189	1,321	2	87	
ヒラズハナアザミウマ	9	19	32	39	100	189	1,321	60	75			
冬春トマト (H29.9 ~H30.6)	149	疫 病	0	0	0	0	0	112	447	0	4	
		灰 色 か び 病	0	0	0	23	23	134	268	0	20	
		葉 か び 病	0	2	13	21	36	104	313	15	15	
		コ ナ ジ ラ ミ 類	0	0	2	37	39	149	1,043	2	62	
		ハ モ グ リ バ エ 類	0	0	0	0	0	122	244	0	11	
		モ ザ イ ク 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ア ブ ラ ム シ 類	0	0	0	2	2	67	134	0	1	
		(含ミニ) ハ ス モ ン ヨ ト ウ	0	0	2	9	11	67	134	2	15	
冬春イチゴ (H29.9 ~H30.5)	60	灰 色 か び 病	0	0	0	0	0	53	106	0	5	
		う ど ん こ 病	0	1	3	8	12	60	120	4	26	
		炭 そ 病	0	0	0	0	0	15	30	0	7	
		ア ブ ラ ム シ 類	1	1	0	17	18	60	180	2	28	
		ハ ダ ニ 類	3	4	6	22	35	60	240	13	46	
		ハ ス モ ン ヨ ト ウ	0	0	0	6	6	60	120	0	8	
秋冬ダイコン (H29.9~12)	1,254	モ ザ イ ク 病	0	0	0	251	251	0	0	0	282	
		ア ブ ラ ム シ 類	0	0	0	502	502	778	778	0	703	
		キスジノミハムシ	0	0	0	125	125	251	251	0	148	

8) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、防除情報、特殊報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
注意報	1	4月27日	冬春トマト（ミニトマトを含む）	葉かび病	次ページ以降を参照
	2	6月18日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	3	12月25日	冬春ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	
	4	12月25日	冬春きゅうり	べと病	
	5	2月27日	冬春イチゴ	ヒラズハナアザミウマ	
	6	2月27日	冬春トマト（ミニトマトを含む）	葉かび病、すすかび病	
防除情報	1	5月31日	施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）	施設野菜の病害虫（主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類）	
	2	6月8日	イチゴ（親株床）	炭疽病、うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類	
	3	6月18日	サトイモ	疫病	
	4	6月29日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	5	7月24日	普通期水稲、飼料イネ	トビイロウンカ、セジロウンカ	
	6	7月19日	サトイモ	疫病	
	7	11月30日	冬春ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	
	8	11月30日	冬春トマト（ミニトマトを含む）	すすかび病、葉かび病、灰色かび病	
	9	3月8日	—	早春期の病害虫対策	

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
特殊報	1	8月27日	ライチ	ハンエンカタカイガラムシ属の一種、ミカンコナカイガラムシ、ヒラタカタカイガラムシ属の一種または <i>Coccus pratermissus</i>	次ページ以降を参照
	2	11月26日	オリーブ	オリーブ立枯病（仮称） <i>Ralstonia solanasearum</i>	
	3	12月25日	ラナンキュラス	ラナンキュラス葉化病 <i>Candidatus Phytoplasma asteris</i>	
	4	1月22日	かんしょ	サツマイモ基腐病（仮称） <i>Plenodomus destruens</i> サツマイモ乾腐病 <i>Diaporthe batatas</i>	

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第1号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

---

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第1号

平成30年4月27日  
宮 崎 県

病害虫名 葉かび病

作物名 冬春トマト（ミニトマトを含む）

**平成29年12月25日付防除情報で注意喚起を行いましたが、依然、発生が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。**

1 発生地域 県下全域

2 発生量 葉かび病 多

### 3 注意報の根拠

- 1) 平成29年12月25日付で病害虫発生予察防除情報第10号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年に比べてやや多で推移している。
- 2) 4月中旬の巡回調査における発生面積率は50.0%（前年50.0%、平年28.8%）、発病葉率は16.1%（前年12.0%、平年5.5%）で、いずれも平年に比べ多の発生であった（図1, 2）。  
発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている。
- 3) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高く、降水量は平年並の予報であるが、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台4月19日発表1ヶ月予報）。

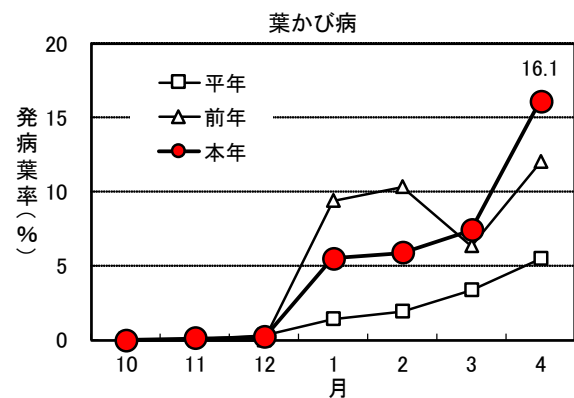
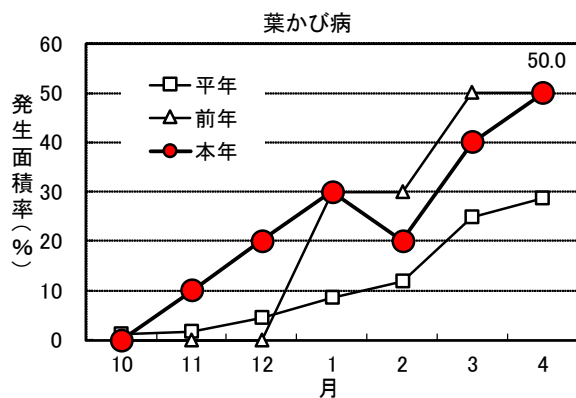


図1 巡回調査における発生面積率の推移

図2 巡回調査における発病葉率の推移

#### 4 防除上の注意

- 1) 密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。
- 2) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、すみやかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
- 3) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病が認められたら直ちに薬剤散布を行う。散布の際は、農薬が葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。
- 4) 農薬による防除では、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。
- 5) 抵抗性品種が複数市販されているが、打破するレースも認められているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、本病の発病には注意する。

#### 5 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

#### 【参考】葉かび病の症状



葉裏にだ円形～不整多角形の淡緑色で周縁が不鮮明の病斑を生じ、その上に灰紫色のカビを生じる。

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 (病害虫防除・肥料検査センター) 松浦・倉永  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第2号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第2号

平成30年6月18日  
宮崎県

### 斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。 防除対策の徹底を図りましょう。

病害虫名 斑点米カメムシ類

作物名 早期水稲

1. 発生地域 : 早期水稲栽培地帯
2. 発生時期 : 穂ばらみ期
3. 発生程度 : やや多

#### 4. 注意報の根拠

(1) 6月中旬の巡回調査における水田ほ場でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生面積率は33.4%（前年45.2%、平年17.7%）、発生程度（20回振りすくい取り虫数）は0.82頭（前年1.23頭、平年0.5頭）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であった（図1, 2）。

(2) 今後の気温は、平年に比べて高い確率が50%と見込まれており、降水量は平年並または平年より少ない確率が共に40%と見込まれている（鹿児島地方气象台1ヶ月予報6月14日発表）ことから、カメムシ類の活動に好適である。

早期水稲ほ場でのカメムシ類  
(発生面積率)

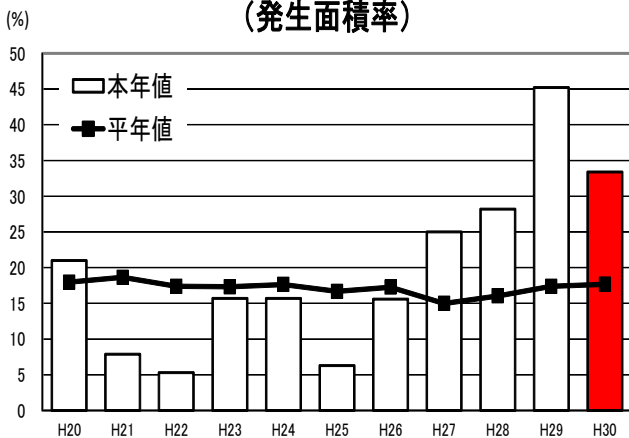


図1 発生面積率の推移

早期水稲ほ場でのカメムシ類  
(発生程度)

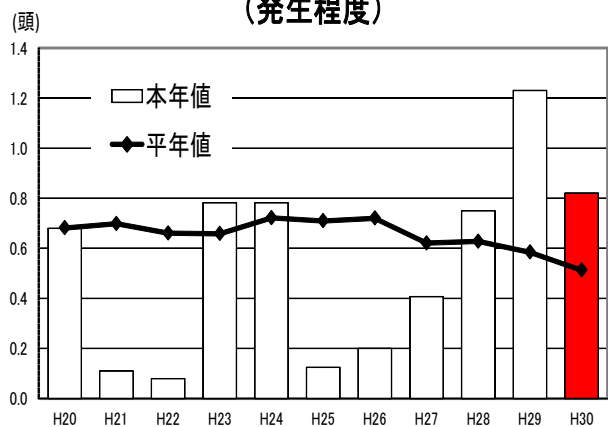


図2 発生程度(20回振りすくい取り虫数)の推移



## 5. 防除上の注意

- (1) 防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本である。高密度の場合はさらに追加防除が必要である。
- (2) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、広域の集団一斉防除に努め防除効率を高める。
- (3) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。  
なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要である（ラベル表示を確認すること）。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

●6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

### 《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 黒木

TEL：0985-73-6670

Fax：0985-73-7499

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第3号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

### 平成30年度病害虫発生予察注意報第3号

平成30年11月30日付防除情報で注意喚起を行いました、依然、発生が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : ヒラズハナアザミウマ
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多

#### 5 注意報の根拠

- 1) 平成30年11月30日付で病害虫発生予察防除情報第7号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年に比べ多い発生で推移している。
- 2) 12月中旬の巡回調査における発生面積率は72.8%（前年75.0%、平年50.7%）（図1）、10花当たり虫数は18.1頭（前年7.7頭、平年5.9頭）（図2）、寄生花率は40.9%（前年23.7%、平年18.7%）（図3）で、いずれも平年に比べ多の発生であった。10花当たり虫数と寄生花率については過去10年で最も高くなっている。
- 3) 向こう1か月の気象予報では、晴れの日が多く、気温は平年に比べ高い傾向であると予想されており、ヒラズハナアザミウマの増殖に好適な条件が続くと考えられる。（鹿児島地方気象台12月13日発表1ヶ月予報）。

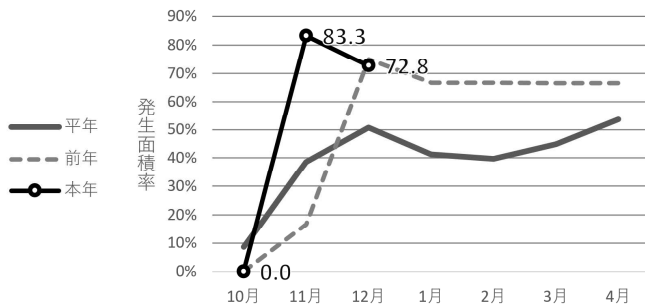


図1 発生面積率の推移

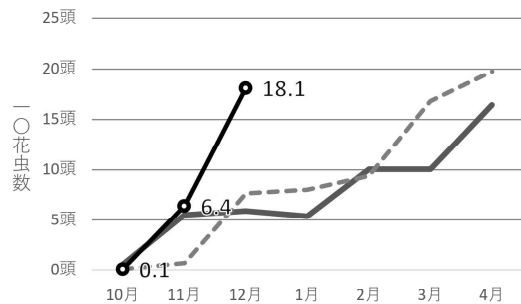


図2 10花当たり虫数の推移

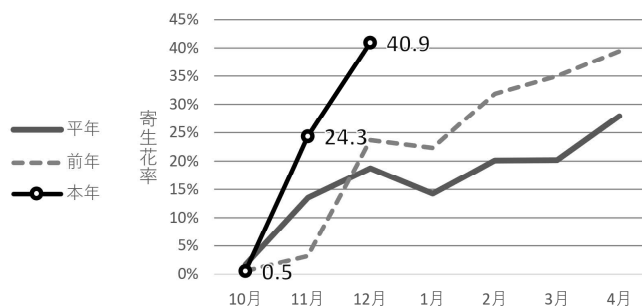


図3 寄生花率の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発時は更に連続した防除を徹底する。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤を選択する。
- 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤防除は、薬液が花内にしっかり付着するように行う。また、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 5) ピーマンの花数が減少する時期は防除適期となるので、この時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- 6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

## 6 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 （病害虫防除・肥料検査センター） 森下  
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127  
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第4号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第4号

きゅうりべと病の発生が急激に多くなっています。  
防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : ベと病
- 2 作物名 : 冬春きゅうり
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多

### 5 注意報の根拠

- 1) 12月中旬の巡回調査における発生面積率は53.3%（前年41.2%、平年36.1%）（図1）、発病葉率は24.3%（前年3.5%、平年3.4%）（図2）で、いずれも平年に比べ多い発生であった。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている。

- 2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高く、降水量は平年並～多い傾向の予報であり、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台12月13日発表1ヶ月予報）。

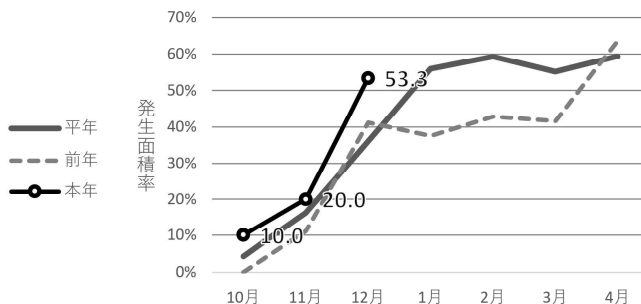


図1 発生面積率の推移

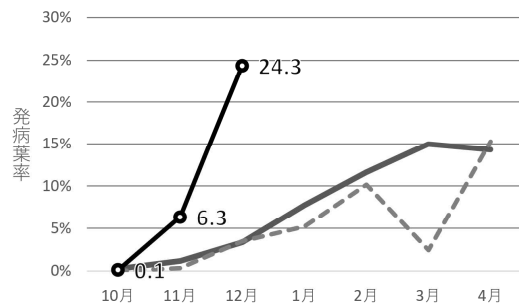


図2 発病葉率の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 気象条件や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、葉に結露が生じないように換気や温度調節を行い、施設内の管理を徹底する。
- 2) 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- 3) 多発すると防除が困難となるので予防散布に重点をおき、発生が見られたら初期防除を徹底する。
- 4) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、速やかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
- 5) 多発時はべと病を対象とする専用の農薬を使用し、新葉の展開にあわせて葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。また、多発時の1回散布では、防除効果が現れにくいことがあるので、7日間隔で2回以上の連続防除を実施する。
- 6) 農薬による防除では、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。また複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。

## 7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課 (病虫害防除・肥料検査センター) 森下 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
---

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第5号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第5号

イチゴのヒラズハナアザミウマの発生が多くなっています。  
ほ場を確認し、発生が多い場合は防除を行いましょう。

- 1 病害虫名 : ヒラズハナアザミウマ
- 2 作物名 : 冬春イチゴ
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多
- 5 注意報の根拠

1) 2月中旬の巡回調査における発生面積率は33.3%（前年16.7%、平年13.3%）、寄生花率は6.2%（前年2.3%、平年1.1%）で発生面積率が平年よりやや多、寄生花率が平年より多の発生である（図1）。寄生花率10%以上で被害果が発生する恐れがあるため、注意が必要である（生咲ら、2005）。

2) 向こう1か月の気象予報では、気温が平年に比べ高い傾向が続くと予想され、本種の生息に好適な条件が続くと考えられる（鹿児島地方気象台2月14日発表1ヶ月予報）。これからの時期、気温の上昇に伴い施設内での発生が増加するとともに外からの飛び込みも多くなるため注意が必要である。

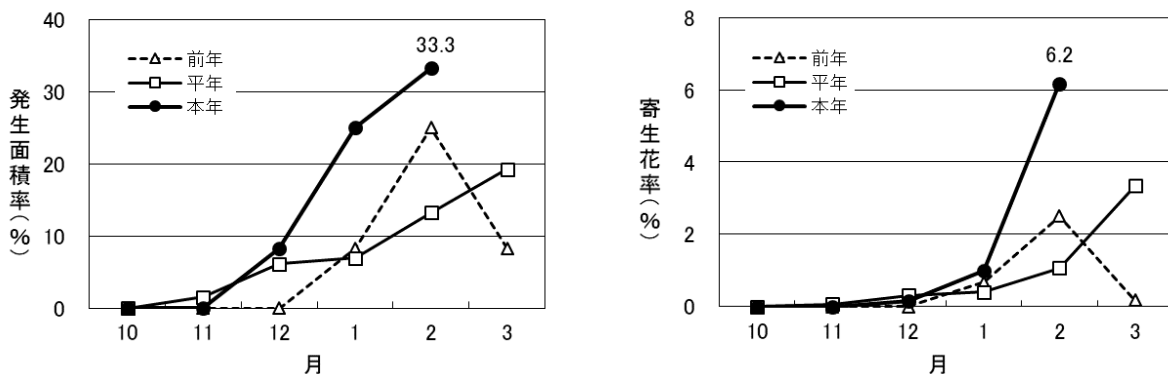


図1. ヒラズハナアザミウマの発生面積率(左)と寄生花率(右)の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 施設内および周辺の雑草は、発生源となるので除草する。
- 2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- 3) ヒラズハナアザミウマは、主に花の内部に生息することから、花への薬剤の付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 4) 天敵や訪花昆虫に対して影響の少ない薬剤を選択する。
- 5) 青色に誘引されるため、青色粘着板を設置し、誘殺による継続的な密度低下を図る。
- 6) 高密度の防除は困難なので、低密度のうちに防除する。多発時には、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくいので、最少でも7日間隔で連続防除を行う。

## 7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 松浦・倉永

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第6号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第6号

トマトの葉かび病、すすかび病の発生が多くなっています。

適切なほ場管理と適期防除に努めましょう。

- 1 病害虫名 : 葉かび病、すすかび病
- 2 作物名 : 冬春トマト（ミニトマトを含む）
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : やや多

### 5 注意報の根拠

- 1) 2月中旬に実施した巡回調査において、葉かび病の発生面積率は平年より**多**、程度（発病葉率）は平年より**やや多**であり、すすかび病は発生面積率が平年並、程度が平年より**多**の発生であった（図1、図2）。

#### 葉かび病

発生面積率：30.0%（前年 20.0%、平年 13.2%）      平年より多  
発病葉率：7.4%（前年 5.9%、平年 2.4%）      平年よりやや多

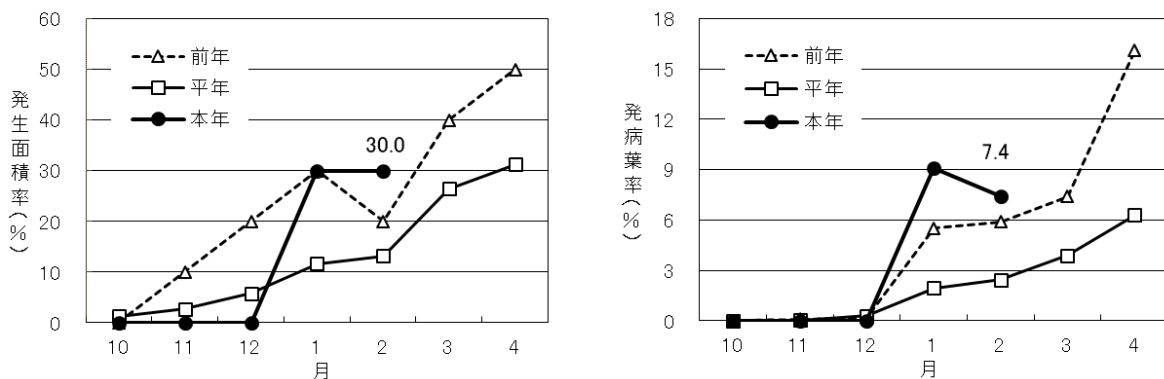


図1. 葉かび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)の推移



## すすかび病

発生面積率：20.0%（前年 30.0%、平年 14.4%）

発病葉率：4.1%（前年 0.5%、平年 1.4%）

平年並

平年より多

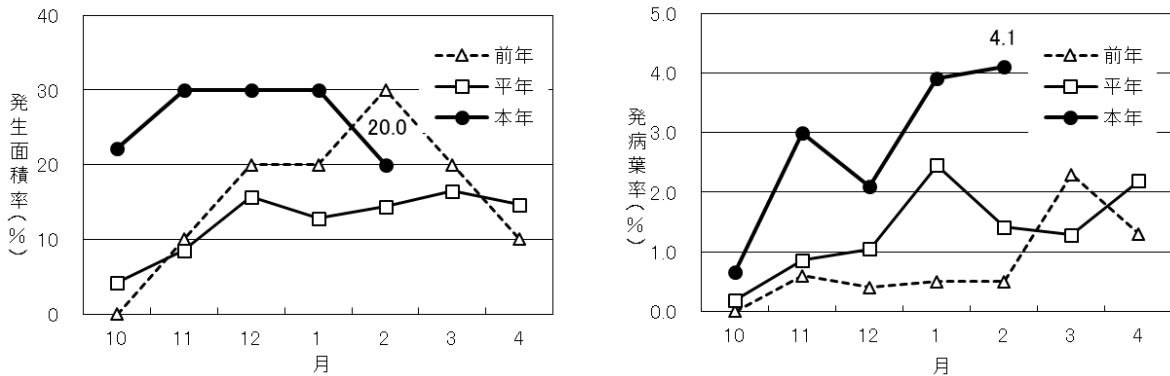


図2. すすかび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)の推移

- 2) 向こう1か月の気象予報では、平年に比べ気温が高く、降水量が多い予報である。そのため、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台2月14日発表1ヶ月予報）。

## 6 防除上の注意

- 1) 両病害とも密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。さらに、加温機で送風を行うなどして発病しにくい環境作りに努める。
- 2) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、すみやかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
- 3) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおく。発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。
- 4) 今後は、灰色かび病等、他の病害の発生も多く見られるようになるので、日頃からほ場をよく観察し、施設内管理を徹底するとともに早期発見・防除に努める。

## 7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課  
(病虫害防除・肥料検査センター) 松浦・倉永

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第1号

施設野菜の病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### 栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を適切に行い、次期作付けのための病害虫対策を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病害虫名 施設野菜の病害虫（主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類）
- 3 発生状況（経過）

施設野菜の4月の巡回調査結果は以下の通りであった。

#### （1）冬春きゅうり

- ・ミナミキイロアザミウマ  
発生面積率：45.5%（前年53.3%、平年70.0%） 平年より少  
100葉当たり虫数：10.7頭（前年96.5頭、平年219.4頭） 平年より少

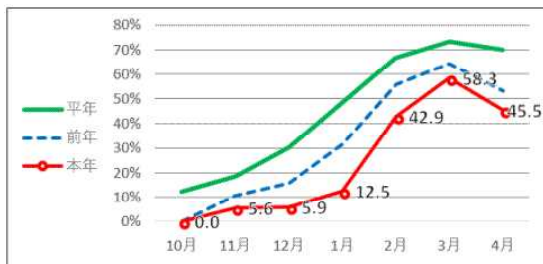


図1 発生面積率の推移

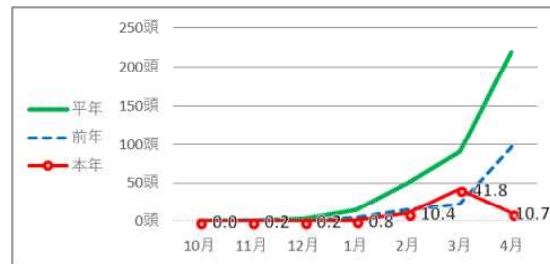


図2 100葉当たり虫数の推移

- ・黄化えそ病（MYSV）  
発生面積率：0.0%（前年33.3%、前々年23.1%） 過去8カ年間で6番目に多い  
発病株率：0.0%（前年0.2%、前々年0.8%） 過去8カ年間で5番目に多い

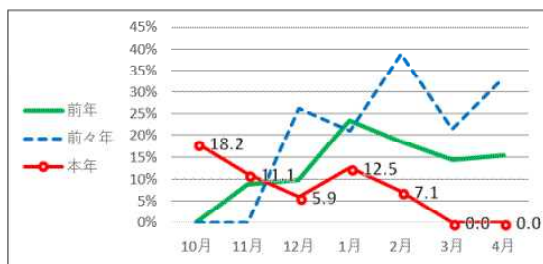


図3 発生面積率の推移

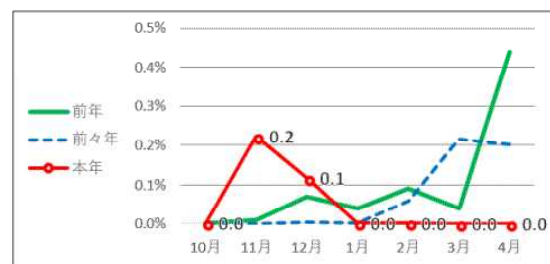


図4 発病株率の推移

## (2) 冬春ピーマン

### ・ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：0.0%（前年36.4%、平年55.4%）  
10花当たり虫数：0.0頭（前年0.2頭、平年3.8頭）

平年より少  
平年より少



図5 発生面積率の推移



図6 10花当たり虫数の推移

### ・ヒラズハナアザミウマ

発生面積率：66.6%（前年54.6%、平年50.4%）  
10花当たり虫数：19.8頭（前年20.3頭、平年14.7頭）

平年よりやや多  
平年並



図7 発生面積率の推移

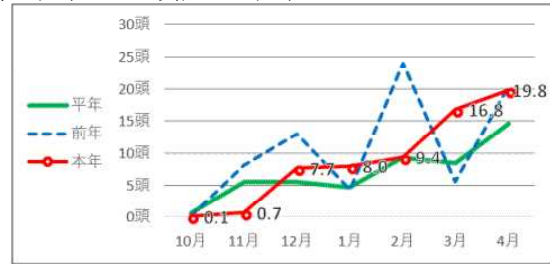


図8 10花当たり虫数の推移

## (3) 冬春トマト

### ・タバココナジラミ

発生面積率：20.0%（前年50.0%、平年44.9%）  
100葉当たり虫数：0.8頭（前年23.0頭、平年7.9頭）

平年より少  
平年より少



図9 発生面積率の推移

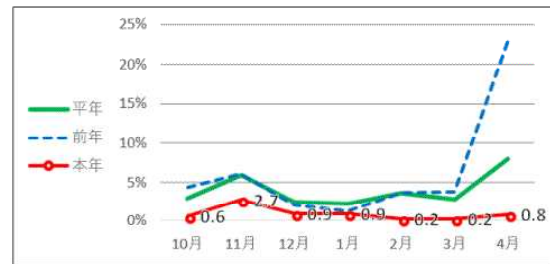


図10 100葉当たり虫数の推移

## (4) イチゴ（3月調査）

### ・ハダニ類

発生面積率：83.4%（前年92.3%、平年79.1%）  
寄生株率：24.0%（前年28.9%、平年26.8%）

平年並  
平年並

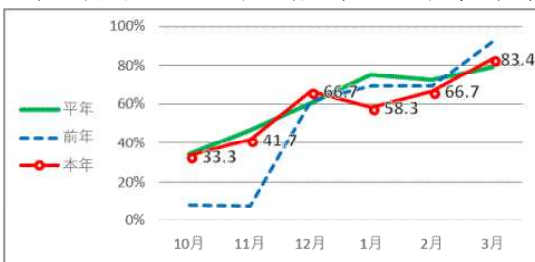


図11 発生面積率の推移

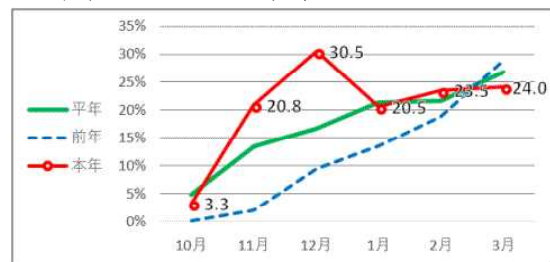


図12 寄生株率の推移

## 4 防除上の注意

### 1) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ① いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきた。次作での発生を抑制するためには、**栽培終了時の施設外への飛散を防ぐことが重要である。**
- ② 栽培終了時には、作物及び雑草は株を抜根し、すぐに**施設を密閉して蒸し込みを行う。**蒸し込み期間は蛹が羽化する期間を考慮して、少なくとも10日間以上を確保し、病虫害の拡散防止を徹底する。
- ③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、**ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。**
- ④ ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病(MY S V)については、次期作に向け、周辺にウイルスを拡散させないために、栽培終了時には必ず防除と蒸し込みを行い、生き残ったミナミキイロアザミウマを死滅させる。具体的には、**ミナミキイロアザミウマの防除を行ってから株を抜根した上で、施設を密閉して20日間蒸し込む。**

### 2) 土壌病虫害

- ① **作物残さは施設外に持ち出し適切に処分する。**残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。
  - ② 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、**残さを分解させた後に処理すること**で高い防除効果が得られる。
  - ③ 施設内で使用した**資材・農機具などについても消毒を行う**など、徹底して病原菌や線虫など土壌病虫害の密度を減らすことが重要である。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。
  - 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

#### 《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 森下 倉永  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp  
ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第2号

イチゴの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### イチゴの親株や育苗床の病害虫対策を徹底しましょう。

- 1 作物名 イチゴ（親株床）
- 2 病害虫名 炭疽病、うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類

#### 3 発生状況（経過）

5月上旬から中旬にかけての巡回調査の結果は、次の通りであった。

##### 1) 炭疽病（潜在感染状況調査6月上旬）

感染ほ場率 : 66.7% (平年 39.6%、前年 9.1%) **平年より多**  
 潜在感染株率 : 12.5% (平年 10.5%、前年 1.8%) **平年よりやや多**

##### 2) うどんこ病

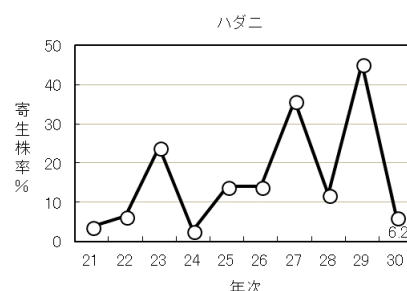
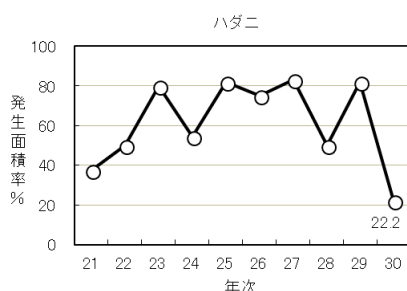
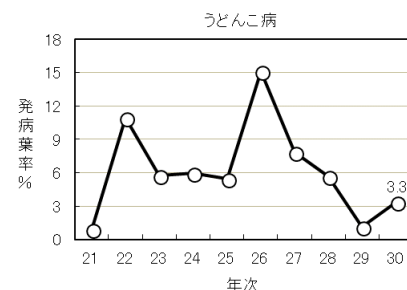
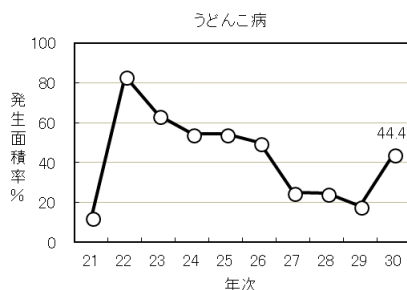
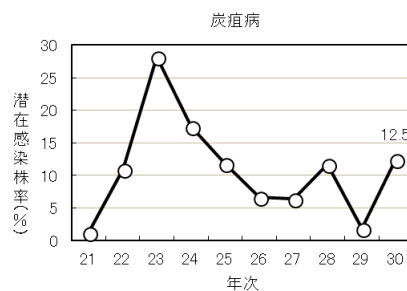
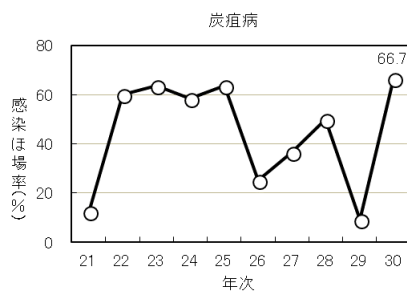
発病面積率 : 44.4% (平年 46.4%、前年 18.2%) **平年並**  
 発病株率 : 3.3% (平年 8.5%、前年 1.1%) **平年よりやや少**

##### 3) ハダニ類

発生面積率 : 22.2% (平年 66.1%、前年 81.9%) **平年より少**  
 寄生株率 : 6.2% (平年 17.3%、前年 45.5%) **平年よりやや少**

##### 4) アブラムシ類

発生面積率 : 66.7% (平年 62.1%、前年 91.0%) **平年並**  
 寄生株率 : 8.2% (平年 15.0%、前年 31.1%) **平年並**



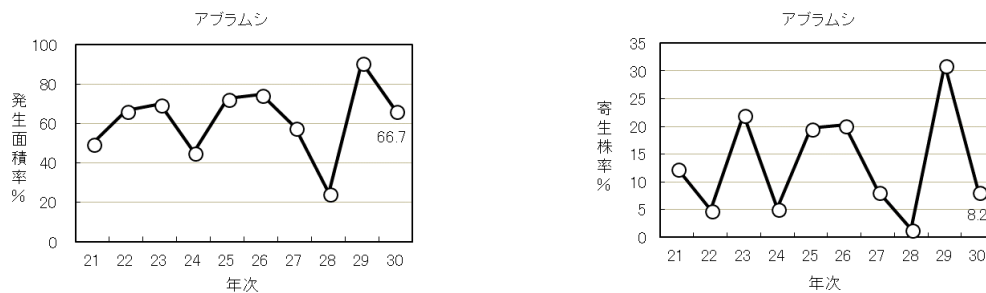


図1 親株床での病害虫の年次別発生状況

#### 4 防除上の注意

##### 1) 炭疽病

平年より多～やや多の発生であるため、以下の対策を徹底する。

- (1) 感染が確認された株は、病原菌が拡散する恐れがあるため、速やかに苗床や栽培ほ場から持ち出し、できるだけ離れた場所に埋却する等適切に処分する。感染株に隣接した株も感染の恐れが高いため、あわせて廃棄処分する。本病の簡易検定方法については、宮崎県農薬安全使用啓発ホームページを参照。
- (2) 降雨、台風の前や摘葉後には薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (3) 窒素過多などで軟弱な株は発病しやすくなるため適正な施肥に努める。
- (4) 感染株の発生に備え、予備苗を十分に確保するよう努める。

##### 2) うどんこ病

- (1) 過繁茂になると、株間の湿度が上がり感染しやすい環境になるので、適宜下葉の除去を行い、風通しをよくする。発病がみられなくても、定期的に防除を行い、本ほへの持ち込みを防ぐ。

##### 3) アブラムシ類、ハダニ類

- (1) いずれも急激に個体数を増加させる害虫であるため、発生初期のうちに、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。また、ハダニ類の発生初期は、スポット的に寄生しているので、葉裏を中心には場全体を注意深く観察する。
- (2) アブラムシ類は若い葉やランナーの先端部、ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した葉は、育苗ほ周辺に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。
- (3) 両害虫とも、イチゴ以外の植物にも寄生するので、育苗ほ周辺の除草を行う。
- (4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。また、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤等を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。

##### 4) その他病害

- (1) 萎黄病は、高温になると発生が多くなり、育苗時にはランナーで伝染するので、発病株はすみやかに、ほ場外に持ち出し処分する。

いずれの病害虫も本ほに持ち込むと根絶が困難であるため、育苗期間中に十分観察し、罹病・寄生株の早期防除・除去を行うとともに定植時の選別を徹底する。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

●6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 (病害虫防除・肥料検査センター) 森下・倉永  
 TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127  
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第3号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### 県内でサトイモ疫病の発生が確認されました。 地域の発生状況を踏まえて、適切な防除を実施しましょう。

1 作物名 サトイモ

2 病害虫名 疫病

#### 3 発生状況（経過）

1) 6月3半旬の巡回調査において、14ほ場中1ほ場でサトイモ疫病の発生が確認された（図1、写真1）。発生ほ場の発病株率は低く、1%未満であった。

2) 初確認の時期は、前年より2週間ほど早く（図1）、前々年とほぼ同時期となる。  
（初発時期）本年：6月3半旬 前年：6月6半旬 前々年：6月2半旬

3) 向こう1か月（6月16日～7月15日）の九州南部の気象予報（鹿児島地方気象台6月14日発表1か月予報）では、平年に比べ気温は高く、降水量は平年並か少ない見通しであるが、前半（6月16日～6月29日）は、曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生に好適な条件となる可能性がある。

4) 発病後は、例年7月上旬から8月中旬にかけて急速に蔓延する（図2）ことから、今後の発生動向に注意が必要である。

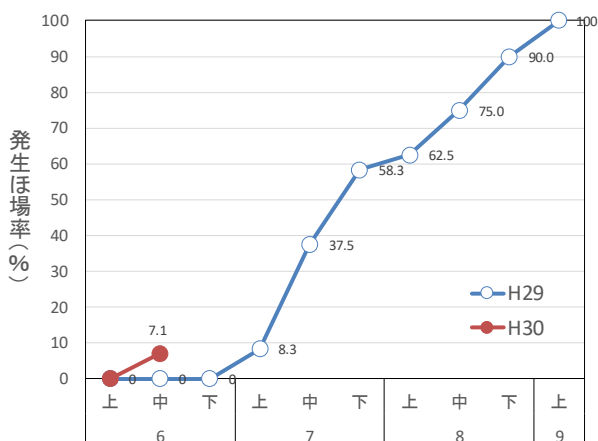


図1 巡回調査における発生ほ場率の推移  
（平成29年、平成30年）

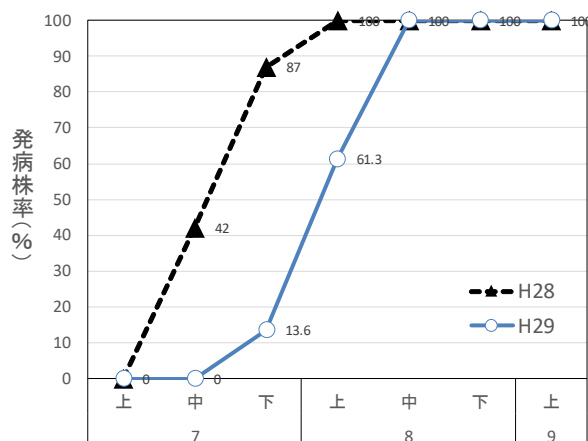


図2 巡回調査における発病株率の推移  
（平成28年、平成29年）

#### 4 本病の特徴

本病の病原菌である *Phytophthora colocasiae* は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉

柄上の病斑に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、二次感染が起る。

## 5 防除上の注意

1) 7月は、本病の感染に好適な時期である。**地域の発生状況を踏まえて薬剤による防除を実施する**（登録農薬は表1を参照）。

### (1) 未発生ほ場

発生の有無をこまめに確認し、ジーファイン水和剤による予防散布を中心に継続した防除を行う。隣接ほ場で発生が確認された場合はアミスター20フロアブルの散布を行う。

### (2) 既発生ほ場

①早生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを7日間隔で2回散布する。その後は、天候に留意しながらジーファイン水和剤の定期散布を実施する。**アミスター20フロアブルについては、使用回数が3回以内、使用時期が収穫14日前まで**となっているので、使用にあたっては十分注意する。

②中生～晩生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを1回散布し、その後はジーファイン水和剤を継続して散布する。病斑の上位伸展が続く場合は、再度アミスター20フロアブルを散布する。

2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量散布する（表1参照）。また、高温時の薬剤散布により薬害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。

3) 防除法の詳細等については、「平成29年増補改訂版サトイモ疫病対策マニュアル」を参照（宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ（<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>））。また、各地域の防除対策については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬（平成30年6月現在）

薬 剤 名	希釈倍数	散布液量	使用回数	使用時期
ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500L/10a	—	収穫前日まで
アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300L/10a	3回以内	収穫14日前まで

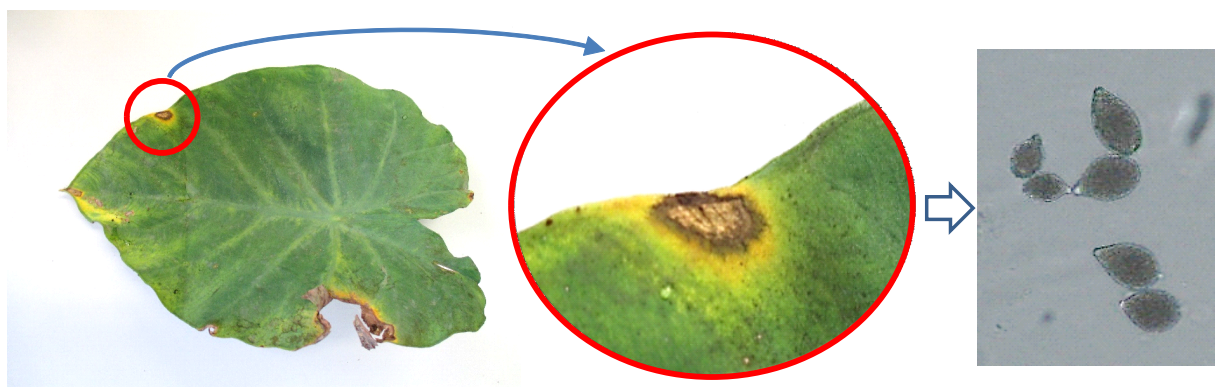


写真1 ほ場から採取したサトイモ葉(左)、病斑(中)及び疫病菌の遊走子のう

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
 (病害虫防除・肥料検査センター) 寺本  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第4号

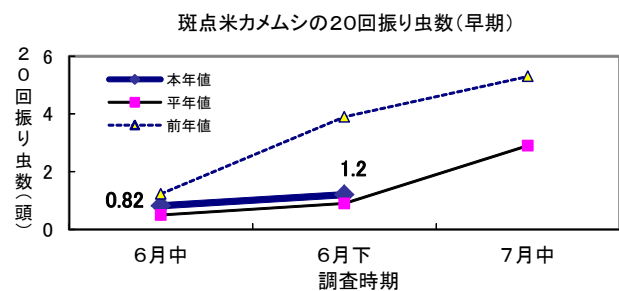
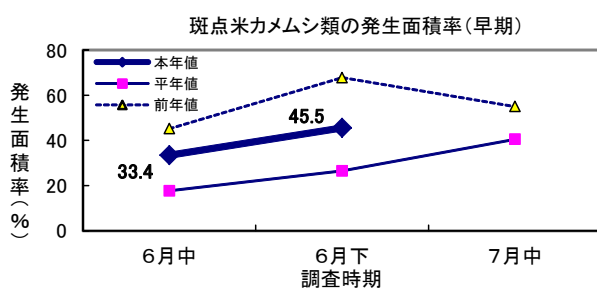
斑点米カメムシ類の発生状況についてお知らせします。  
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### 斑点米カメムシ類の適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 早期水稲
- 2 病害虫名 斑点米カメムシ類

#### 3 発生状況

- (1) 6月中旬の巡回調査における水田ほ場でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生面積率は33.4%（前年45.2%、平年17.7%）、発生程度（20回振りすくい取り虫数）は0.82頭（前年1.23頭、平年0.5頭）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であったため、**病害虫発生予察注意報第2号（平成30年6月18日付け）**を発出しているところである。
- (2) 6月下旬の巡回調査における早期水稲での生息密度（20回すくい取り）は、発生面積率45.5%（前年67.8%、平年26.6%）、すくい取り虫数1.2頭（前年3.9頭、平年0.9頭）で、**6月中旬に続き、発生面積率及びすくい取り虫数が平年よりやや多の状況が続いている。**
- (3) 種別では、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメムシの発生を確認しており、ホソハリカメムシの発生が平年よりやや多となっている。



#### 4 防除上の注意

- (1) **本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。**その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。
- (2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (3) 出穂の早い、または遅い水田には集中的に飛来するおそれがあるほか、ヒエがある場合は先に出穂するヒエにカメムシが集まる傾向があるので早めに処分す

る。

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- ・6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 黒木

Tel:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第5号

ウンカ類の飛来状況についてお知らせします。  
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

トビイロウンカ、セジロウンカの主要飛来が確認されました。今後の発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。

1. 作物名 普通期水稻、飼料用イネ
2. 病害虫名 トビイロウンカ、セジロウンカ

### 3. 発生状況

#### (1) トビイロウンカ

トビイロウンカは7月5日及び10日に延岡市の予察灯で飛来が確認された。

#### (2) セジロウンカ

セジロウンカについては6月5半旬以降、断続的に飛来が認められた。また、7月上中旬の普通期水稻巡回調査では、発生面積率17.1%（平年64.5%、前年2.5%）、発生程度0.1頭（平年18.3頭、前年0.0頭）で平年より少ない状況である。

### 4. 防除上の注意

#### (1) トビイロウンカ

ア 防除適期は、幼虫ふ化揃い期であり、7月5日に飛来したトビイロウンカの第1世代（飛来次世代）幼虫の防除適期は7月5～6半旬、第2世代幼虫の防除適期は8月3～6半旬と予想される。しかしながら、予想される防除適期は今後の天候により変動することがあるので、実際の発生状況を確認して防除を行う（別紙：トビイロウンカの発生世代予測を参照）。

イ 本年はトビイロウンカの競合種であるセジロウンカの飛来が少なく、九州南部地方の3ヶ月季節予報（鹿児島地方气象台、6月25日発表）によると、9月まで気温は高く推移する見込みで、トビイロウンカの増殖に好適な条件となっている。

ウ 本虫は株元に生息し、現在、低密度であっても、増殖率が高く、その後坪枯れを引き起こす場合があるので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。

エ 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

#### (2) セジロウンカ

ア 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意するとともに、トビイロウンカと併せて防除を行う。

イ 株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制される。6月末に飛来した個体群についてはすでに第1世代（飛来次世代）が生まれている。

ウ 飼料用（インディカ種）は、本虫に対する抵抗性が弱く、坪枯れ等が発生し易いので、発生状況に十分注意する。防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成26年12月第6版、平成29年12月1日一部改正）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成29年12月1日一

部改正)、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」(昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成29年12月1日一部改正)に沿って、適期防除に努める。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 黒木

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第6号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**県内でサトイモ疫病の発生が拡大しています。  
地域の発生状況を踏まえて、適切な防除を実施しましょう。**

1 作物名 サトイモ

2 病害虫名 疫病

3 発生状況（経過）

- 1) 6月3半旬の初発確認後、発生ほ場率は拡大している。特に7月上旬の台風第7号の影響による葉の損傷などもあり、発病程度も高まる傾向にある（図1）。
- 2) 本年の7月中旬の巡回調査における発生は、発生ほ場率50%、発病株率20.5%、発病度7.6で、前々年より少ないが前年より多い（表1、図1）。

表1 サトイモ疫病の発生状況（7月中旬巡回調査）

項目	平成28年	平成29年	平成30年
発生ほ場率（%）	100	37.5	50.0
発病株率（%）	42.0	0.4	20.5
発病度	11.0	0.1	7.6

- 3) 向こう1か月（7月14日～8月13日）の九州南部の季節予報（鹿児島地方气象台7月12日発表1か月予報）では、平年に比べ晴れの日が多い見通しであるが、サトイモ疫病は例年8月末までは急速に蔓延していることから、今後の発生動向に十分な注意が必要である。

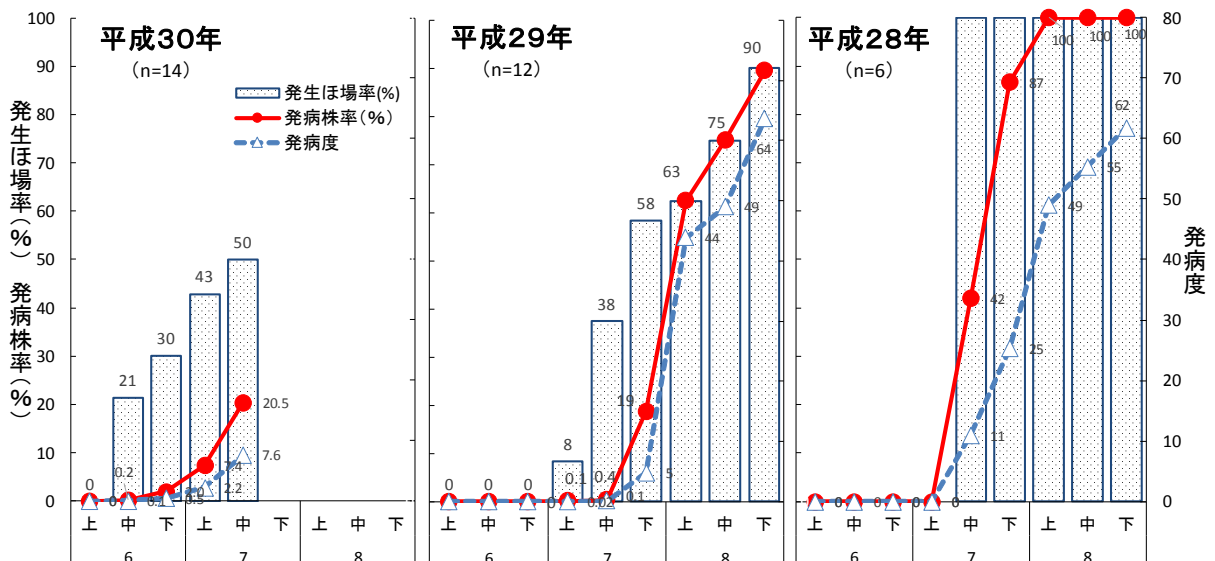


図1 サトイモ疫病の発生ほ場率および発病程度の推移

#### 4 本病の特徴

本病の病原菌である*Phytophthora colocasiae*は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、二次感染が起こる。

#### 5 防除上の注意

1) 7月は、本病の感染に好適な時期である。**地域の発生状況を踏まえて薬剤による防除を実施する**（登録農薬は表2を参照）。

##### (1) 未発生ほ場

発生の有無をこまめに確認し、ジーファイン水和剤による予防散布を中心に継続した防除を行う。隣接ほ場で発生が確認された場合はアミスター20フロアブルの散布を行う。

##### (2) 既発生ほ場

①早生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを7日間隔で2回散布する。その後は、天候に留意しながらジーファイン水和剤の定期散布を実施する。**アミスター20フロアブルについては、使用回数が3回以内、使用時期が収穫14日前まで**となっているので、使用にあたっては十分注意する。

②中生～晩生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを1回散布し、その後はジーファイン水和剤を継続して散布する。病斑の上位伸展が続く場合は、再度アミスター20フロアブルを散布する。

2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量散布する（表2参照）。また、高温時の薬剤散布は薬害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。

3) 防除法の詳細等については、「平成29年増補改訂版サトイモ疫病対策マニュアル」を参照（宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ（<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>））。また、各地域の防除対策については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。

表2 サトイモ疫病に対する登録農薬（平成30年6月現在）

薬剤名	希釈倍数	散布液量	使用回数	使用時期
ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500L/10a	—	収穫前日まで
アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300L/10a	3回以内	収穫14日前まで

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
（病害虫防除・肥料検査センター） 寺本  
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127  
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第7号

ピーマンの害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**ヒラズハナアザミウマの発生が増加しています。  
花への寄生数が多くなる前に防除を行いましょう。**

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

11月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は83.3%（前年16.7%、平年38.6%）で平年より多、10花当たり虫数は6.4頭（前年0.7頭、平年5.5頭）で平年並、寄生花率は24.3%（前年3.2%、平年13.5%）で平年より多となっている（図1～2）。

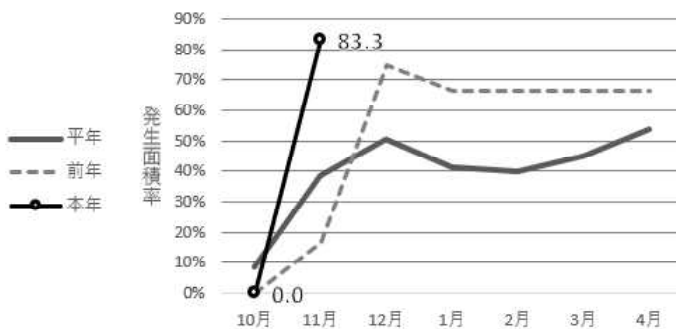


図1 発生面積率の推移

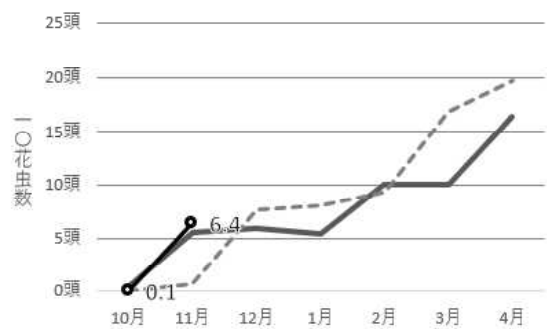


図2 10花当たり虫数の推移

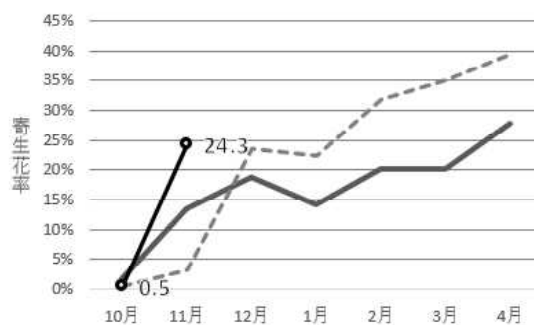


図3 寄生花率

#### 4 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発しているときは更に連続した防除を徹底する。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤を選択する。
- 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課

（病害虫防除・肥料検査センター） 森下

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第8号

冬春トマトの病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**トマトすすかび病の発生が、平年より早い時期から認められています。適切なほ場管理と初期防除に努めましょう。**

- 1 作物名 冬春トマト（ミニトマトを含む）
- 2 病害虫名 すすかび病、葉かび病、灰色かび病
- 3 発生状況（経過）

11月中旬に実施した巡回調査において、すすかび病の発生面積率は平年より多、程度（発病葉率）は平年よりやや多であり、葉かび病及び灰色かび病は面積・程度ともに平年並の発生であった（図1～図3）。

平成29年産ではトマト灰色かび病および葉かび病、平成28年産ではトマト葉かび病およびすすかび病で注意報を発出しており、近年、各種地上部病害の発生が多い傾向が認められている。

### 1) すすかび病

発生面積率：30.0%（前年10.0%、平年8.5%）  
発病葉率：3.0%（前年0.6%、平年0.9%）

平年より多  
平年よりやや多

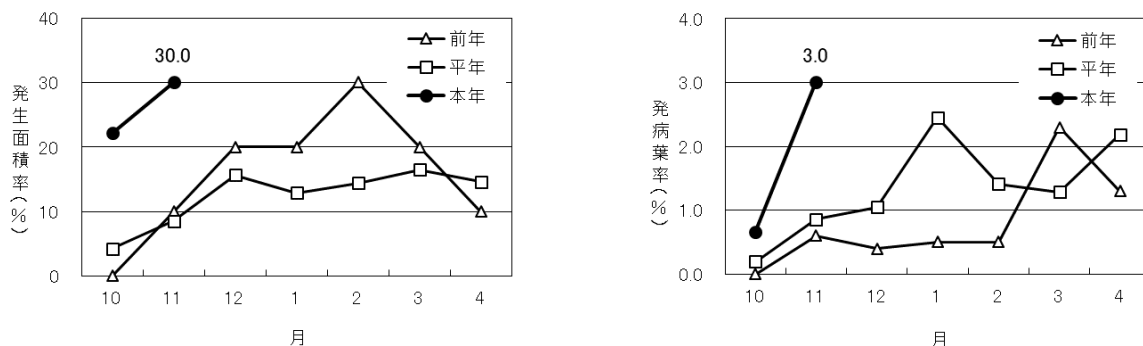


図1 すすかび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)

### 2) 葉かび病

発生面積率：0%（前年10.0%、平年2.7%）  
発病葉率：0%（前年0.1%、平年0.0%）

平年並  
平年並

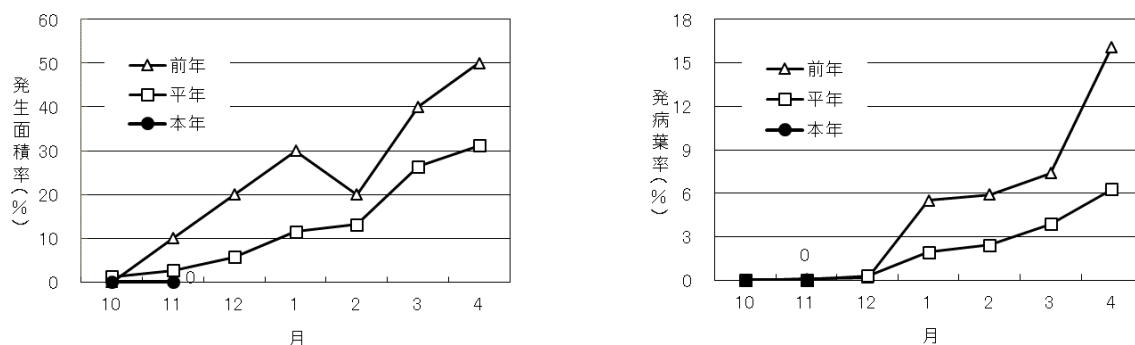


図2 葉かび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)

### 3) 灰色かび病

発生面積率：0%（前年 0%、平年 1.0%）

平年並

発病葉率：0%（前年 0%、平年 0.0%）

平年並

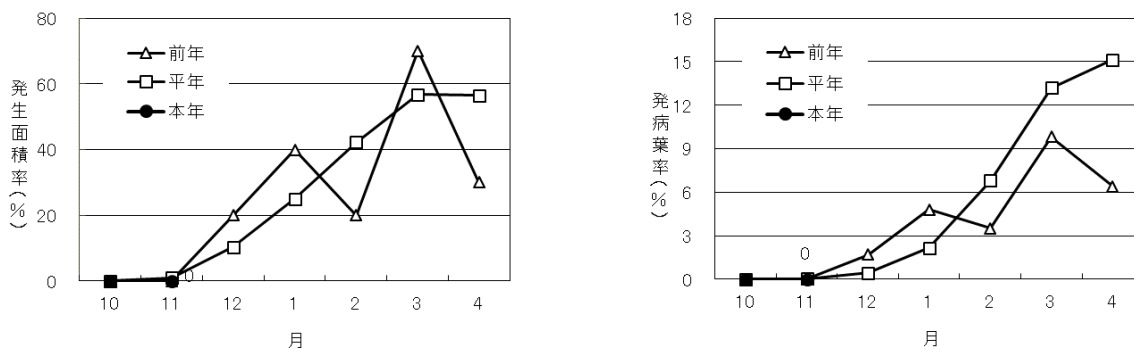


図3 灰色かび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)

### 4 防除上の注意

- 1) 冬季は内張カーテンの設置等により、ハウス内が過湿状態となりやすい。日中も送風を行うなど、できるだけ施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。
- 2) 茎葉の過繁茂は発病を助長するので、可能な限り摘葉し、日当たりや風通しを良くし、薬剤が付着しやすいようにする。
- 3) 発病茎葉は感染源となるため、施設外に持ち出し、適正に処理する。  
灰色かび病菌は、しぼんだ花卉にも寄生し増殖するため、果実と接触した部分から侵入して発病させることから、咲き終わった花卉はできるだけこまめに除去する。また、葉や茎の傷口等が乾きにくいと、そこから侵入し発病しやすくなるので、ハウス内を過湿状態にしない。
- 4) いずれの病害も、多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。
- 5) 薬剤は、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。いずれの病害も薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布後に防除効果が認められない場合は、他の薬剤による追加防除を行う。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 (病害虫防除・肥料検査センター) 森下・倉永  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病虫害防除情報第9号

早春期の各種病虫害について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**例年より気温の高い日が多く、病虫害の多発生が懸念されます。  
発生状況に応じて、適時・適切な防除を実施しましょう。**

1 対象 早春期の病虫害対策

### 2 気象の経過

昨年の12月以降、気温の高い傾向が続いており、特に1月中旬以降は、宮崎市で旬平均気温が平年を $+0.6^{\circ}\text{C}$ ~ $+3.2^{\circ}\text{C}$  (平均 $+1.9^{\circ}\text{C}$ )上回っています(図1)。また、1か月予報によると、九州南部の平均気温は高い確率が70%と予想されています(鹿児島地方気象台2月28日発表)。

暖冬により農作物の生育や病虫害の発生時期が早まることが懸念されますので、今後の病虫害発生状況に十分注意し、防除対策の徹底を図りましょう。

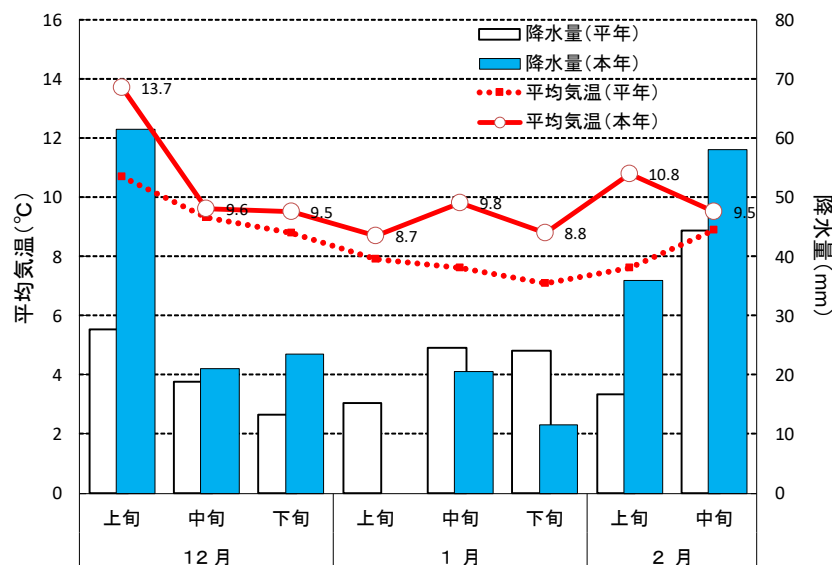


図1 宮崎市における気温と降水量の推移

### 3 防除上の留意点

#### 1) 施設栽培(キュウリ、ピーマン、トマト、イチゴ)

- (1) 施設栽培では暖房機の稼働時間が少なくなり、多湿性の病害(トマトの葉かび病、すすかび病、灰色かび病、キュウリのべと病、褐斑病、イチゴの灰色かび病)が発生しやすくなるので、日中は早めに換気を行い、作物の株間の通風をよくするなど施設内が過湿にならないように管理してください。
- (2) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類等の微小害虫は、増殖が促進されるとともに、施設内への侵入が早期化して被害が増大することが懸念されるので、早期発見、適期防除を徹底してください。

#### 2) 露地栽培(カンキツ、チャ)

- (1) 暖冬の場合、ハダニ類では越冬虫の生存率が高くなり増殖時期も早まるので、春先の発生量が多くなるとともに発生が早期化が懸念されます。園内をよく観察して害虫の早期発見に努め、防除が手遅れにならないよう適期に実施してください。
- (2) 果樹や茶樹の生育が早まり休眠期防除の実施適期が短くなることが想定されるので、早めに防除の準備を行い、散布適期を逸さないよう十分注意してください。

#### 3) 早期水稲

- (1) 気温の上昇により、むれ苗やいもち病、苗立枯病の発生が懸念されます。適正な温度管理(昼 20～25℃)に努め、早期発見、適期防除を徹底してください。
- (2) 暖冬の場合、スクミリンゴガイの生存率が高くなり、発生量が多くなるとともに早い時期からの発生が懸念されます。ほ場をよく観察して、防除が手遅れにならないよう適期に実施してください。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 病虫害発生予察情報は、病虫害防除・肥料検査センターのホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki/>)からも参照できます。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課 (病虫害防除・肥料検査センター) 寺本 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
---

各関係機関長  
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第1号について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

---

平成30年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 病害虫名：1) ハンエンカタカイガラムシ属の一種 *Saissetia neglecta* De Lotto  
2) ミカンコナカイガラムシ *Planococcus citri* (Risso)  
3) ヒラタカタカイガラムシ属の一種 (ヒラタカタカイガラムシまたは *Coccus praetermissus*)
- 2 作物名：ライチ (ムクロジ科)
- 3 発生確認の経過  
平成30年5月中旬、宮崎県内の施設ライチほ場において、葉、枝、果実に寄生するカイガラムシが認められ、門司植物防疫所へ同定依頼したところ、国内未発生1種、既知2種のカイガラムシが確認された。当該3種のカイガラムシのライチへの寄生は、国内初確認である。
- 4 形態及び生態の特徴
  - 1) ハンエンカタカイガラムシ属の一種 *Saissetia neglecta* De Lotto (写真1)  
形態：雌成虫は体長1.5~4.5 mm、幅1.0~4.0 mm、茶色から濃い茶色。凸状で円形に近く、背面にH状の隆起線がある。  
分布：北米から中南米および大洋州に分布。  
寄主植物：ミカン科、ウルシ科など多食性である。  
被害：枝を吸汁加害する。
  - 2) ミカンコナカイガラムシ *Planococcus citri* (Risso) (写真2)  
形態：雌成虫は体長3.5 mm内外の黄褐色の楕円形で、体表は白色ロウ物質で覆われるが、厚みはなく、背部の正中線の地肌が縦筋となって見える。  
分布：全世界に広く分布し、国内では小笠原、南西諸島、本土の温室にも一般的に分布。  
寄主植物：ミカン科、トウダイクサ科など極めて多食性で、果樹類、花木、観葉植物、草花などに寄生する。  
被害：葉、枝および果実を吸汁加害する。
  - 3) ヒラタカタカイガラムシ属の一種 (写真3)  
形態：両種は形態的には、背面刺毛の形状以外に違いは無い。  
[ヒラタカタカイガラムシ]  
分布：全世界に広く分布し、本州、四国、九州、南西諸島。

寄主植物：ミカン科、ソテツ科、ラン科など極めて多食性で、果樹類、花木、観葉植物、草花などに寄生する。

被害：葉、枝および果実を吸汁加害する。

[*C. praetermissus*]

分布：東南アジア、大洋州等。

寄主植物・被害：ヒラタカタカイガラムシに準じる。

## 5 防除対策

- 1) 現在、登録農薬はないため早期発見に努め、寄生部位をブラシ等でこすり落とすなどの防除を行う。なお、こすり落とす際は、周囲に拡散しないようにする。
- 2) 剪定時には寄生部位を除去し、埋没等適切に処分する。
- 3) 苗を導入する場合は、寄生に十分注意する。



写真1 ハンエンカタカイガラムシ属の枝への寄生



写真2 ミカンコナカイガラムシ



写真3 ヒラタカタカイガラムシ属

### 《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 松浦・寺本

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

---

## 平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号

### 1 病害虫名：オリーブ立枯病（仮称）

*Ralstonia solanacearum*

### 2 作物名：オリーブ

### 3 発生確認の経過

平成30年9月、県内のオリーブ栽培園で、葉枯れや萎凋枯死する症状（図1）が認められた。発病株の枝や幹の維管束には変色（図2）が確認され、そこから細菌と考えられる菌泥の漏出（図3）が見られた。さらに、分離株（図4）の細菌学的性質の調査および遺伝子解析から *Ralstonia solanacearum* phylotype I（アジア型）と同定された（宮崎県総合農業試験場 生物環境部）。

### 4 病原菌の特徴

- 1) *Ralstonia solanacearum* はトマト、ナス等の野菜類、その他多くの作物に青枯病を引き起こすことが知られている多犯性・土壌伝染性の植物病原細菌である。
- 2) 本病原菌によるオリーブの病害は、国内では香川県（平成30年3月27日特殊報発表）及び鹿児島県（平成30年5月24日特殊報発表）、海外ではブラジル、中国等で発生が確認されている。

### 5 防除対策

- 1) 現在、本病に対する登録農薬はなく、一度汚染された土壌から本病原菌を除去することは困難であるため、耕種的防除が基本となる。
- 2) 発病樹は、速やかに抜根し、周辺土壌も含めてほ場の外に持ち出して処分を行うとともに同じ場所に植え付けない。
- 3) 園地へ出入りする時は服、帽子、靴に付いた植物残渣や土を十分落とし、靴、手袋などの消毒を行う。
- 4) 管理作業での感染を防止するため、汁液が付着する剪定バサミやノコギリなどの用具の消毒（70%エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液）を行う。
- 5) 新植時は既発生地からの苗の導入に注意するとともに、過去にナス科作物等で青枯病が発生したほ場の利用は避ける。





図1 葉枯れ、萎凋枯死したオリーブ樹



図2 維管束が変色した枝



図3 水中における菌泥の漏出



図4 青枯病菌の選択培地(原・小野培地(原・小野, 1982))上に形成されたコロニー

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 寺本

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>



6 0 1 1 - 1 7 9 0  
平成30年12月25日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第3号について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第3号を発表したので送付します。

---

## 平成30年度病害虫発生予察特殊報第3号

1 病害虫名：ランンキュラス葉化病

2 病原菌名：*Candidatus Phytoplasma asteris*

3 作物名：ランンキュラス

### 4 発生確認の経過

- 1) 平成30年3月、西臼杵地区のビニルハウス栽培のランンキュラスにおいて、花が緑化する症状（図1）や株の叢生症状（図2）が認められた。本症状からファイトプラズマの感染が疑われたため、本センターで16SリボゾームRNA遺伝子解析を行った結果、*Candidatus Phytoplasma asteris*が確認され、ランンキュラス葉化病であると診断した。
- 2) 本病は1996年に国内で初めて確認され、その後、香川県（平成29年5月2日特殊報発表）で発生が確認されている。

### 5 病原菌の特徴

- 1) ファイトプラズマは植物の篩管に寄生し、感染植物に花器の緑化・葉化や株の萎縮・叢生など、特徴的な形態変化を引き起こすことが知られている。
- 2) ファイトプラズマはヨコバイ類や栄養繁殖を介して伝搬することが知られているが、本病の詳しい感染経路は確認されていない。

### 6 防除対策

- 1) 発病株の早期発見に努め、発病株や発病が疑われる株は直ちに除去する。
- 2) 除去株の周辺にあった株は、極力増殖源として使わないようにする。
- 3) ヨコバイ類の防除対策を徹底する。



図1 緑化した花（品種：シュノンソー）



図2 叢生症状の株(品種:セルベール)

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 森下・倉永

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号を発表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号

### 1 病害虫名 サツマイモ基腐病（仮称）

病原菌：*Plenodomus destruens* Harter  
(syn. *Phomopsis destruens* (Harter) Boerema, Loerakker & Hamers)

### サツマイモ乾腐病

病原菌：*Diaporthe batatas* Harter  
(ana. *Phomopsis batatas* (Ellis & Halst) Harter & E.C. Field)

### 2 作物名 かんしょ

### 3 発生確認の経過

- 1) 平成30年産のかんしょ栽培において、地際の茎や塊根が腐敗する症状（図1、2）が確認され、県総合農業試験場につるや塊根のサンプルが持ち込まれた。本場で診断を行ったところ、茎根腐細菌病やつる割病菌が分離されたが、一部に異なる菌叢が確認されたため、県総合農業試験場生物環境部および門司植物防疫所で同定を実施した。その結果、サツマイモ基腐病（仮称）菌及びサツマイモ乾腐病菌であると判明した。
- 2) サツマイモ基腐病（仮称）は沖縄県および鹿児島県でも発生が確認されている。国外では台湾、中国、韓国、タンザニア、南アフリカ、ニュージーランド、アメリカ、キューバ、カリブ諸国、ブラジル、アルゼンチンなどでの発生が知られている。
- 3) サツマイモ乾腐病は貯蔵病害として国内で広く知られている。

### 4 病原菌の特徴

#### サツマイモ基腐病（仮称）

- 1) 病原菌は糸状菌の一種で不完全菌類に属し、分生子には大きさ、形状の異なる二つの型がある（図3, 4）。宿主植物はヒルガオ科である。
- 2) 本病は発病したつるや塊根で伝染し、害虫の食害などの傷により病原菌の侵入が助長される。病原菌は植物残渣上で越冬して翌年の伝染源となる。

#### サツマイモ乾腐病

- 1) 病原菌は糸状菌の一種で子のう菌類に属し、発病した塊根に見られる柄子殻内に大きさ、形状の異なる二つの型の分生子（柄孢子）を形成する（図5, 6）。宿主植物はヒルガオ科である。
- 2) 病原菌は感染した塊根上で越冬して翌年の伝染源となる。

### 5 防除対策

本病は、既知のつる割病と同じ糸状菌による土壌病害であり、防除対策は以下のとおり基本的に同じである。

- 1) 発病した株（つるや塊根）は速やかに抜取り、ほ場や周辺に残さないよう処分する。
- 2) 収穫後はほ場からかんしょの残さを速やかに除去する。
- 3) 本病が発生したほ場で使った資材や機材を別ほ場で使う際は消毒や洗浄を十分に行う。
- 4) 本病が発生したほ場では、次作のかんしょ栽培を控えて極力輪作を行う。
- 5) 本病が発生したほ場からは種芋を取らない。
- 6) 種芋には腐敗や病害、傷のない健全な芋を使用し、種芋および苗の消毒を確実に行う。
- 7) 苗床の土壌消毒を行う。
- 8) 植付前には、ほ場の排水対策や土壌消毒を十分行う。



図1 ほ場の発生状況



図2 塊根の腐敗状況

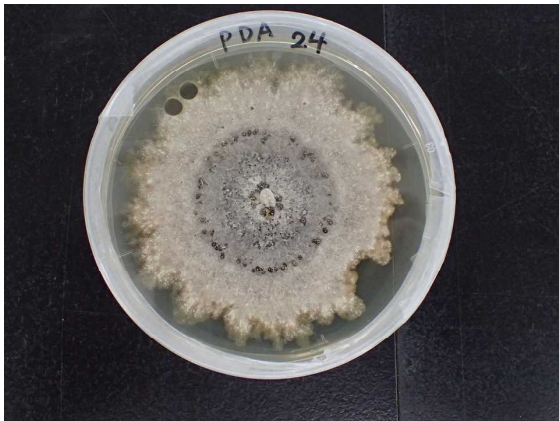


図3 *Plenodomus destruens* のPDA培地上の菌叢

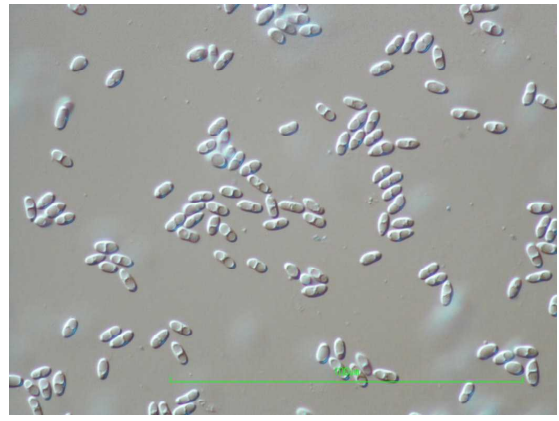


図4 *P. destruens* 分生子の形状 (PDA培地)



図5 *Diaporthe batatas* のPDA培地上の菌叢

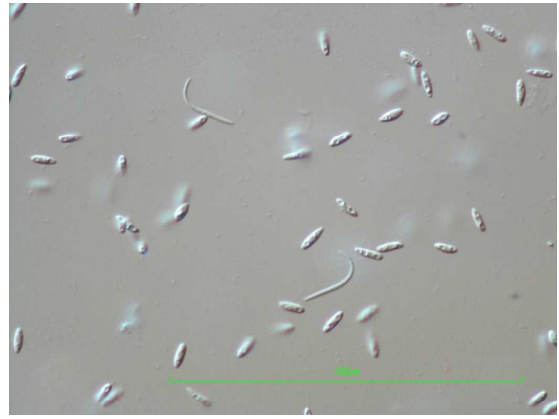


図6 *D. batatas* 分生子の形状 (PDA培地)

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
 (病害虫防除・肥料検査センター) 松浦、森下  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-7499  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp  
 ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>



## 2 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）による宮崎県における新ウンカ類飛来予測システムの実用性の検討

### （1）背景・ねらい

現行のウンカ類飛来予測システムは県単位での飛来予測であり、地域毎の飛来予測や防除的期の把握が困難である。このため、本事業において農研機構より現行システムの水平分解能を33kmから9kmメッシュに細分化し、ウンカの着地過程を考慮したシステムに高度化された。宮崎県において高度化された飛来予測システムの現地実証を行った。

### （2）調査方法

#### ①乾式予察灯のウンカ類誘殺状況調査

調査期間 3月中旬～10月末

#### ②現地巡回によるウンカ類の発消長調査

調査期間 6月中旬～10月中旬

### （3）研究成果の詳細

県内4カ所に設置した予察灯へのウンカ類誘殺の有無と飛来予測システムによる飛来予測の有無の一致状況を平成27年から30年について検討した（表1）。検討にあたっては、各予察灯の設置地点において①飛来予測システムによる「飛来あり」と予察灯における「誘殺あり」が一致した場合、もしくは②「飛来なし」かつ「誘殺なし」となった場合に、予測が一致したものと評価した。また、宮崎県の主要な田植え時期が6月中旬～下旬であることから、この時期以降の飛来が重要と考え考察を行った。

予察灯と飛来予測システム的一致率は67%～97%で、4か年平均で80%の一致率であった。これは現行の飛来予測システムで同様に評価した場合の71%と同等であった。

次に、システムによる飛来予測と水田での発消長を比較した。検討方法を図1に示す。トビイロウンカ幼虫の発生ピーク（8月下旬）から推察された主要飛来日は7月4日前後と考えられた。主要飛来は1つであるため、発消長が一致する飛来予測が1つでもあれば、飛来予測と発消長が一致したと評価した。平成27年から30年について評価した所、全体的一致率は77%であった。地域別的一致率は、県西部は100%、県中央部は83%であるが、県北部は50%であった（表2）。県北部で一致率が低い原因として、梅雨前線の位置をシステムが正確に予測できていないことが考えられる。

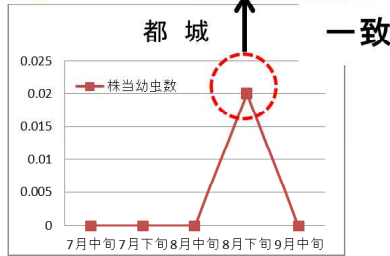
また、予察灯を設置していない地点での飛来予測システムと水田での発消長の一一致率を検討した。予察灯を設置している地点の一致率は79%、設置していない地点の一致率は75%で同等であった（表3）。これにより、予察灯を設置していない地域においても飛来予測システムによる飛来予測が可能であることが明らかになった。

表1 予察灯と飛来予測モデルの一致率

	H27	H28	H29	H30	平均	(単位:%) 備考
①飛来予測あり かつ 予察灯誘殺あり	56	44	4	43	36	(予察灯誘殺ありの日数) / (飛来予測ありの日数)
②飛来予測なし かつ 予察灯誘殺なし	71	82	98	94	86	(予察灯誘殺なしの日数) / (飛来予測なしの日数)
全体	67	77	82	92	80	(①+②の日数) / (予測全日数)



6月21日と7月4日に飛来予測があり、水田での発生消長と一致したのは7月4日であった。  
(予察灯設置済 H30都城)



発生世代の算出: 海外飛来性害虫発生予測支援システム6.00(©Teramoto)

図1 システムによる飛来予測と水田での発生消長の比較方法

表2 飛来予測モデルを基にした世代予測と水田での発生消長の一致率

調査地点		H27	H28	H29	H30	調査地点毎の一致率	地域毎の一致率
県西部	都城	○	○	○	○	100	100
	えびの	○	○	○	○	100	
	小林	○	○	○	○	100	
県中部	国富	○	○	○	×	75	83
	佐土原	—	—	○	○	100	
県北部	延岡	○	○	×	×	50	50
	日向	○	×	○	×	50	
	高千穂	×	○	×	○	50	
全体の一致率		77					

表3 予察灯が無い地域での飛来予測モデルと水田での発生消長の一致率

調査地点		H27	H28	H29	H30	調査地点毎の一致率	予察灯設置と未設置地点の一致率
予察灯設置地点	都城	○	○	○	○	100	79
	国富	○	○	○	×	75	
	佐土原	—	—	○	○	100	
	延岡	○	○	×	×	50	
予察灯未設置地点	えびの	○	○	○	○	100	75
	小林	○	○	○	○	100	
	日向	○	×	○	×	50	
	高千穂	×	○	×	○	50	

### 3 特殊病害虫侵入警戒調査事業

#### 1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

#### (1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘殺数			調査機関
		チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ	ウリミバエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	0	0	防除・肥料センター
〃 総合農業試験場内果樹園	〃	0	0	0	〃
〃 清武町ミカン園	〃	0	0	0	〃
都農町 立野ミカン園	〃	0	0	0	〃
南郷町 谷之口ミカン園	〃	0	0	0	〃
日向市 高森山ミカン園	〃	0	0	0	〃
門川町 牧山ミカン園	〃	0	0	0	〃
宮崎市 赤江 共同利用施設浜畑センター内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	—	0	0	南那珂農林振興局
〃 猪崎鼻公園駐車場	〃	—	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	—	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	—	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	—	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	—	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	—	0	0	〃
〃 都井港	〃	—	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	—	0	0	〃
〃 新福島港	〃	—	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
日向市 細島港みなとの森公園	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	東白杵農林振興局
〃 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイイミバエ70回（10ヶ月×7か所） ウリミバエ・ミカンコミバエ740回（10ヶ月×月2回×37か所）				

## （２）調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

## ２）アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

６～１０月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（２９地点）にトラップ（アリモドキコール）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い７～９月に計４６地点で侵入警戒調査を実施した。

### （１）誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	ヒルガオ自生地	６～１０月 １０回	０	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	０	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	０	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	０	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	０	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	０	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	０	〃
都城市 横市町	甘藷畑	〃	０	〃
〃 関之尾町	甘藷畑	〃	０	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	０	〃
〃 丸谷町町	甘藷畑	〃	０	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	０	〃



トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
都城市 山田町菓子野	甘藷畑	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（堂園）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大東原）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大東原）	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市青島	県水産試験場	7～9月 6回	0	中部農林振興局
宮崎市大字郡司分	県消防学校	〃	0	〃
宮崎市新別府町前浜	みやざき臨海公園	〃	0	〃
宮崎市大字跡江	宮崎中央家畜市場	〃	0	〃
宮崎市佐土原町下田島	宮崎市佐土原総合支所	〃	0	〃
宮崎市田野町甲	宮崎市田野総合支所	〃	0	〃
宮崎市高岡町内山	宮崎市高岡総合支所	〃	0	〃
国富町大字岩知野	中部農業改良普及センター	〃	0	〃
国富町大字深年高田原	菊田製茶工場横	〃	0	〃
綾町大字南俣	綾町有機農業開発センター	〃	0	〃
串間市大字奈留	J A串間市大東集荷場	〃	0	南那珂農林振興局
串間市大字奈留	J A串間市大東育苗センター	〃	0	〃
串間市大字北方	酒造会社付近	〃	0	〃
串間市大字西方	酒造会社付近	〃	0	〃
串間市大字都井	毛久保港付近	〃	0	〃
串間市大字南方	福島港付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
串間市大字西方	J Aはまゆう串間集荷場	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
串間市大字奈留	アオイファーム集荷場	〃	0	〃
串間市大字奈留	仲別府公民館付近	〃	0	〃
日南市南郷町中村	目井津港付近	〃	0	〃
日南市大堂津	大堂津港付近	〃	0	〃
日南市油津	油津港付近	〃	0	〃
日南市大字風田	国道220号沿い	〃	0	〃
都城市 高木町	北諸県農業改良普及センター	〃	0	北諸県農林振興局
〃 山田町	J A山田支所	〃	0	〃
〃 山田町	かかし館付近	〃	0	〃
〃 平塚町	茶園付近	〃	0	〃
〃 横市町	給水栓付近	〃	0	〃
〃 豊満町	茶園付近	〃	0	〃
〃 乙房町	茶園付近	〃	0	〃
〃 梅北町	給水栓付近	〃	0	〃
〃 大岩田	旧医師会病院付近	〃	0	〃
〃 高城町	石山貯蔵庫	〃	0	〃
〃 蓑原町	給水栓付近	〃	0	〃
えびの市西長江浦	甘藷畑	〃	0	西諸県農林振興局
えびの市大明司	甘藷畑	〃	0	〃
小林市堤	甘藷畑	〃	0	〃
〃 野尻町大萩	甘藷畑	〃	0	〃
高原町後川内	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原 緑ヶ丘	緑ヶ丘バス停付近	〃	0	児湯農林振興局
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	〃	0	〃
〃 大字上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
〃 大字新田 三財原	葬祭場付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江 境谷	市の山公民館付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃
対象病害虫の調査総回数	566回（5ヶ月×月2回×29か所+3ヶ月×月2回×46か所）			

## (2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

9月28日に都城市(20ほ場)、串間市(20ほ場)、10月29日に都城市(20ほ場)串間市(20ほ場)に、収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した(調査総回数80回(2ヶ月×40か所))。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月に、県内のかんきつ園地18ほ場及び2か所のゲッキツ植栽地を調査したが、発生は確認されなかった(調査総回数200回(10ヶ月×20か所))。

#### 4 その他の調査、検定等

##### 1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稲)

	宮崎	串間	高鍋	西都	赤江	日向
5月22日	—	4	●	—	—	—
5月23日	—	●	—	—	—	—
5月24日	—	—	—	—	—	—
5月25日	—	—	—	—	—	—
5月26日	—	—	—	—	—	—
5月27日	—	—	—	—	—	—
5月28日	?	?	?	?	?	?
5月29日	●	●	1	●	4	1
5月30日	—	—	1	4	—	1
5月31日	—	—	—	—	—	—
6月1日	—	●	●	●	—	●
6月2日	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	●	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	4
6月7日	—	●	—	—	—	—
6月8日	●	—	●	●	●	—
6月9日	—	—	—	—	—	—
6月10日	—	—	●	—	—	●
6月11日	—	—	●	●	—	●
6月12日	—	—	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	●	●	—	—
6月16日	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—
6月19日	●	—	—	—	●	—
6月20日	—	—	—	—	—	—
6月21日	●	—	●	●	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	●	●	—	●

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	0			0		0
6月下旬	2			0		4
7月中旬	0			0.13		0.5

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林	宮崎	都城
5月19日	●	—	—	—	—	—	—	—
5月22日	3	3	—	●	—	—	—	—
5月29日	1	4	4	4	●	●	●	●
5月30日	—	—	●	1	—	—	—	—
6月1日	—	3	—	3	●	4	—	●
6月7日	1	1	—	—	●	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	●	●	●	●
6月10日	●	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	●	—	●	●	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	—	●	—	—	—
6月18日	—	1	●	●	—	—	—	—
6月19日	—	1	●	●	●	●	●	—
6月21日	4	4	—	4	●	●	●	—
6月24日	4	4	●	●	●	●	●	—
6月27日	—	—	—	—	—	●	—	—
6月30日	●	●	—	—	—	—	2	—
7月1日	●	●	—	●	—	—	—	—
7月6日	●	—	2	●	2	●	3	2
7月8日	—	●	2	—	—	—	2	—
7月10日	●	—	—	●	—	—	—	—
7月13日	—	●	—	—	—	2	—	—
7月24日	—	●	—	—	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	2	0	0	0	0	0	0
7月中旬	0	4	0	0	0	0	0	0
7月下旬	0	48	0	76	0	0	0	0
8月中旬	2	6	0	88	0	7	0	2
9月中旬	0.05	0.3	0	8	0.4	0.15	0	0.25

## 2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	17	0.0	1.4	1.4	0.9	0.2	1.1	0.9	0.1	1.0
南那珂	14	0.0	0.0	0.0	5.3	2.5	7.8	1.7	0.1	1.8
児湯	13	0.1	0.0	0.1	6.1	6.0	12.1	1.7	0.1	1.8
東臼杵	6	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	1.2	0.3	0.0	0.3
全 県	50	0.0	0.5	0.5	3.4	2.4	5.8	1.3	0.1	1.3

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	17	0.5	0.4	0.9	24.9	23.7	48.6	4.5	6.9
南那珂	14	0.2	0.1	0.4	17.4	10.5	27.9	9.9	12.3
児湯	13	0.1	0.3	0.4	14.2	15.3	29.5	14.3	12.1
東臼杵	6	0.2	0.0	0.2	20.3	3.8	24.2	1.7	9.6
全 県	50	0.3	0.3	0.5	19.5	15.4	34.9	8.2	9.4

※数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合がある。

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	宮崎市高岡町(中山)	7月23日	0.1	9月6日	情報なし	
2	中部	宮崎市高岡町(高浜)	7月23日	0.6	9月6日	情報なし	
3	南那珂	日南市(細田)	7月23日	5.2	8月27日	8月下旬	
4	南那珂	日南市南郷町(榎原)	7月23日	2.2	9月3日	9月中旬	
5	南那珂	日南市南郷町(湯上)	7月23日	8.0	8月18日	9月中旬	
6	児湯	西都市宝財原	7月31日	2.4	9月10日	飛来なし	
7	児湯	都農町新藤見	7月31日	15.1	7月31日	採取日前	
8	西諸県	小林市	7月31日	0.1	9月14日	8月中旬	
9	西諸県	えびの市	7月31日	0.0	9月14日	飛来なし	
10	東臼杵南部	日向市南山	7月25日	18.9	7月25日	8月上旬	
11	東臼杵北部	延岡市川島町	7月27日	2.4	9月6日	飛来なし	
12	東臼杵北部	延岡市北方町(上崎)	7月27日	3.8	9月3日	9月20日頃	
13	防除センター	新富町(新田)	7月25日	3.2	9月3日		
14	防除センター	延岡市(片田町)	7月25日	1.0	9月7日		

#### 4) サトイモ疫病の発生状況調査

##### 発生経過

平成30年産については、5月から巡回調査を開始し、6月13日の調査で疫病の初発生を確認した。初発確認後の病勢進展はやや緩慢であったが、7月上旬以降は、度重なる台風の影響を受けて感染が拡大し、8月下旬には発生ほ場率が100%となり、9月中旬には発病株率が100%に達した。

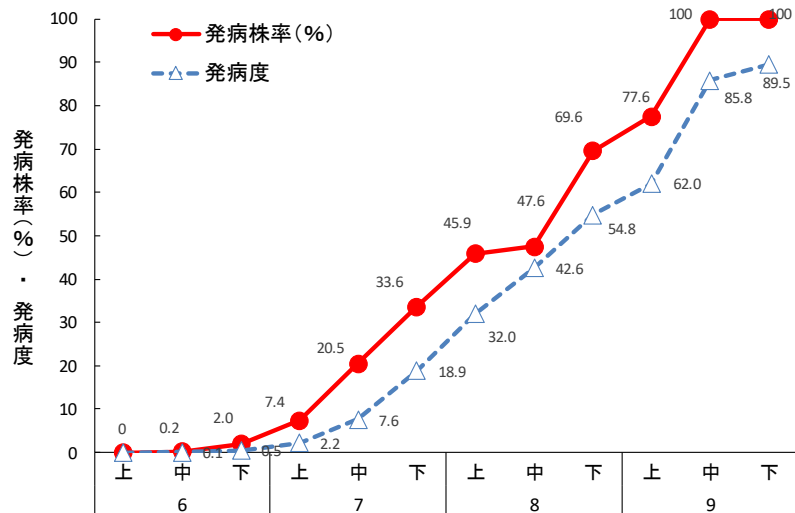


図1 巡回調査ほ場における疫病の発病株率および発病度の推移

注) 調査ほ場は14ほ場(宮崎市佐土原町2、宮崎市田野町2、国富町2、都城市4、小林市4)。

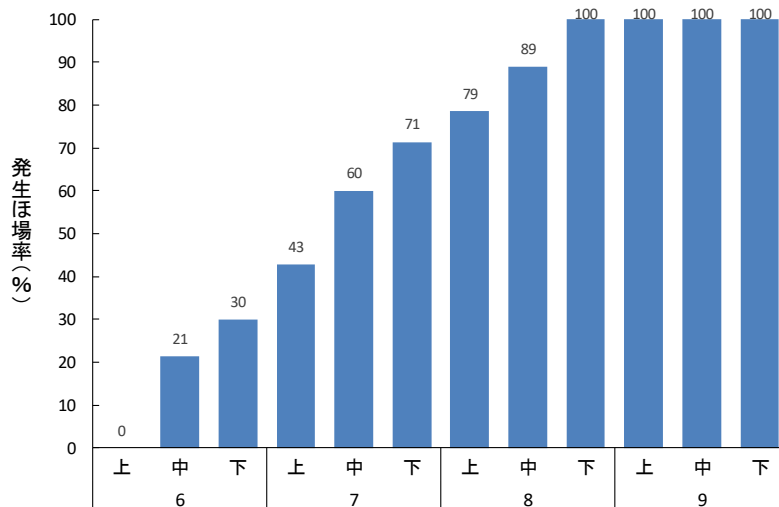


図2 巡回調査ほ場における疫病の発生ほ場率の推移

##### 調査基準

E(0): 発病なし

D(1): 下位葉を中心に1/3以下(1~2枚)の葉に病斑がみられるが、枯死茎は認められない

C(2): 下位葉を中心にほぼ半数(3枚前後)の葉に病斑がみられるが、枯死茎は認められない

B(3): ほとんどの葉が発病、枯死茎が半数程度認められ、残存する茎数は3~4本

A(4): 枯死茎が2/3程度認められ、残存する茎数は2本以下

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / (4 \times \text{調査株数}) \times 100$$



## 5) 輸出検疫協議の迅速化委託事業

### (1) 目的

農産物の海外輸出推進のための植物検疫に係る協議における基礎資料とするため、当該害虫の全国的な発生調査を実施した。

### (2) 方法

#### ア) 調査対象害虫

農林水産省から指定の4種害虫を対象とした。

ナシマダラメイガ、スモモヒメシンクイ、ブドウホソハマキ、  
オウトウショウジョウバエ

※リンゴコシンクイについては、県内に寄主植物の経済栽培実態が無いため、調査を実施しなかった。

#### イ) 調査方法

##### ① ナシマダラメイガ

県内3地点（宮崎市1地点、小林市2地点）のナシ栽培ほ場に、6月中旬から9月上旬までフェロモントラップを設置し、誘殺の有無を調査した。

##### ② スモモヒメシンクイ

県内3地点（宮崎市1地点、小林市2地点）のスモモ栽培ほ場に、6月中旬から9月上旬までフェロモントラップを設置し、誘殺の有無を調査した。

##### ③ ブドウホソハマキ

県内3地点（宮崎市1地点、小林市2地点）のブドウ栽培ほ場において、6月中旬に1か所あたり3樹50果房の見取り調査を実施した。

##### ④ オウトウショウジョウバエ

県内4地点（宮崎市）の無防除のブルーベリー果実を、6月中旬から7月上旬に採集し、本虫の発生の有無を調査した。

### (3) 結果の概要

本年度調査した4害虫について、いずれの調査地点においても発生は確認されなかった。そのため、平成30年における本事業でのステータスは、「暫定的な県内全域未発生」とした。

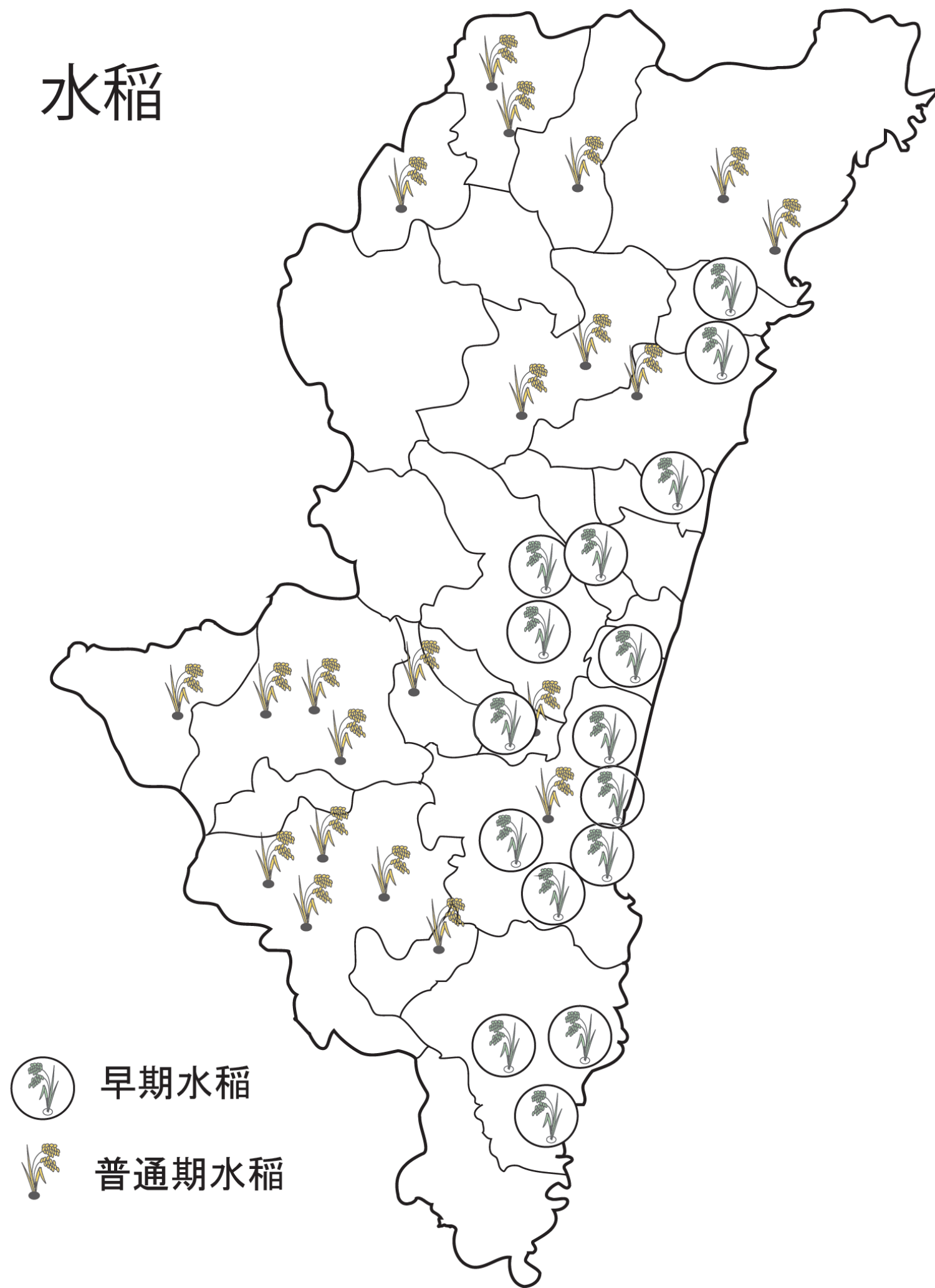
### Ⅲ そ の 他

#### 1 病虫害防除員の設置状況

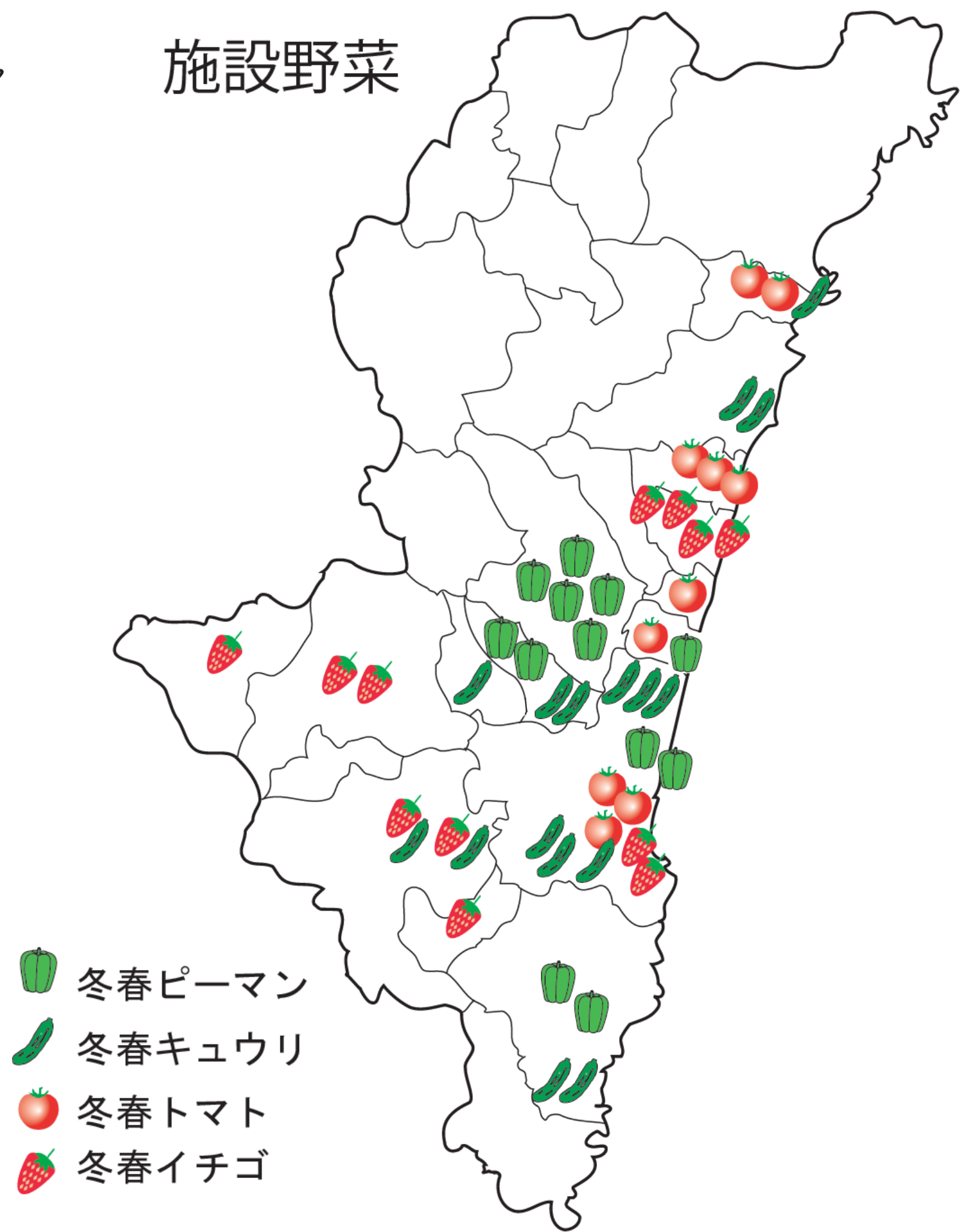
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町						木城町	1				1
綾町						川南町	1				1
小計	6	1	1		4	都農町	1		1		1
日南市	3	2	1			小計	5	1	1		3
串間市						延岡市	2	2			
小計	3	2	1			日向市	1	1			
都城市	5	4		1		門川町					
三股町	1	1				美郷町	1	1			
小計	6	5		1		諸塚村					
小林市	2	1		1		椎葉村					
えびの市	1				1	小計	4	4			
高原町						高千穂町	1	1			
小計	3	1		1	1	日之影町	1	1			
西都市	1				1	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町						小計	3	2		1	
新富町						合計	30	16	3	3	8

## 2 巡回調査ほ場の分布図

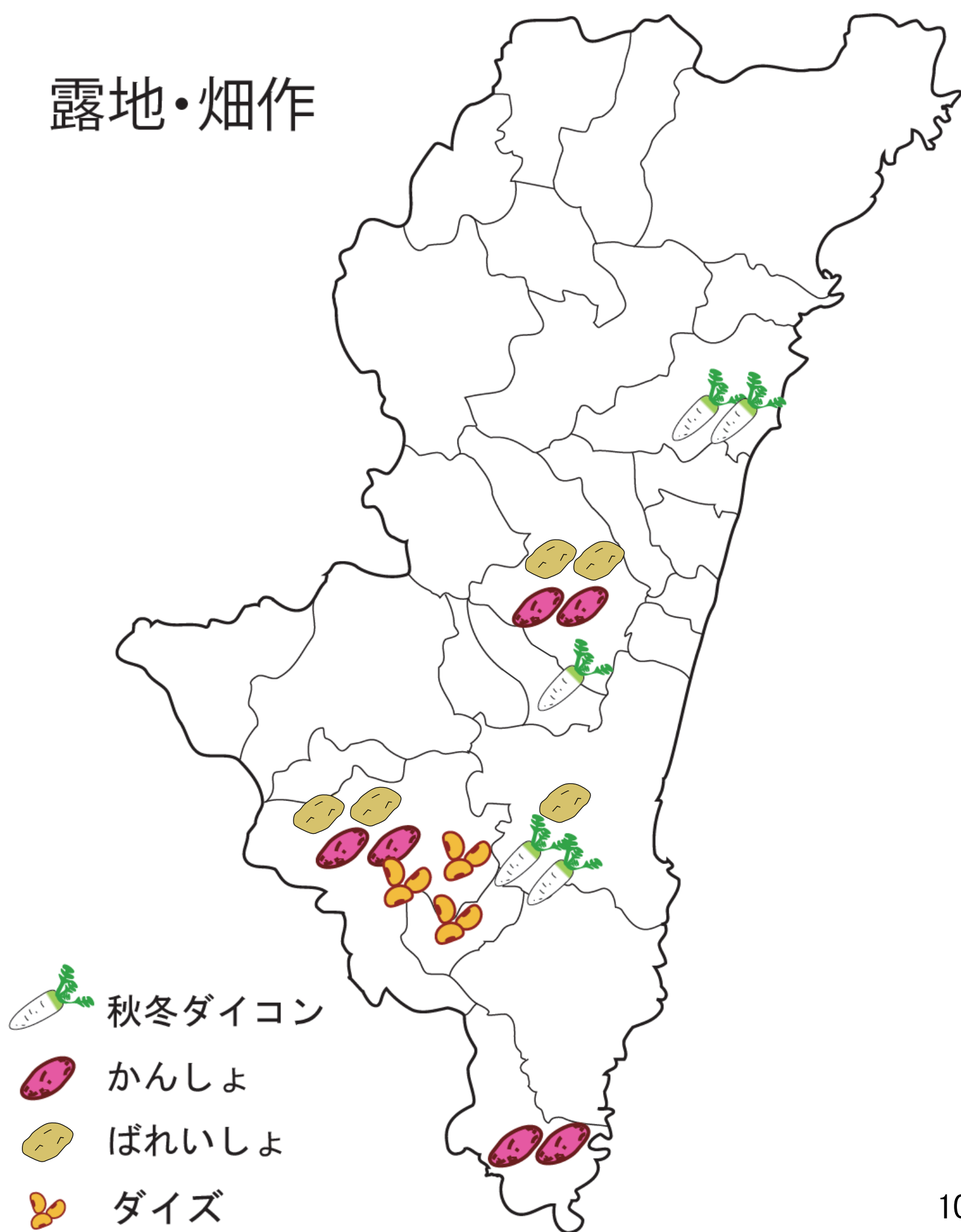
### 水稻



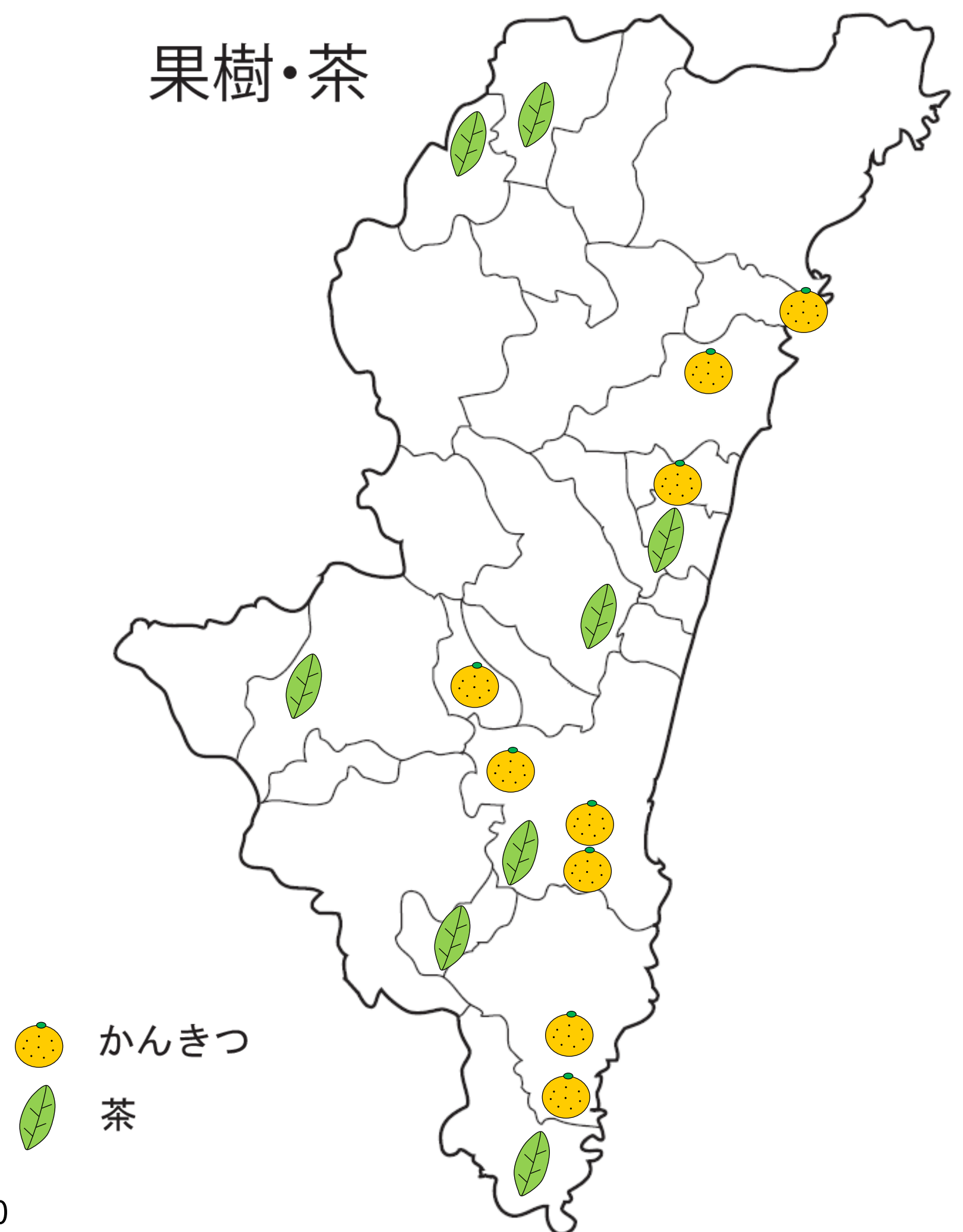
### 施設野菜



### 露地・畑作



### 果樹・茶



## IV 平成30年度気象概況

月別気象概況（宮崎地方気象台作成の気象月報から抜粋）

### ○4月

期間の前半は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いたが、後半は、前線を伴った低気圧や気圧の谷及び湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。特に14日と24日は、前線の通過や低気圧の影響で日降水量が50mm以上を観測した所があり、まとまった雨となった。

県内各地の月平均気温は平年差+0.8℃～+1.7℃で平年より高いか平年よりかなり高かった。月間降水量は43.0mm～358.0mmで平年よりかなり少なく、鞍岡、西米良、加久藤、小林、油津では平年より少なく、えびのでは平年より多かった。月間日照時間は平年比116%～139%で平年より多いか平年より多かった。

### ○5月

上旬と下旬は、前線を伴った低気圧や気圧の谷等の影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が100mmを超える大雨となった所があった。中旬は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が続き、暖かい空気の影響で平年よりも気温が高く推移した。また、26日ごろ梅雨入り（平年より5日早く、昨年より11日早い）したと見られる。

県内各地の月平均気温は平年差0.0℃～+0.9℃で平年より高く、高千穂、古江、延岡、日向では平年並だった。月間降水量は196.5mm～606.0mmで平年より多いかかなり多く、古江、小林、油津、串間では平年並だった。月間日照時間は平年比88%～102%で全ての観測所で平年並だった。

### ○6月

期間を通して、梅雨前線や気圧の谷等の影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が100mmを超える大雨となった所があった。上旬は暖かい空気の影響で平年よりも気温が高く、その後、平年並で推移した。なお、27日は、延岡で35.8℃を観測し今季初の猛暑日となった。また、北方で日最大10分間降水量、小林で月間日照時間の多い方からの6月の1位をそれぞれ更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.2℃～+0.9℃で平年並か平年より高かった。月間降水量は364.5mm～780.5mmの平年並で、諸塚、北方、日向、国富、宮崎では平年より多く、延岡では平年よりかなり多かった。月間日照時間は平年比91%～117%の平年並で、高千穂、延岡、日向、小林では平年より多く、串間では平年より少なかった。

### ○7月

上旬は、台風第7号や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、中旬は、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。下旬は、高気圧に覆われて晴れの日と、湿った空気や台風第12号の影響で曇りや雨の日が短い周期で経過した。上旬と下旬に、台風や梅雨前線の影響で大雨や荒れた天気となった日があり、中旬は、日射の影響も加わり、猛暑日を観測する等暑い日が続いた。なお、11日ごろ梅雨明け（平年より3日早く、昨年より2日早い）したと見られる。

県内各地の月平均気温は平年差-0.3℃～+1.4℃で平年より高く、高千穂、鞍岡では平年よりかなり高く、西都、宮崎では平年並で、油津では平年より低かった。月間降水量は396.5mm～1290.5mmで平年より多かった。月間日照時間は平年比89%～106%の平年並で、小林では平年より多く、都城では平年より少なかった。

### ○8月

上旬と下旬は、高気圧に覆われ概ね晴れの日が多く、強い日射の影響も加わって気温が上がり、日最高気温が35℃以上の猛暑日となる日があった。中旬は、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。また、台風第12号、第15号、第19号、第20号が宮崎県に上陸又は接近し、大雨や荒れた天気となった日があった。

県内各地の月平均気温は平年差+0.3℃～+1.1℃で平年より高く、加久藤、小林、都城、串間では平年よりかなり高かった。月間降水量は104.0mm～558.0mm（平年比38%～123%）の平年並か平年より少なかったが、宮崎では平年より多かった。月間日照時間は平年比97%～118%の平年並で、高千穂、鞍岡、西都、都城では平年より多かった。

### ○9月

期間の後半に、高気圧に覆われて晴れの日もあったが、台風や前線、湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が100mmを超える大雨となった所があった。また、30日に宮崎市、日南市、三股町付近で解析雨量が11時までの1時間におよそ120ミリの猛烈な雨となり記録的短時間大雨情報を発表する等、大荒れの天気となった。

県内各地の月平均気温は平年差-0.6℃～+0.6℃の平年並で、宮崎、串間では平年より高く、古江、日向では平

年より低かった。月間降水量は327.0mm～781.0mmで平年より多く、北方、日向、都城、串間では平年よりかなり多かった。月間日照時間は平年比66%～87%で平年より少ないか、平年よりかなり少なかった。

#### ○10月

期間の前半は、高気圧に覆われて晴れの日と、気圧の谷や前線等の影響で曇りや雨の日が短い周期で経過し、後半は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。また、上旬に台風第25号や前線の影響で大気の状態が非常に不安定となり、4日23時から24時にかけて発達した積乱雲により、宮崎市島之内付近と児湯郡新富町伊倉付近で突風が発生する等荒れた天気となった。

県内各地の月平均気温は平年差-1.2℃～-0.1℃で平年並か平年より低かった。月間降水量は99.5mm～405.5mmで平年より多かった。月間日照時間は平年比101%～122%で平年より多く、高千穂、加久藤、小林では平年並だった。

#### ○11月

上旬は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、中旬以降は、高気圧と低気圧や気圧の谷の影響を交互に受けたため、晴れの日と曇りや雨の日が数日の周期で経過した。

県内各地の月平均気温は平年差-0.6℃～+0.4℃で全ての観測所で平年並だった。月間降水量は68.5mm～140.0mmの平年並で、西米良、加久藤、えびの、野尻、国富では平年より多かった。月間日照時間は平年比111%～133%で平年より多かった。

#### ○12月

期間の前半は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。期間の後半は、低気圧や前線等の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて概ね晴れた日も多かった。また、この期間は、日照時間が少なく、小林で月間日照時間の少ない方からの12月の1位を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.6℃～+2.0℃で平年より高く、鞍岡、加久藤、小林、都城、串間では平年よりかなり高かった。月間降水量は69.5mm～199.5mmで平年より多く、西都、深瀬、油津では平年よりかなり多く、鞍岡では平年並だった。月間日照時間は平年比66%～86%で平年よりかなり少なく、鞍岡、西米良では平年より少なかった。

#### ○1月

期間の中旬までは、高気圧に覆われて晴れた日と、気圧の谷や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が数日の周期で経過し、下旬は、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多く、少雨だった。また、寒気の影響を受ける日が少なかったため気温が高く推移し、月平均気温が小林で7.2℃、赤江で9.5℃となり、月平均気温の高い方からの1月の1位を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.7℃～+1.6℃で平年より高かった。月間降水量は13.5mm～70.0mmで平年より少なく、諸塚、北方、小林、串間では平年よりかなり少なく、高千穂、鞍岡、加久藤、深瀬では平年並だった。月間日照時間は平年比100%～137%で平年並以上だった。

#### ○2月

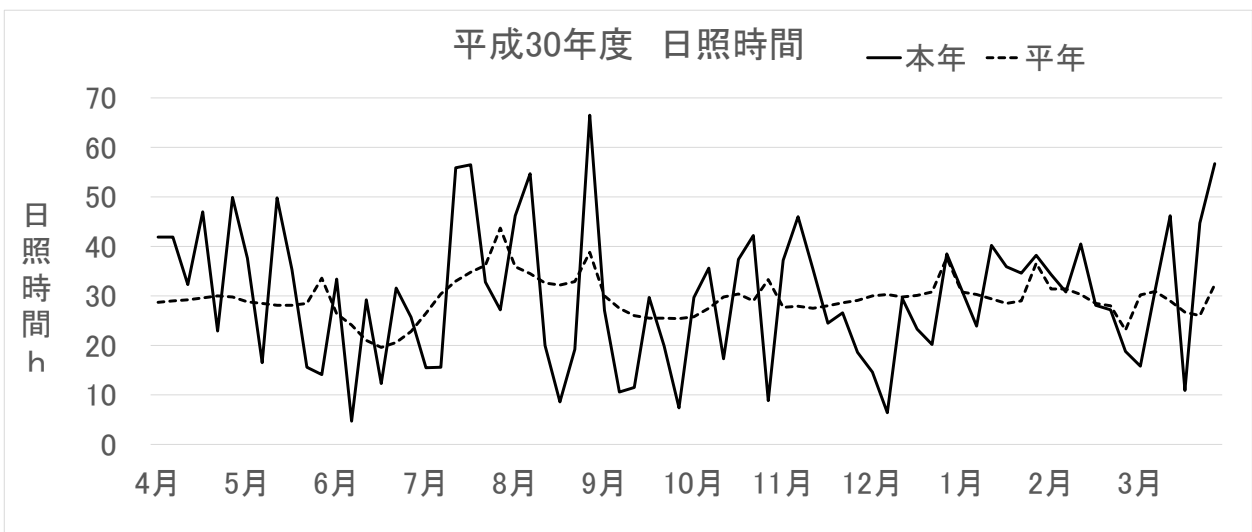
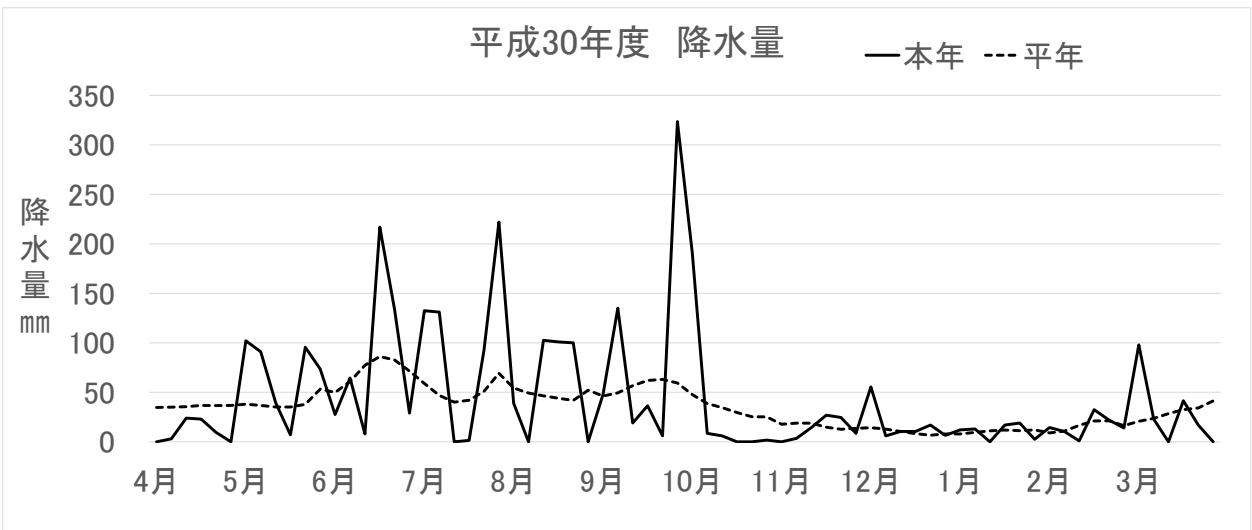
期間を通して、高気圧に覆われて晴れた日と、気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が短い周期で経過した。中頃に平年よりも気温の低い日があったものの、寒気の影響を受ける日が少なかったため、気温が高く推移した。また、この期間は日照時間が少なく、小林で月間日照時間の少ない方からの2月の1位を更新した。

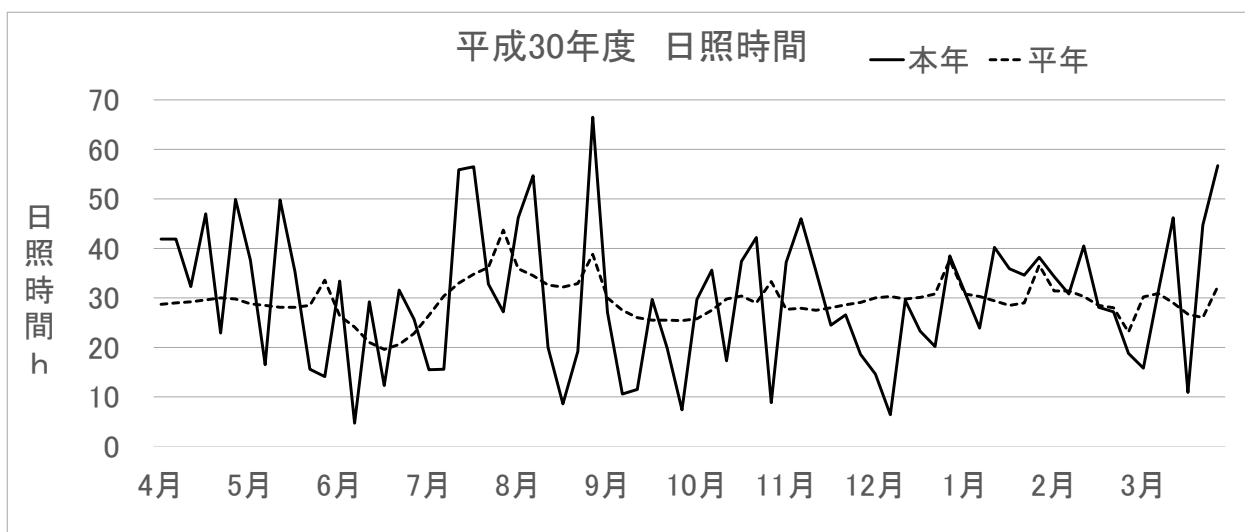
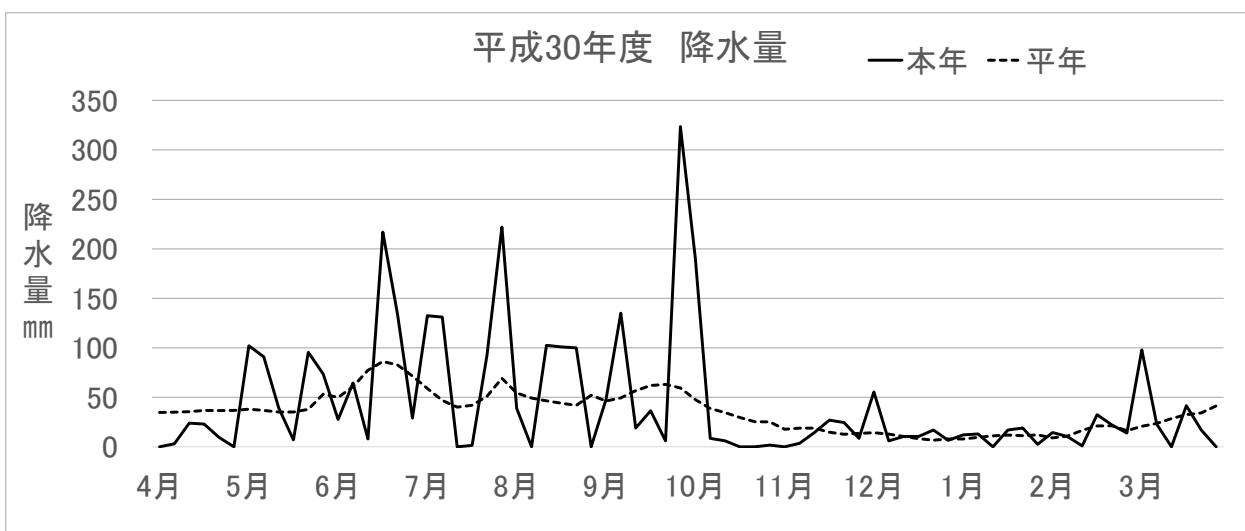
県内各地の月平均気温は平年差+0.9℃～+2.1℃で全ての観測所で平年より高かった。月間降水量は74.5mm～256.0mmで平年より多く、古江、小林では平年並だった。月間日照時間は平年比69%～90%で平年よりかなり少なく、高千穂、延岡、神門、西米良では平年より少なく、鞍岡では平年並だった。

#### ○3月

上旬と下旬は、高気圧に覆われて晴れた日と、気圧の谷や前線等の影響で曇りや雨の日が短い周期で経過し、中旬は、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多かった。また、10日は低気圧や湿った空気の影響で平野部を中心に大雨となった所があり、月降水量が都農では341.5mmを観測し月降水量の多い方からの3月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.5℃～+1.1℃で平年より高く、古江、西米良では平年並だった。月間降水量は139.0mm～341.5mmの平年並で、北方、延岡、日向、西都、小林、国富、宮崎では平年より多かった。月間日照時間は平年比107%～120%で平年より多く、油津では平年並だった。





宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)